高崎市文化財調査報告書 391 集

中大類金井遺跡 3

－集合住宅の建設に伴う埋蔵文化財発掘調査－

2017
高崎市教育委員会
佐藤哲朗
山下工業株式会社

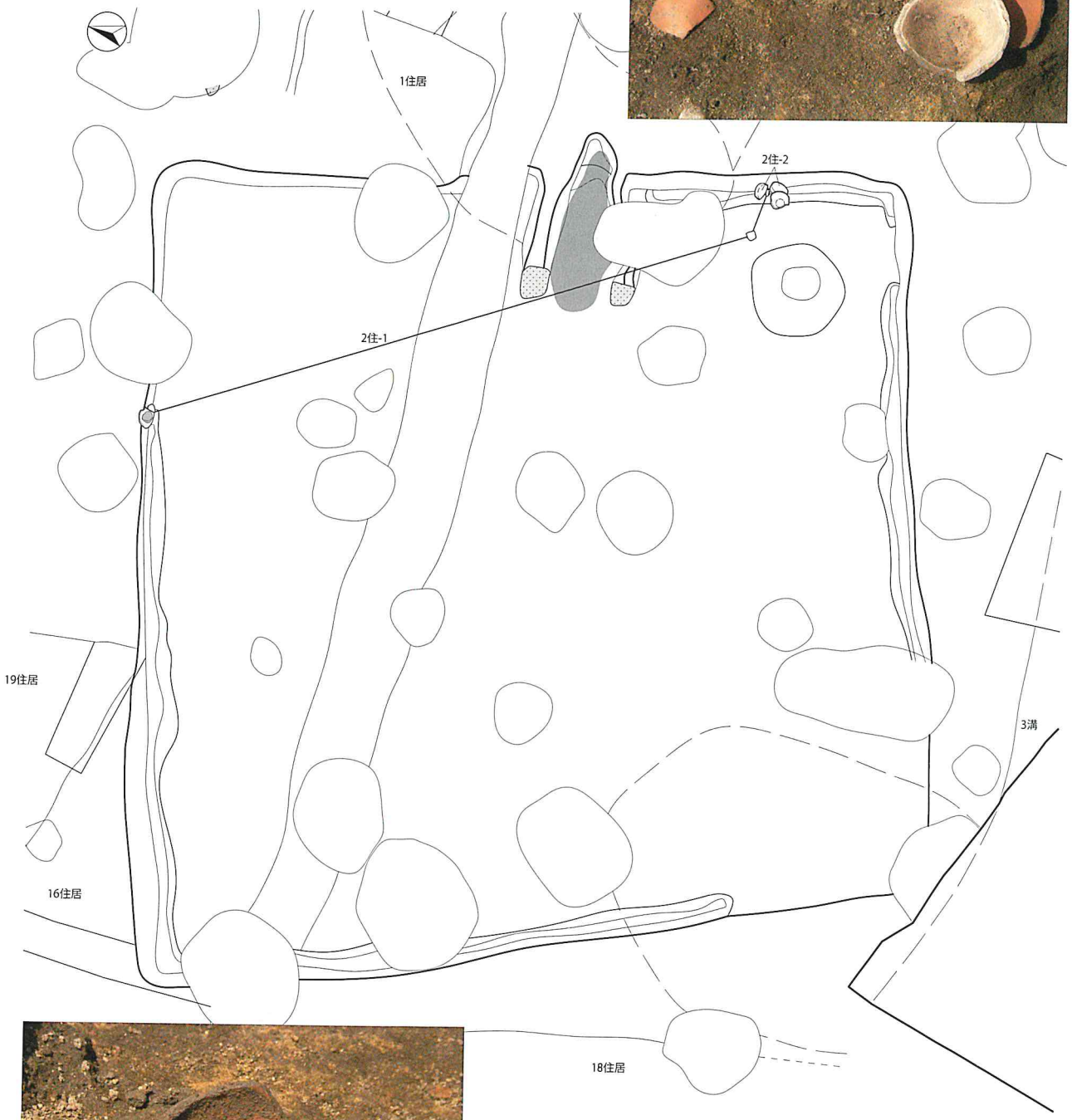
0 1:1 5cm

2号住居跡出土（2住-1）

口絵２

２号住居跡　赤色土塊の入った坏（2住-1）接合状況

赤色土塊が入った土師器の坏片は住居壁際で確認された。一方、カマドの南にある土器集中部から出土し土師器片と接合しほぼ１個体となった。



例　言

1．本書は、佐藤哲朗による集合住宅の建設に伴う中大類金井遺跡３の埋蔵文化財調査報告書である。

2．発掘調査は高崎市教育委員会指導のもと、事業者から委託を受けた山下工業株式会社（代表取締役　山下 尚）が実施し、その費用については事業者が全額負担した。

3．発掘調査の要項は次のとおりである

遺跡所在地	群馬県高崎市中大類町字金井分５０９番３
高崎市遺跡調査番号	６７６
調査面積	１９２．３㎡
期間　【現地調査】	平成 28 年６月 １ 日～平成 28 年７月 15 日
【整　　理】	平成 28 年７月 16 日～平成 29 年３月 31 日
調査担当者	青木利文（山下工業株式会社 文化財事業部 調査技術員）
調査監督員	矢島　浩（高崎市教育委員会 文化財保護課 埋蔵文化財担当係長）

4．整理作業及び本書作成は青木を中心に大谷正芳　谷藤龍太郎　堀地文子　松澤直子（山下工業株式会社）が行った。

5．遺構図作成はタナカ設計（田中隆明）。

6．本書の執筆ついてはⅠ章を矢島、それ以外を青木が行った。
発掘調査資料及び出土遺物は、一括して高崎市教育委員会が保管している。

7．発掘調査及び報告書の作成にあたっては、下記の機関・諸氏からご助言・ご協力を賜った。（五十音順・敬称略）

8．笠原仁史　佐藤富美　澤田福宏　杉山秀宏　谷藤保彦　角田真也　永井智教　中村岳彦　三ツ橋勝
横澤真一

凡　例

1．遺跡、全体図におけるＸ・Ｙ値は、平面直角座標Ⅸ系（世界測地系）の座標値、挿図中の北は座標北である。

2．本報告書で用いる座標値は、全て世界測地系測地成果 2011 である。

3．本報告書においてはＸ＝36140・Ｙ＝69590 を起点とし、任意のグリッドを設定し、大グリッドの 10m グリッドと大グリッドを 25 分割した小グリッドを用いた。

4．遺物注記で用いる遺構等の略称は以下のとおりである。
【住居跡】・・ＳＩ　【土坑】・・ＳＫ　【溝】・・ＳＤ

5．土層における含有物量は、多量（50 ～ 30％）・中量（25 ～ 15％）・少量（10 ～ ５％）微量（１～３％）と表記した。

6．本報告書で用いる遺跡地図・遺構図・遺物実測図等の縮尺はすべてにスケールを表示した。

7．本書掲載の第１図は高崎市発行の 1/2,500「高崎市都市計画基本図」、第２図は国土地理院発行 1/25,000 地形図を用い一部改用した。

8．土器の色調観察は『新版　標準土色帖』（農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修 2011）を用いた。

9．遺物写真については基本的に約１／３を使用したが、甕類・羽釜については１／４、管玉は１／１を使用した。

目　次

例言

凡例

目次

第Ⅰ章　調査に至る経緯……1
第Ⅱ章　周辺の地形と遺跡……2
第Ⅲ章　調査の概要……3
　1　調査の方法……3
　2　グリッドの設定……3
　3　調査の経過……3
　4　確認された遺構と基本層序……3
第Ⅳ章　確認された遺構と遺物……5
　1　住居跡……5
　2　土坑……20
　3　焼土遺構……24
　4　溝……24
　5　遺構外遺物……26
第Ⅴ章　まとめ……30
　1　2号住居跡出土の赤色粘土塊について……30
　2　住居跡の年代……30
　3　周辺の遺跡……31
　4　総括……31

写真図版

報告書抄録

挿図目次

第1図　中大類金井遺跡3位置図……1
第2図　周辺の遺跡……2
第3図　グリッド設定……3
第4図　中大類金井遺跡3全体図……4
第5図　住居跡概略図……5
第6図　1号住居跡平面図・断面図・カマド……6
第7図　1号住居跡出土遺物（その1）……6
第8図　1号住居跡出土遺物（その2）……7
第9図　2号住居跡平面図・断面図……7
第10図　2号住居跡カマド平面図・断面図……8
第11図　2号住居跡出土遺物……8
第12図　8号住居跡出土遺物……8
第13図　8号住居跡平面図・断面図……8
第14図　21号住居跡平面図・断面図……9
第15図　21号住居跡出土遺物……9
第16図　4号住居跡平面図・断面図・カマド……9
第17図　4号住居跡出土遺物……9
第18図　22号住居跡平面図・断面図……10
第19図　16号住居跡出土遺物……10
第20図　16号住居跡平面図・断面図……10
第21図　19号住居跡出土遺物……10
第22図　19号住居跡平面図・断面図……10
第23図　3号住居跡出土遺物……11
第24図　20号住居跡出土遺物……11
第25図　3号・20号住居跡平面図・断面図……11
第26図　5号住居跡平面図・断面図・カマド……11
第27図　5号住居跡カマド平面図・断面図……12
第28図　5号住居跡出土遺物……12
第29図　9号住居跡平面図・断面図・カマド……12
第30図　9号住居跡出土遺物……12
第31図　13号住居跡平面図・断面図・カマド……13
第32図　13号住居跡出土遺物……13
第33図　15号住居跡平面図・断面図……13
第34図　15号住居跡出土遺物……14
第35図　11号・14号住居跡平面図・断面図・カマド……14
第36図　11号住居跡出土遺物……15
第37図　12号住居跡平面図・断面図・カマド……15
第38図　12号住居跡出土遺物……16
第39図　6号住居跡平面図・断面図・カマド……16
第40図　6号住居跡出土遺物……16
第41図　23号住居跡出土遺物……17
第42図　23号住居跡平面図・断面図……17
第43図　10号住居跡出土遺物……17
第44図　10号住居跡平面図・断面図……17
第45図　24号住居跡出土遺物……17
第46図　24号住居跡平面図・断面図……18
第47図　25号住居跡平面図・断面図・カマド……18
第48図　25号住居跡出土遺物……18
第49図　7号住居跡出土遺物……19
第50図　7号住居跡平面図・断面図……19
第51図　18号住居跡平面図・断面図……19
第52図　26号住居跡平面図・断面図……20
第53図　26号住居跡出土遺物……20
第54図　3・4・99・34・37・69・70号土坑平面図・断面図……20
第55図　土坑出土遺物……20
第56図　土坑配置図……23
第57図　焼土遺構平面図・断面図……24
第58図　1号・2号・3号溝平面図・断面図……25
第59図　遺構外遺物……26
第60図　中大類金井遺跡3と黒井峯遺跡出土の土師器坏……30
第61図　住居跡の変遷……30
第62図　中大類金井の遺跡……30

挿表目次

第1表　作業経過……3
第2表　土坑標高・深度・覆土表……21
第3表　遺物観察表……26
第4表　住居跡の年代……30

写真図版目次

図版1
1．調査区全景　南から
2．1号住居跡　西から
3．1号住居跡カマド遺物出土状況　西から
4．1号住居跡遺物集中部　西から
5．1号住居跡カマド　西から

図版2
1．2号住居跡　西から
2．1号住居跡出土遺物　西から
3．2号住居跡カマド　西から
4．8号住居跡　西から
5．21号住居跡　西から
6．4号住居跡　西から
7．4号住居跡遺物出土状況　西から
8．22号住居跡床面の炭範囲　西から

図版3
1．16号・17号住居跡　西から
2．3号住居跡　南から
3．5号住居跡　西から
4．5号住居跡遺物出土状況　近接
5．5号住居跡カマド　西から
6．9号住居跡　西から
7．9号住居跡カマド遺物出土状況　東から
8．9号住居跡カマド　東から

図版4
1．13号住居跡　西から
2．13号住居跡遺物出土状況　西から
3．13号住居跡遺物集中部　直上から
4．15号住居跡　西から
5．11号住居跡　西から
6．11号住居跡カマド天井部　西から
7．11号住居跡カマド　西から
8．15号住居跡カマド　西から

図版5
1．12号住居跡遺物出土状況　西から
2．12号住居跡カマドと12号土坑の切り合い　西から
3．6号住居跡北部　南から
4．6号住居跡カマド　東から
5．23号住居跡床面の残存　西から
6．10号住居跡　西から
7．24号住居跡　西から
8．24号住居跡カマド　西から

図版6
1．25号住居跡　西から
2．25号住居跡カマド天井部　直上から
3．7号住居跡掘方　西から
4．3号土坑遺物出土状況　西から
5．34号土坑　東から
6．1号・2号溝　東から
7．3号溝　西から
8．3号溝底面確認トレンチ　南から

図版7　出土遺物写真

図版8　出土遺物写真

図版9　出土遺物写真

図版10　出土遺物写真

第Ⅰ章　調査に至る経緯（第１図）

平成 27 年９月、開発事業者 佐藤哲朗氏から、高崎市中大類町において計画している集合住宅建設に先立つ埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課（以下市教委と略）にあった。該当地は周知の埋蔵文化財包蔵地である中大類金井遺跡内に所在するため、工事に際しては協議が必要である旨を回答した。同年９月 29 日には市教委へ埋蔵文化財試掘（確認）調査依頼書が提出され、同年 10 月 19 日に試掘（確認）調査を実施した。その結果、古墳時代の竪穴建物を確認した。この結果をもとに開発者と市教委で協議したが現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。なお遺跡名は「中大類金井遺跡３」とした。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要項」に順じ、平成 28 年５月 23 日に開発事業者 佐藤哲朗氏と民間調査機関 山下工業株式会社・市教委の三者協議を締結、平成 28 年５月 27 日に開発事業者 佐藤哲朗氏と民間調査機関 山下工業株式会社との間で契約を締結し、調査の実施にあたって市教委が指導・監督をすることとなった。

第１図　中大類金井遺跡３ 位置図

第Ⅱ章　周辺の地形と遺跡（第２図）

中大類金井遺跡３は高崎市街中心地から東に約４kmの中大類町にある。地形的には榛名山南麓の相馬ヶ原扇状地から続く前橋台地の南東部にある。この前橋台地は更新世後期の浅間山火山の山体崩落に伴う前橋泥流を基層としており、台地の中央を流れる井野川によって二分され、井野川以南の烏川との間は特に高崎台地と呼ばれている。高崎台地を井野川が開析した谷底低地である井野川低地帯には高崎泥流堆積物層がさらに覆っている。井野川低地帯の高崎泥流層上面は、西南西から東南東にゆるく傾斜し、井野川や支流河川の洪水により自然堤防と後背湿地とが錯綜している。本遺跡は井野川右岸の井野川低地帯の範囲に該当し、さらに高崎泥流層上面の自然堤防上にある。遺跡周辺は井野川本流へは500mと近く、支流の一貫堀川や小規模河川に深い谷地形が作り出され、起伏の激しい複雑な地形となる。本遺跡は南約60mには一貫堀川の旧河道であった谷があり、北約100mにも小河川による谷となり、両谷に挟まれた台地状の地形に立地する。隣接する中大類金井遺跡(2)、および中大類金井分遺跡(3)では古墳時代と平安時代の住居跡が確認されているほか縄文時代の土器と石器が確認されている。

縄文時代の遺跡としては万相寺遺跡(14)、高崎情報団地Ⅱ遺跡(13)など中期～後期の集落がある。

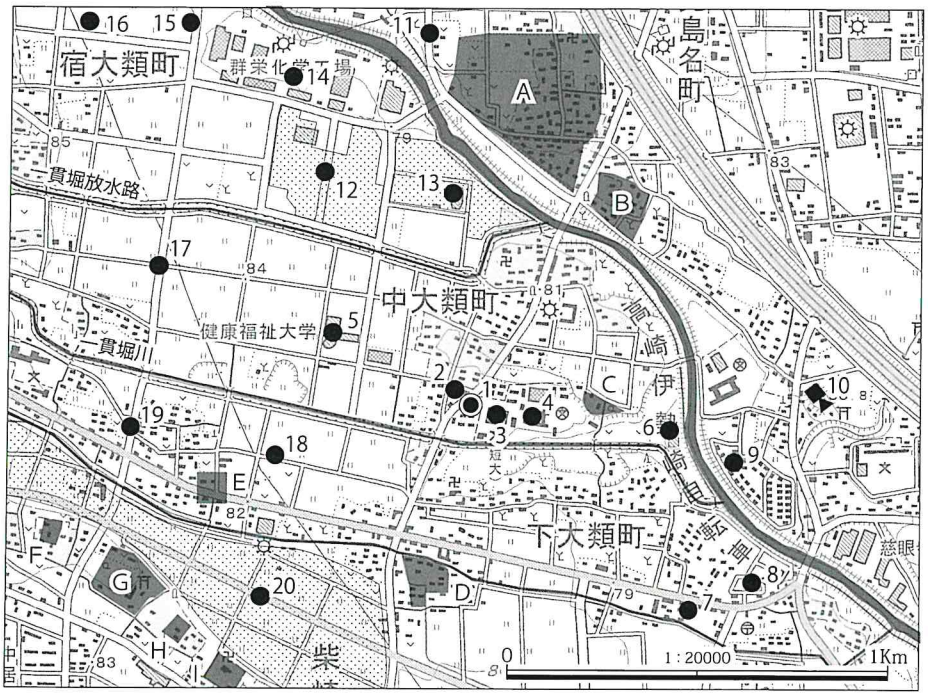
弥生時代では元島名遺跡(11)が中期～後期の集落で、万相寺遺跡(14)、高崎情報団地遺跡・同Ⅱ遺跡(12・13)後期の集落や、方形周溝墓が確認されている。

古墳時代では井野川左岸にある前方後方墳の元島名将軍塚古墳(10)がある。また、高崎情報団地遺跡(12)では中期～後期にかけての群集墳が確認されている。一方、古墳時代の集落としては高崎情報団地遺跡・同Ⅱ遺跡(12・13)初期～後期、井野川左岸の元島名下河原遺跡(9)が中期～後期である。

奈良・平安時代では高崎情報団地遺跡・同Ⅱ遺跡(12・13)で集落のほかに古代の道路遺構（東山道）が確認されている。その他の集落遺跡は（6・8・17）などがある。一方、本遺跡の西を中心にＡｓ－Ｂ下水田跡（5・12・13・14・15・16・17・20）が確認されている。

中世には井野川左岸の元島名城（A・B）の城郭のほか、自然堤防や高崎台地上に館・屋敷（C・D・E・F・G・H・I）がある。また発掘では中大類・天田遺跡(4)や山鳥・天神遺跡(16)などで堀や掘立建物跡が確認されている。

1．中大類金井遺跡３
2．中大類金井遺跡
3．中大類金井分遺跡
4．中大類・天田遺跡
5．中大類沖田遺跡
6．中大類輪貝遺跡
7．下大類・中道下遺跡
8．下大類蟹沢遺跡
9．元島名下河原遺跡
10．元島名将軍塚古墳
11．元島名遺跡
12．高崎情報団地遺跡
13．高崎情報団地Ⅱ遺跡
14．万相寺遺跡
15．天神久保遺跡
16．山鳥・天神遺跡
17．南大類東沖・稲荷遺跡
18．柴崎遺跡群Ⅴ
19．柴崎吹手Ｂ・吹手西Ｄ遺跡
20．柴崎遺跡群
A．元島名城
B．元島名内出
C．降照屋敷
D．大類寄居
E．隼人屋敷
F．柴崎西浦屋敷
G．高井屋敷
H．柴崎桜井屋敷
I．光明寺



第２図　周辺の遺跡

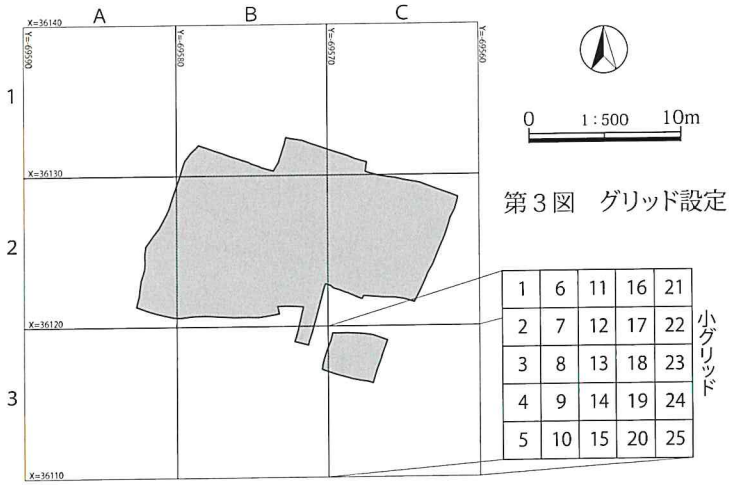
第Ⅲ章　調査の概要

1．調査の方法

本発掘調査は集合住宅建設に伴い実施された。調査区は建物部であるが、建物面積に対し敷地全体の面積が狭く、調査区を反転し調査をおこなった。調査は試掘の結果により遺構が集中する北部と、希薄な南部の南北に分けて反転し、総面積は 192.3㎡となった。調査は遺構の集中する北部から行い、Ⅰ層を重機により除去し、その後、人力による遺構確認を行った。遺構確認の結果は、焼土集中部（カマド）が数カ所で確認された。掘削は、焼土集中部（カマド）の周辺にトレンチ掘削および、ベルトを残し人力掘削を行った。出土遺物はカマド内や床面にある遺物を中心に図化を行った。一方、遺物包含層などから出土した遺物は遺構外遺物として扱った。遺構の記録は平面図・断面図はトータルステーションと電子平板を用い作成を行った。なお、断面図については一部、手実測で行っている。遺構の写真は 35㎜モノクロ、カラーリバーサルおよびデジタルカメラを使用した。遺構掘削の完了後には北部および南部の２回に分けて高所作業車により撮影を行った。

2．グリッドの設定（第３図）

調査で用いるグリッドは世界測地系 X＝36140・Y＝69590 を起点とし、10m の大グリッドを設定し、北から南に向かって１～３、西～東に向かってA～Cとした。また、大グリッドは更に 25 分割し、２m の小グリッドを設定した。小グリッドは北東隅から南に向かって１～５列となり、次の６～10 列は東に設定し、順次この原則となる。

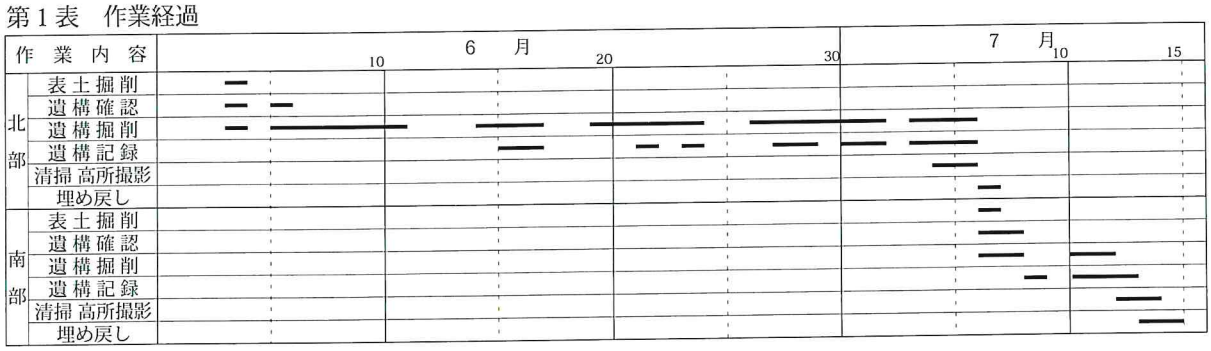


第３図　グリッド設定

3．調査の経過

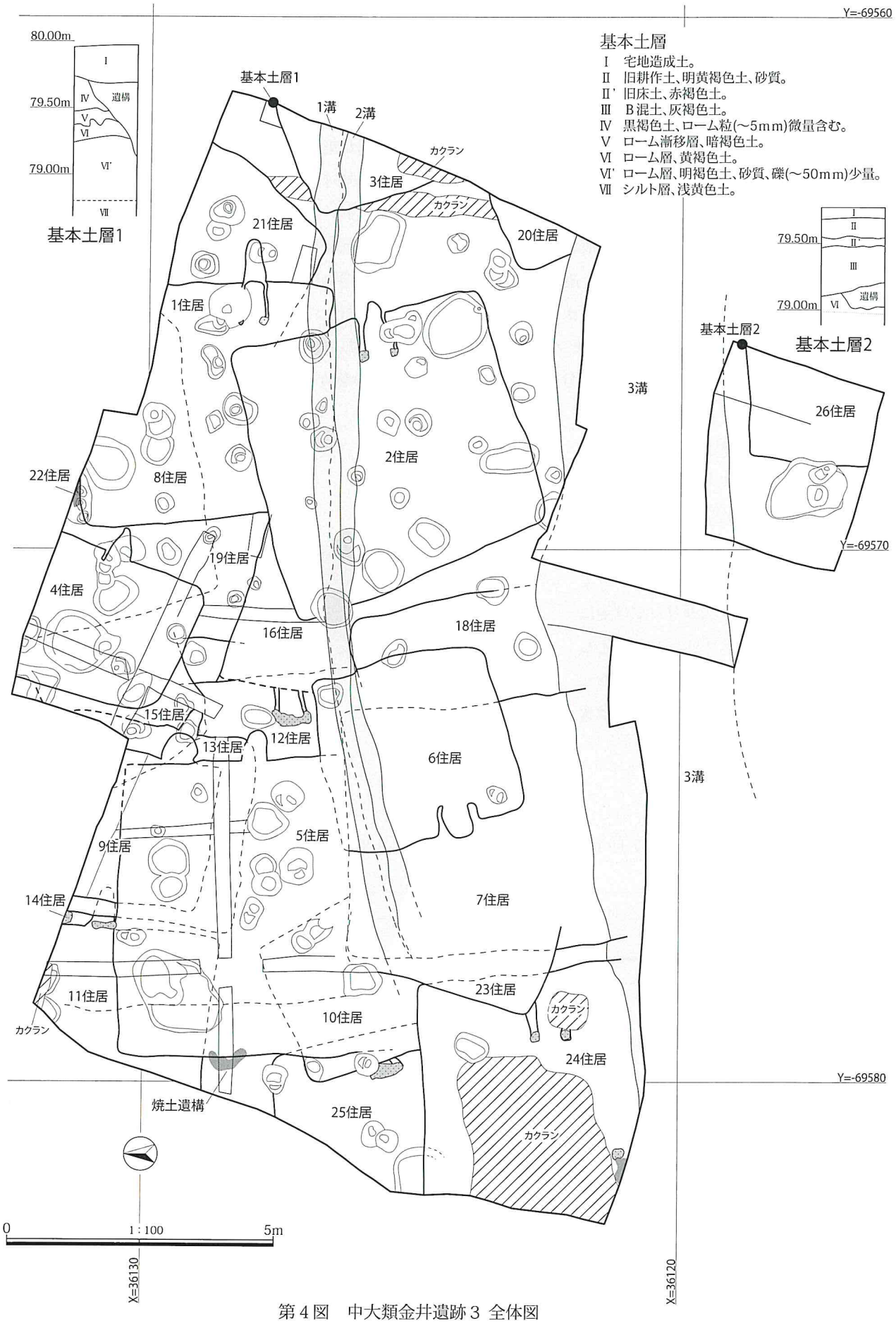
調査は平成 28 年６月１日～７月 15 日まで実施した。詳細は下記の表に示した。

第１表　作業経過



4．確認された遺構と基本層序（第４図）

本遺跡ではほぼ全面が遺構であった。特に北部では住居跡および土坑、溝が確認された。一方、試掘で遺構が希薄とされた南部は中世段階で埋没した３号溝に壊されたものであった。基本層序は調査区東壁の２か所で確認した。基本土層２は３号溝による窪みによりⅢ層（Ａｓ－Ｂ混土）が確認できたが、基本土層１ではⅢ層は確認できず、Ⅱ層・Ⅲ層は削平され、Ⅰ層（造成土）の直下が遺構構築面であったものと見られる。

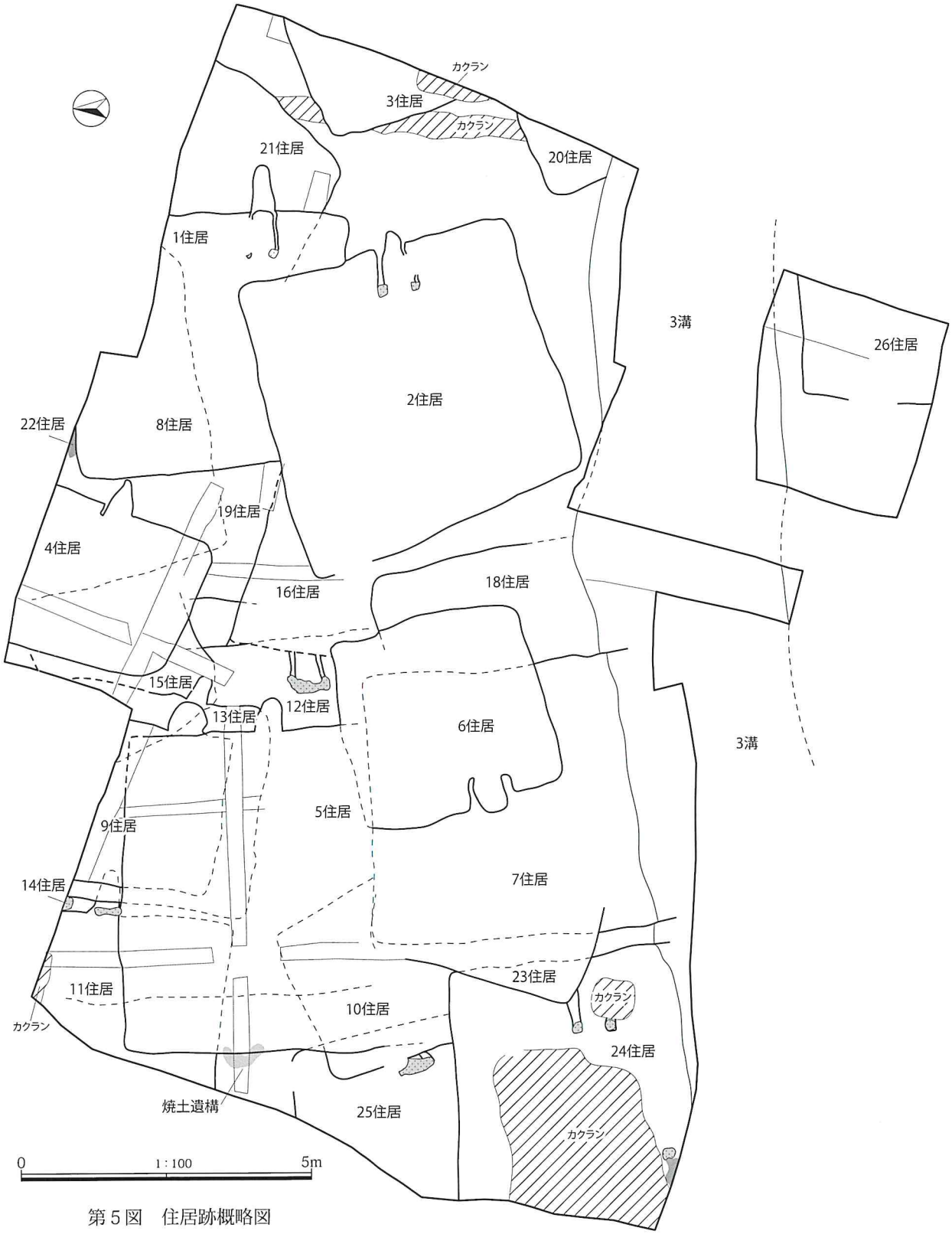


第４図　中大類金井遺跡３ 全体図

第Ⅳ章　確認された遺構と遺物

1．住居跡（第５図）

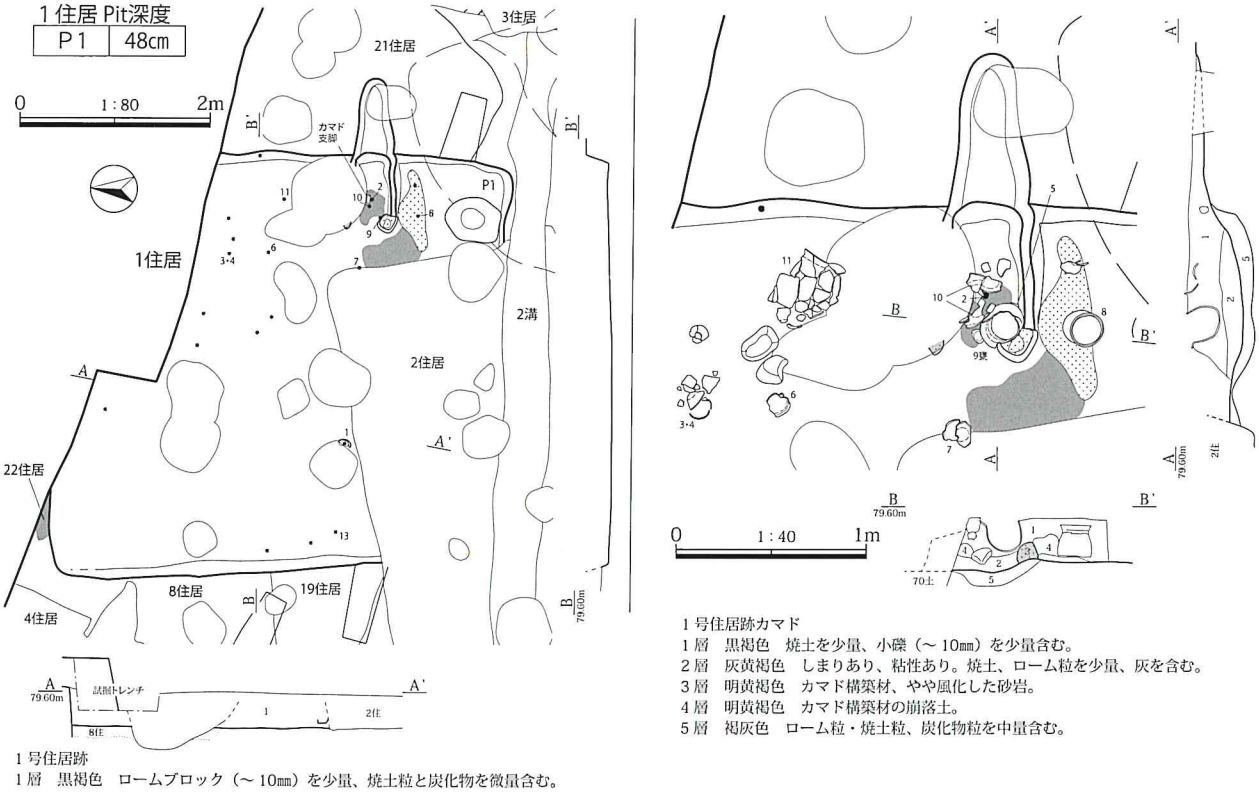
本遺跡においては 25 軒の住居跡が確認された。住居跡は本調査区内のほぼ全面で確認されている。住居跡の年代は古墳時代から平安時代にかけての住居となる。掘削時にはカマドが残る住居跡を新しい遺構として掘削を行ったが、切り合いの間違いや統合による消滅など、整理段階で修正を行った。



第５図　住居跡概略図

1号住居跡　（遺構：第６図、遺物：第７・８図）

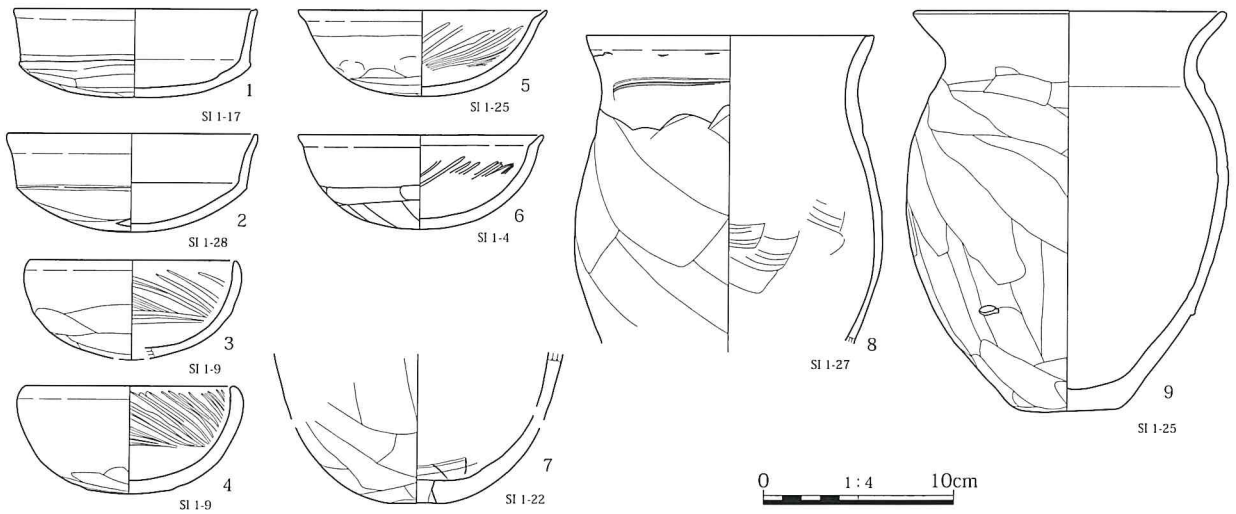
本遺構はＣ１・Ｃ２グリッドにまたがり、北は遺構外となる。形状は方形で南北 4.5m、東西は推定で 4.6m、軸方向は N-88° -E である。床面はおおよそ 79.20m ～ 79.30m 前後となる。重複は２号・４号住居跡に切られ、８号・19 号・21 号住居跡より新しい。土坑は４号・70 号土坑に切られるが、その他の土坑との新旧は不明である。カマドは東の南寄りにあり、70 号土坑により袖の一部が壊されている。袖の先端には黄褐色のやや風化した砂岩を構築材として利用している。カマド内に甕（９・10）が確認され、底面に支脚が１ヵ所確認された。煙道は約 0.8m である。貯蔵穴は南東隅のＰ１が想定される。出土遺物はカマド内と周辺から土師器の坏および甕が出土した。また、床面にも土師器の坏、甕などが確認されている。なお、本遺構は調査時においては２号住居跡より新しい住居として掘削を行ったが、整理の段階で２号住居跡が新しい遺構と認識できたため、本遺構で取り上げた遺物の内、２号住居跡に帰属するものもある。遺構の年代は出土遺物から６世紀前半とみられる。



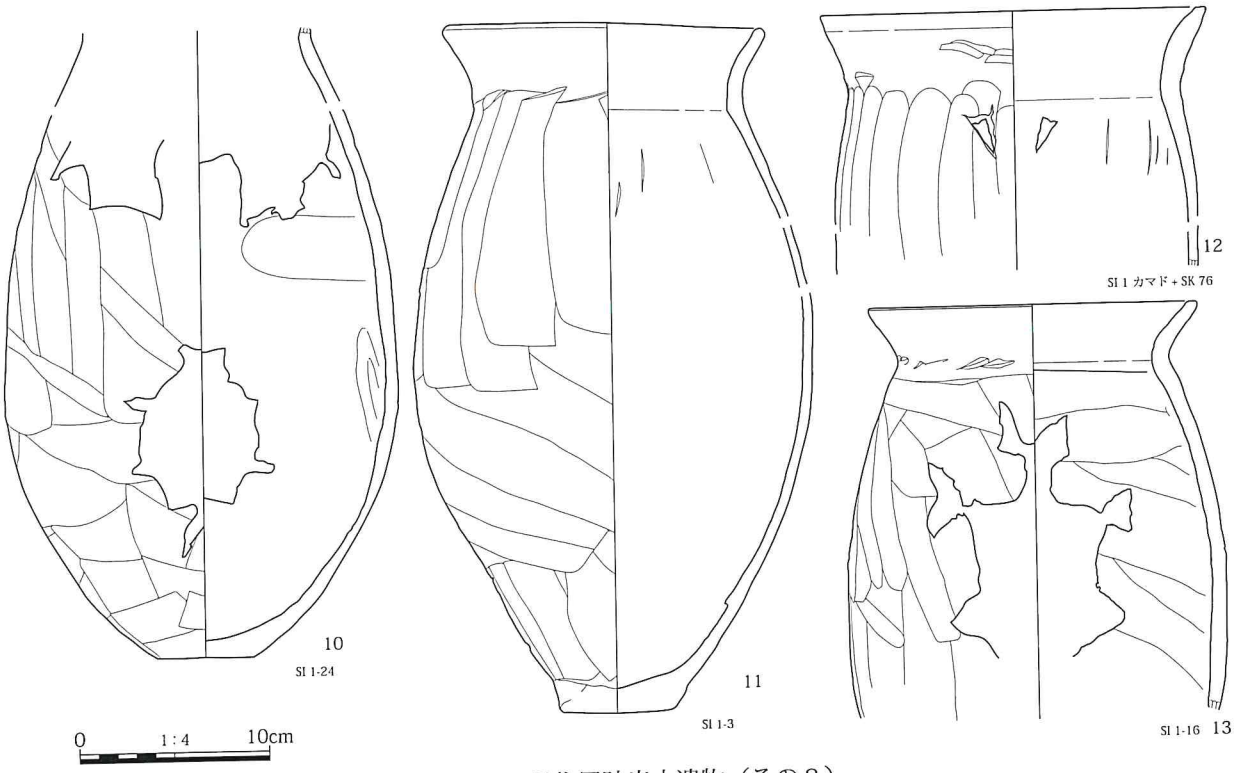
1号住居跡カマド
1層　黒褐色　焼土を少量、小礫（～ 10mm）を少量含む。
2層　灰黄褐色　しまりあり、粘性あり。焼土、ローム粒を少量、灰を含む。
3層　明黄褐色　カマド構築材、やや風化した砂岩。
4層　明黄褐色　カマド構築材の崩落土。
5層　褐灰色　ローム粒・焼土粒、炭化物粒を中量含む。

1号住居跡
1層　黒褐色　ロームブロック（～ 10mm）を少量、焼土粒と炭化物を微量含む。

第６図　１号住居跡平面図・断面図・カマド



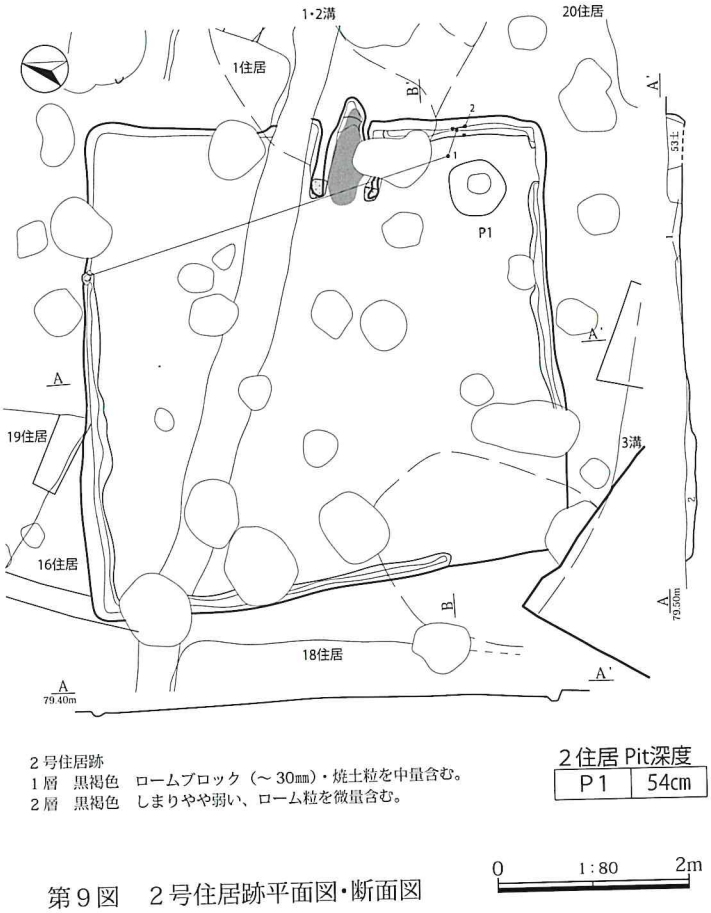
第７図　１号住居跡出土遺物（その１）



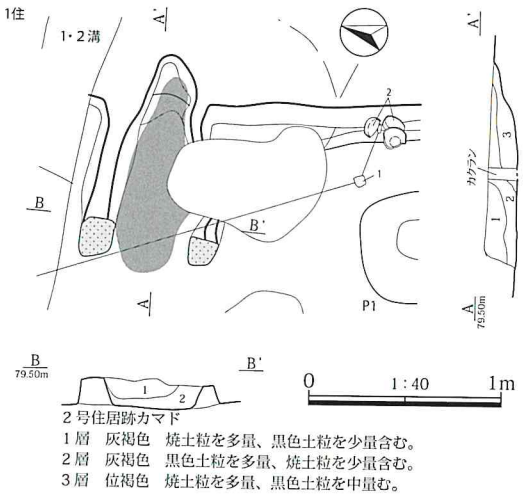
第８図　１号住居跡出土遺物（その２）

２号住居跡　（遺構：第９・10図、遺物：第11図）

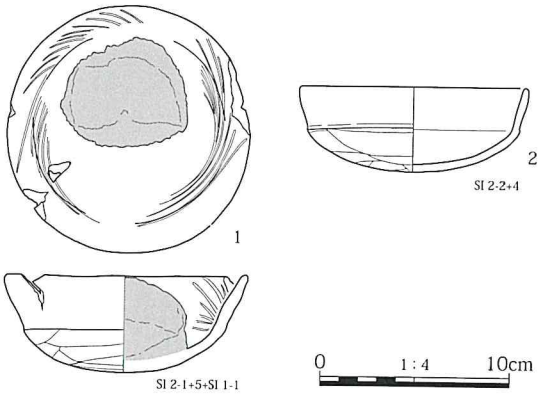
本遺構はＣ２・Ｂ２グリッドにまたがる。形状は方形で東西5.1m、南北5.0m、軸方向はN-74°-Eである。床面はおおよそ79.20～79.30m程度となる。壁際に周溝を伴う。重複は16号住居跡が新しいものと想定され、１号住居跡より新しい。土坑は１号・３号・53号・95号土坑に切られるが、その他の土坑との新旧は不明である。カマドは東にあり、53号土坑により袖の一部が壊されている。袖の先端には１号住居同様に黄褐色のやや風化した砂岩を構築材として利用している。煙道が残り、長さは約0.25mである。貯蔵穴は南東隅のＰ１が想定される。出土遺物はカマドの南脇に土師器の坏および甕底部が集中的に出土した。なお、カマド脇の集中部と北辺の際から赤色の土塊の入った坏（２住-1）と接合したことにより、本遺構が１号住居跡より新しい住居と確定した。なお、調査時には１号住居跡が本遺構より新しいものと想定したため、本遺構内に１号住居跡として取り上げた遺物が存在するが、本遺構に帰属させた。年代は出土遺物から６世紀前半～中頃と考えられる。



第９図　２号住居跡平面図・断面図



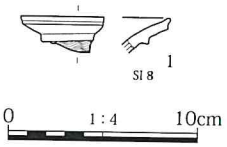
第10図　2号住居跡カマド平面図・断面図



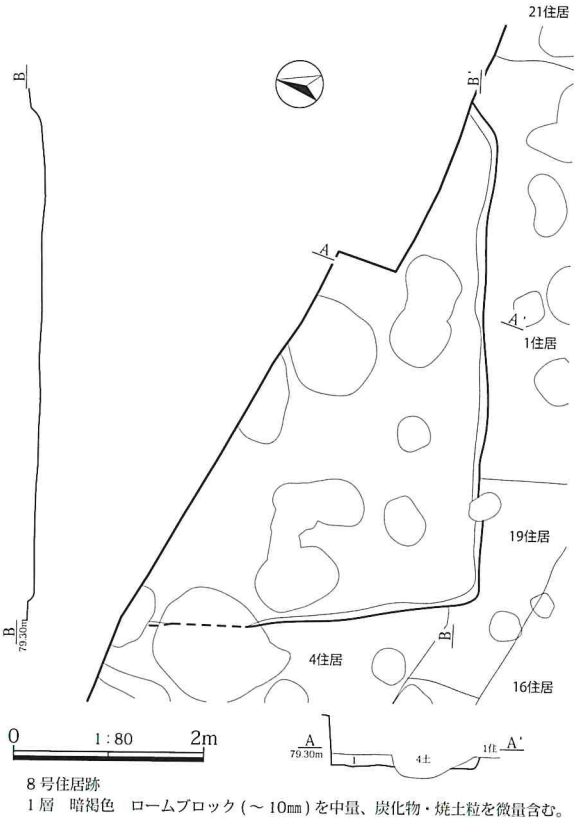
第11図　2号住居跡出土遺物

8号住居跡　（遺構：第13図、遺物：第12図）

本遺構はB1・B2・C1・C2にまたがっており、北の大半は調査区外となる。形状は不明となるが東西5.3m、南北は遺構外に延び、軸方向はN-84°-Eである。床面はおおよそ79.10m前後となる。重複は1号・4号・19号・22号住居跡より古い。土坑は4号・34号・44号・61号・65号・66号・74号・99号土坑に切られるが、その他の土坑との新旧は不明である。カマドなどの施設は現状では確認できず、遺構外にあるものと想定される。出土遺物は覆土から須恵器片などがあった。遺構の年代は1号住居跡より古い。



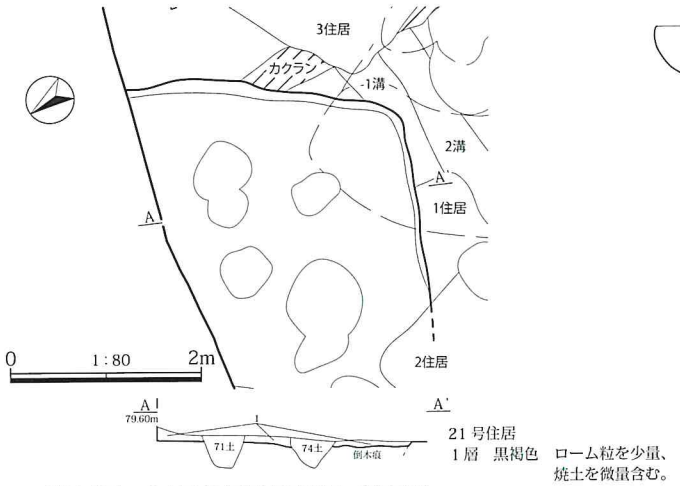
第12図　8号住居跡出土遺物



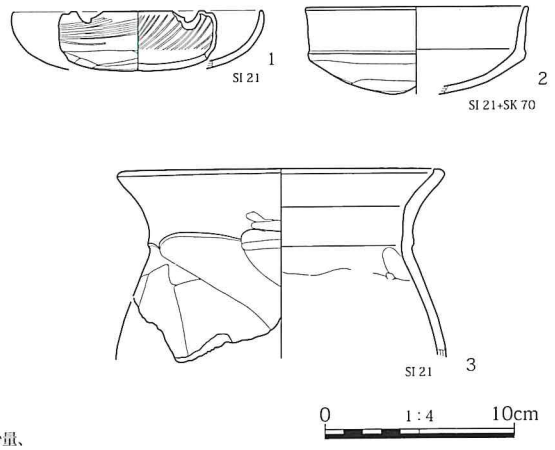
第13図　8号住居跡平面図・断面図

21号住居跡　（遺構：第14図、遺物：第15図）

本遺構はC2グリッドにあり、北半は調査区外で、西は1号住居跡により切られている。形状は不明となり、南北3.0m程度で、軸方向はN-64°-Wである。床面はおおよそ79.20～79.30m前後となる。重複は西にある1号住居跡に切られる。土坑は72号・74号土坑に切られるが、その他の土坑との新旧は不明である。カマドなどの施設は現状では確認できず、遺構外にあるものと想定される。出土遺物は覆土から土師器の坏および甕が出土した。遺構の年代は1号住居より古く、出土遺物は6世紀前半とみられる。



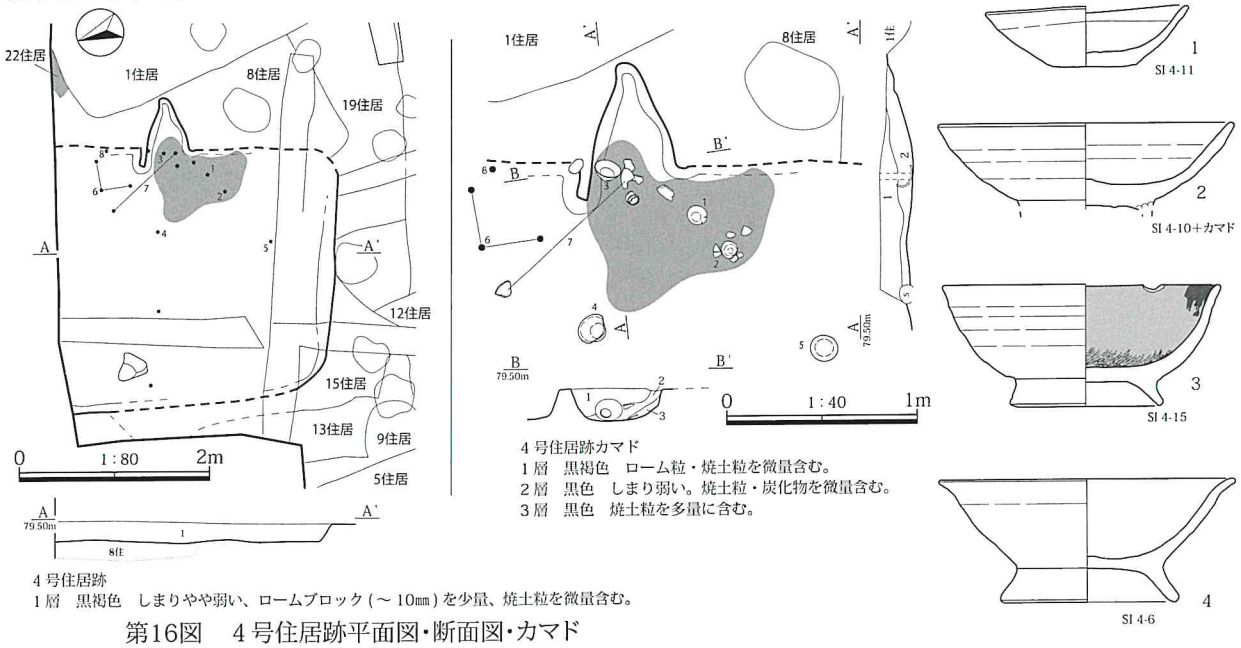
第14図　21号住居跡平面図・断面図



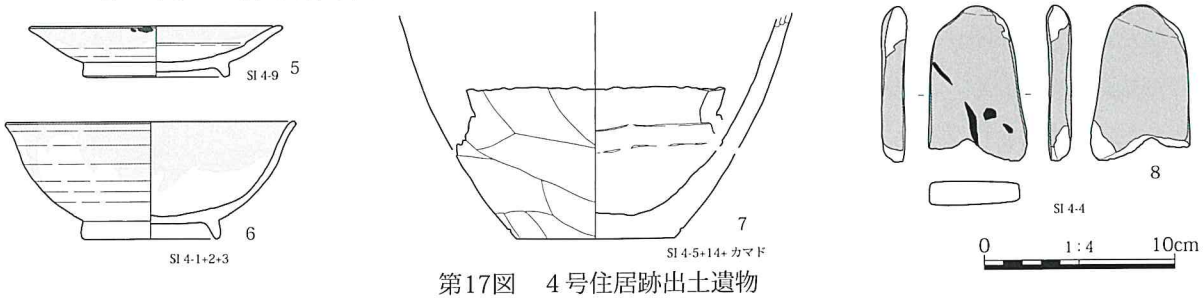
第15図　21号住居跡出土遺物

4号住居跡　（遺構：第16図、遺物：第17図）

本遺構はＢ１・Ｂ２グリッドにまたがり、北は調査区外となる。形状は長方形と推定でき東西で約3.0m、南北は不明となるが、軸方向はN-109°-Eである。床面はおおよそ79.25m前後で、22号住居跡と同じ高さであった。重複は8号・15号・19号・22号住居より新しい。また、遺構範囲内に複数の土坑が確認されるが、これらは本遺構より古いものと考えられる。カマドは東にあり壁外に出ており、長さは約55cmである。また底面には炭が集中し、須恵器の坏および碗などが出土した。出土遺物はカマドおよび周辺の床面より須恵器の坏、高台付碗、土釜あるいは羽釜の底部、灰釉陶器の碗と段皿などが確認された。遺構の年代は出土遺物から10世紀後半とみられる。



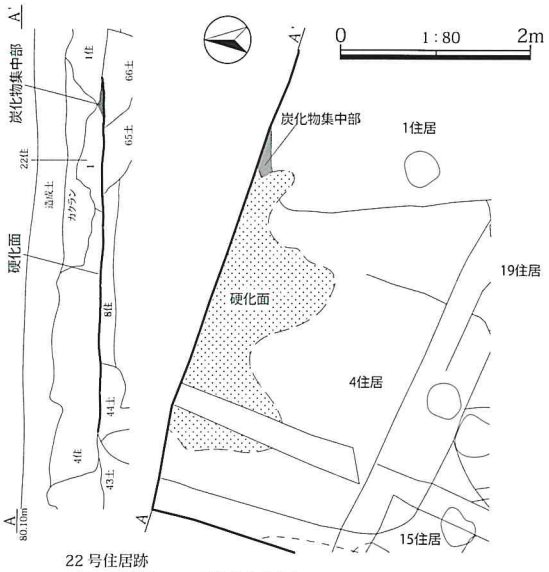
第16図　4号住居跡平面図・断面図・カマド



第17図　4号住居跡出土遺物

22 号住居跡　（遺構：第 18 図）

本遺構はＢ１・Ｃ１グリッドにまたがる。遺構はやや硬化した平坦面と炭・焼土の集中部から住居跡と想定した。形状は不明である。床面はおおよそ 79.25m 程度となる。重複は 4 号住居跡に切られ、8 号住居跡より新しい。土坑は範囲内で 34 号・44 号・61 号・65 号・66 号・79 号土坑などが確認されたが本遺構はこれらより新しい。本遺構はやや硬化した平坦面と炭・焼土の集中部から住居跡と想定した。平坦面は 4 号住居跡の床面とほぼ同じ標高値であったが、4 号住居跡の範囲外に広がり、東にある炭や焼土の集中部にまで達する。本遺構はこの炭・焼土の集中部と平坦面から住居跡とした。なお、出土遺物はなく、遺構の年代は不明である。

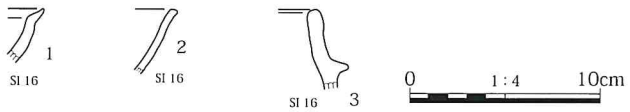


22 号住居跡
1 層　暗褐色　ローム粒を少量含む。

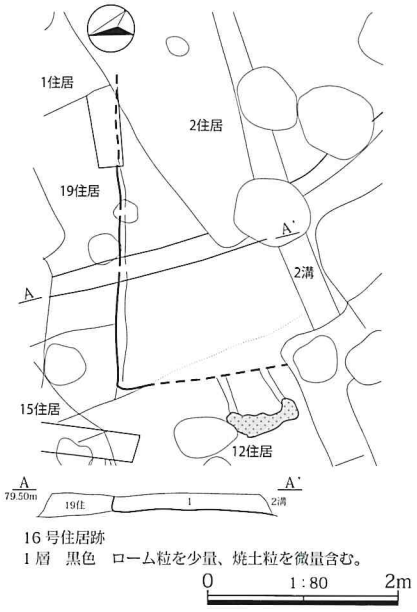
第18図　22号住居跡平面図・断面図

16 号住居跡　（遺構：第 20 図、遺物：第 19 図）

本遺構はＢ２グリッドにある。形状は不明で北壁のみが確認された。床面はおおよそ 79.30m 程度の平坦面となる。重複は 19 号住居跡を切っている。6 号住居跡については新旧不明である。このほか 24 号土坑より新しいが、42 号土坑は新旧不明である。出土遺物は覆土より土師器の坏、須恵器の碗、羽釜などが確認されている。本住居は北壁と平坦面が確認され住居跡として扱った。出土遺物は 2 号・12 号住居跡より新しいものと想定され、新旧を誤って掘削した可能性が高い。よって遺構の西部と南部の形状は不明となった。遺構の年代は出土遺物から 10 世紀後半とみられる。



第19図　16号住居跡出土遺物

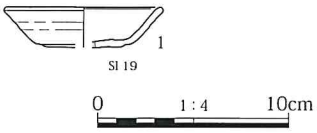


16 号住居跡
1 層　黒色　ローム粒を少量、焼土粒を微量含む。

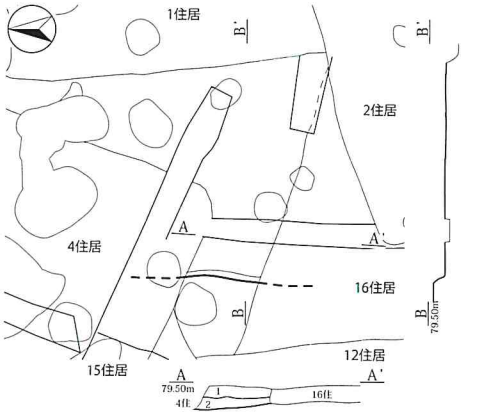
第20図　16号住居跡平面図・断面図

19 号住居跡　（遺構：第 22 図、遺物：第 21 図）

本遺構はＢ２・Ｃ２グリッドにまたがる。形状は不明で西壁のみが確認された。床面はおおよそ 79.30m 程度の平坦面である。重複は 4 号・16 号住居跡に切られ、1 号・8 号住居跡より新しいものと想定される。このほかに範囲内で土坑が複数確認されたが新旧は不明である。出土遺物は覆土から須恵器の坏などが確認されている。本遺構は西壁と平坦面から住居跡として扱った。遺構の年代は出土遺物から 10 世紀後半とみられる。



第21図　19号住居跡出土遺物

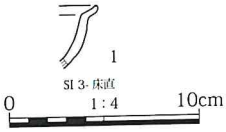


19 号住居跡
1 層　黒褐色　ローム粒・炭化物を少量含む。
2 層　黒色　ローム粒を微量含む。

第22図　19号住居跡平面図・断面図

3号住居跡（遺構：第25図、遺物：第23図）

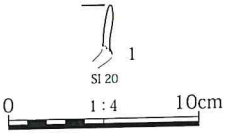
3号住居跡はＣ２グリッドにある。形状は北西隅のみ確認でき、大半は調査区外となるため全体の規模は不明であるが軸方向はN-66°-Eである。床面はおおよそ79.20m程度となる。重複は中世・近世の溝に切られるが、その他の遺構との切り合いはない。出土遺物は覆土から土師器の坏片などがあり、6世紀代とみられる。



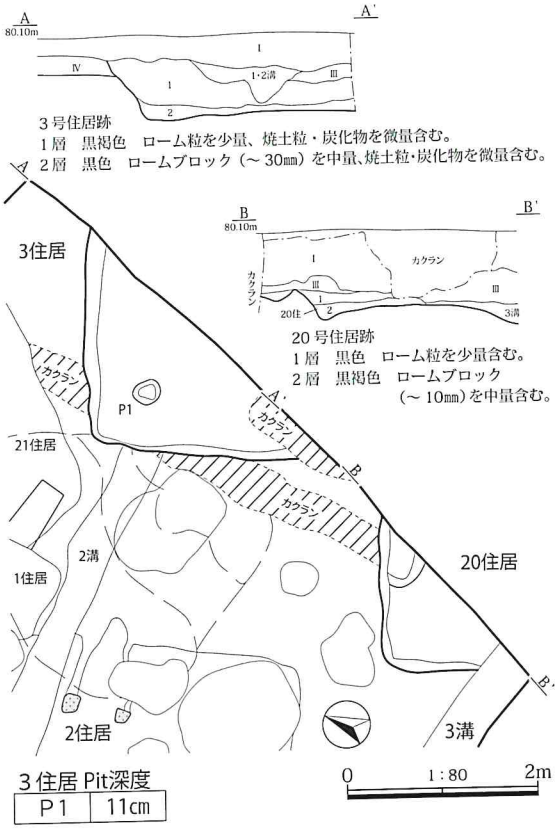
第23図　3号住居跡出土遺物

20号住居跡（遺構：第25図、遺物：第24図）

20号住居跡はＣ２グリッドにある。形状は北西隅のみ確認でき、大半は調査区外となるため全体の規模は不明であるが軸方向はN-66°-Eである。床面はおおよそ79.20m程度となる。重複は中世とみられる3号溝に切られるが、その他の遺構との切り合いはない。出土遺物は覆土から土師器の坏片などがあり、6世紀代とみられる。



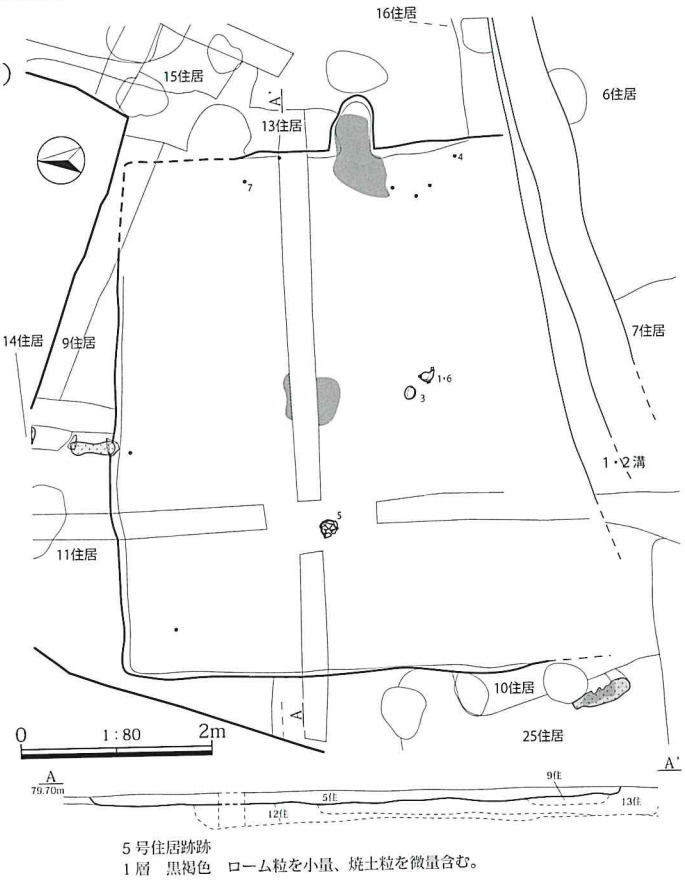
第24図　20号住居跡出土遺物



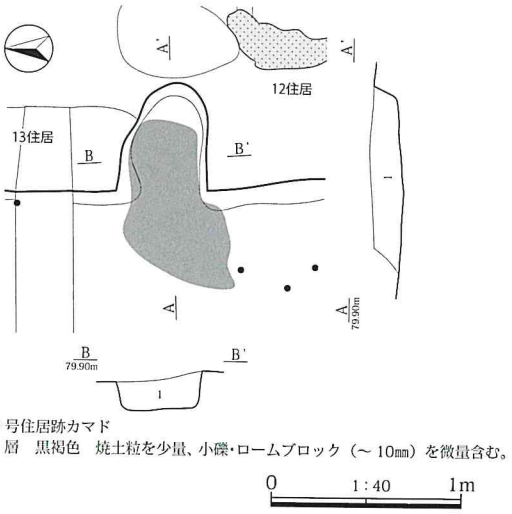
第25図　3号・20号住居跡平面図・断面図

5号住居跡（遺構：第26・27図、遺物：第28図）

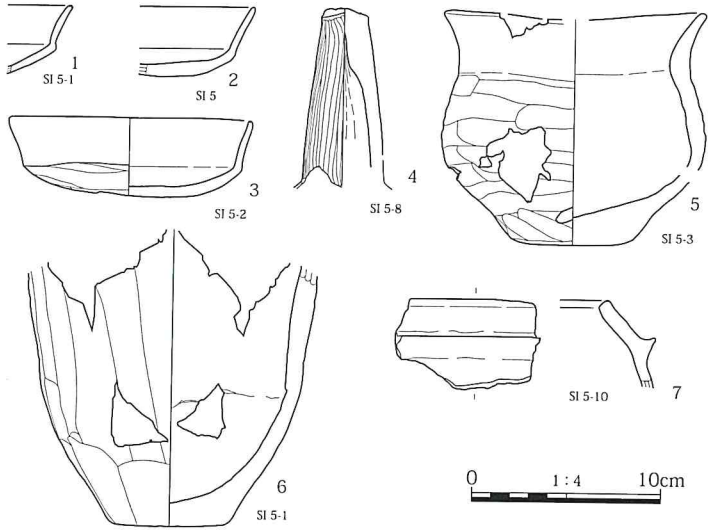
本遺構はＢ１・Ｂ２グリッドにまたがる。形状は方形と推定され東西5.5mで、南側は1号・2号溝に切られ、遺構の西部は不明となるが軸方向はN-89°-Eである。床面はおおよそ79.45m程度となる。重複は6号・9号・10号・11号・12号・13号・14号住居跡より新しい。カマドは東にあり、燃焼部は遺構壁外に出ており、長さは55cmほどである。また、カマド底面には炭と焼土の集中部があった。出土遺物は床面より古墳時代の土師器の坏および小壺、その他に、羽釜の口縁部片が確認された。本遺構は本遺跡内で最大の住居となった。床面は東のカマド燃焼部から広がる平坦面が確認でき、これを遺構の範囲とした。また、遺構範囲内にある9号・13号住居跡などを切る新しい住居跡とみなした。ただし、出土遺物は同一の床面から古墳時代の坏、小壺などもあり、異なる時代の住居跡を5号住居跡として掘削した可能性がある。



第26図　5号住居跡平面図・断面図・カマド



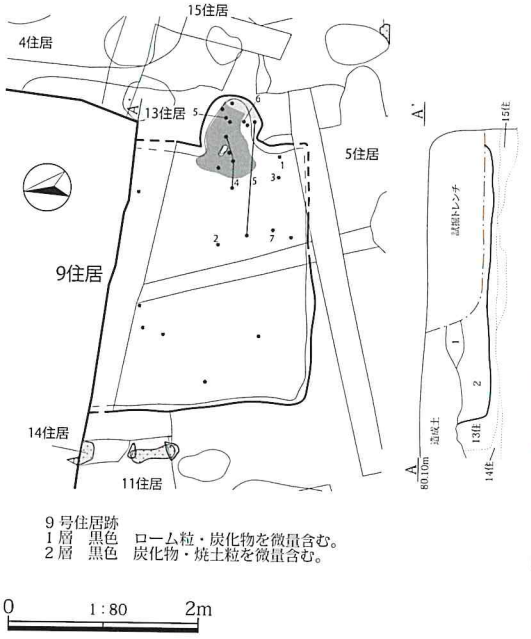
第27図　5号住居跡カマド平面図・断面図

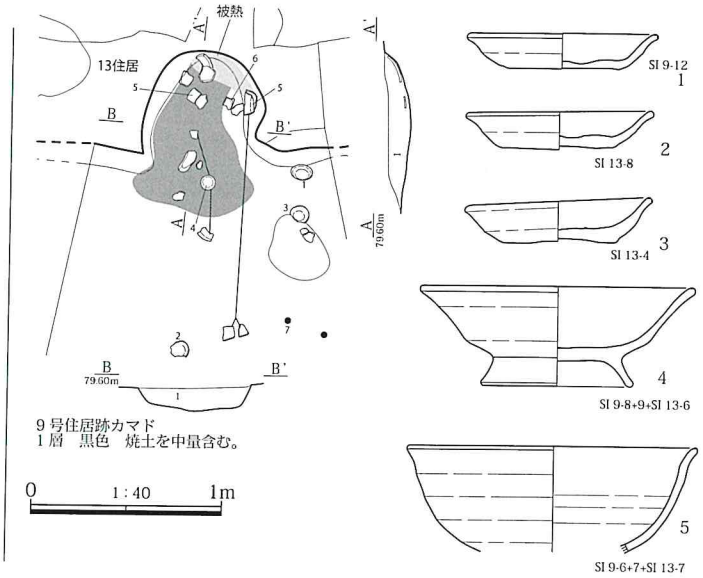


第28図　5号住居跡出土遺物

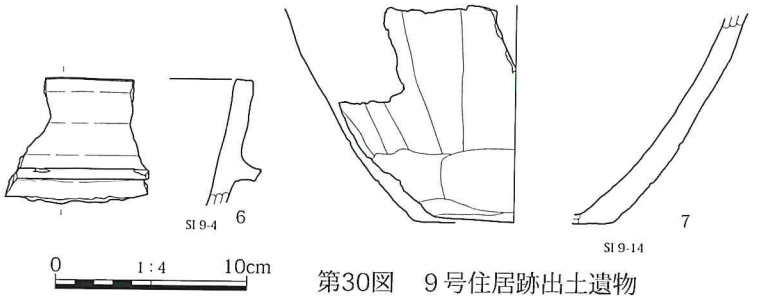
9号住居跡　（遺構：第29図、遺物：第30図）

本遺構はＢ１・Ｂ２グリッドにまたがり、北は遺構外となる。形状は方形と推定され東西2.8m、南北は不明であるが、軸方向はN-101°-Eである。床面はおおよそ79.40m程度となる。重複は5号住居跡に切られ、13号住居跡より新しい。このほか範囲内では複数の土坑が確認されたが、本遺構より古い遺構となる。カマドは東の南寄りにあり、燃焼部は遺構壁外に出ており、長さは50cmである。またカマド底面に炭と焼土の集中部と支脚が1ヵ所確認された。出土遺物はカマド内およびカマド周辺から酸化焼成須恵器の皿、坏、羽釜などが出土した。遺構の年代は羽釜の出土や遺構の切り合いなどから11世紀前半とみられる。





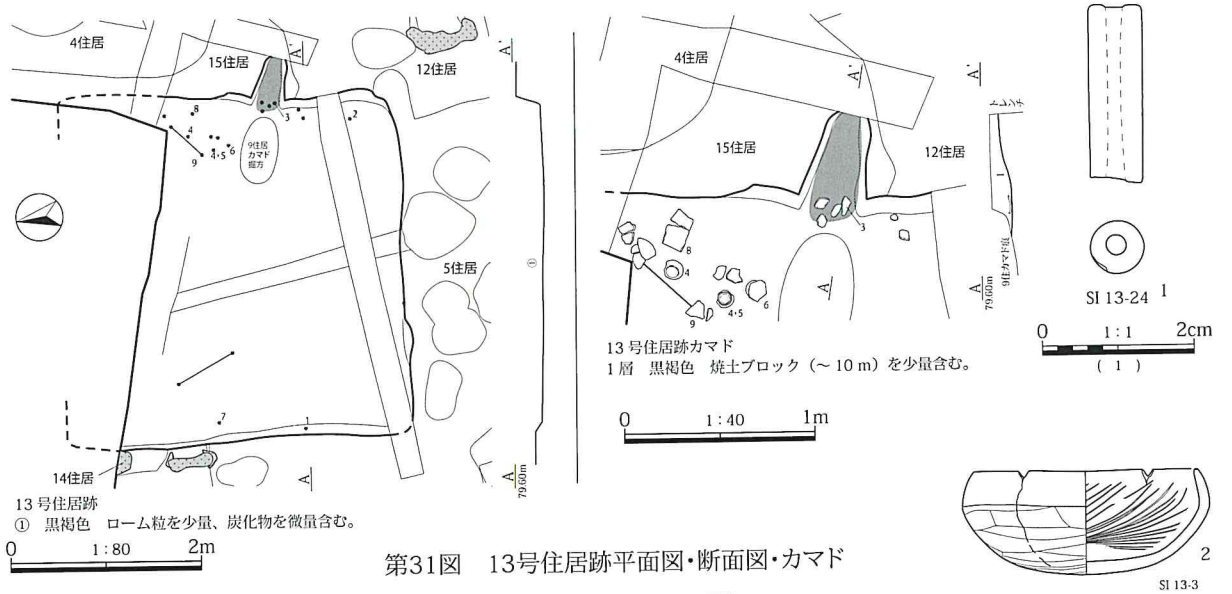
第29図　9号住居跡平面図・断面図・カマド



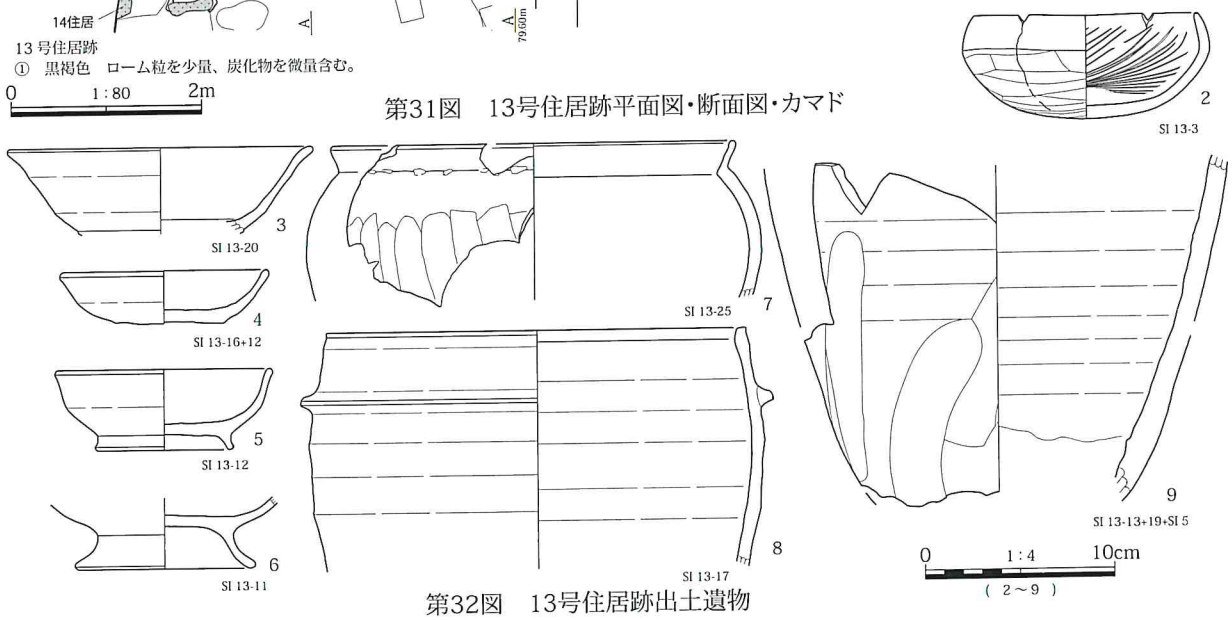
第30図　9号住居跡出土遺物

13 号住居跡　（遺構：第 31 図、遺物：第 32 図）

本遺構はＢ１・Ｂ２グリッドにまたがり、北は調査区外である。形状は方形と推定され東西 3.7m、南北は不明であるが、軸方向は N-98° -E である。床面はおおよそ 79.30m 程度となる。重複は５号・９号住居跡に切られ、11 号・15 号住居跡より新しい。カマドは東にあり、燃焼部は壁外に出ており、端部は確認トレンチにより壊されている。また底面に炭が集中する。出土遺物はカマド周辺から須恵器の坏および碗、羽釜が出土した。遺構の年代は出土遺物から 10 世紀後半とみられる。



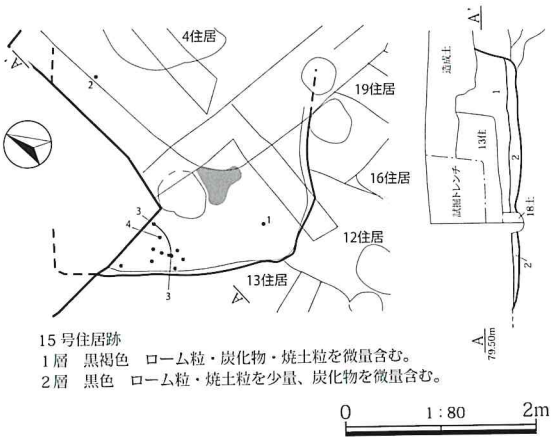
第31図　13号住居跡平面図・断面図・カマド



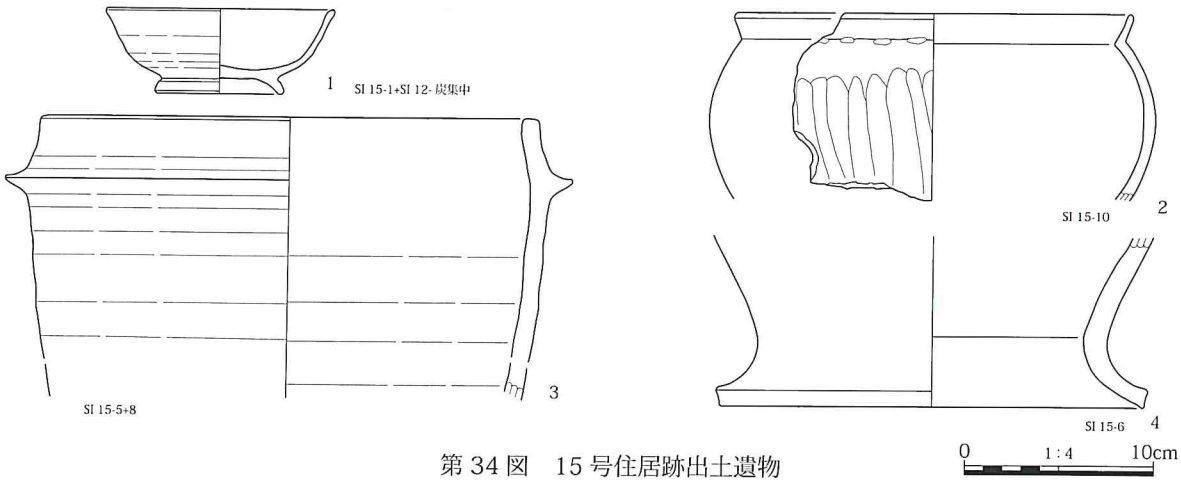
第32図　13号住居跡出土遺物

15 号住居跡　（遺構：第 33 図、遺物：第 34 図）

本遺構はＢ１・Ｂ２グリッドにまたがり、北は調査区外で、東は４号住居跡に切られる。遺構形状は南壁と東壁が確認され、南北は推定値で 2.7m 程度となった。軸方向は N-64 ° -E である。床面はおおよそ 79.20m 前後となる。重複は４号・13 号住居跡に切られ、12 号住居跡より新しい。このほか 18 号土坑にも切られる。出土遺物は床面から須恵器の碗、羽釜、甑などが出土した。遺構の年代は出土遺物から 10 世紀後半とみられる。



第33図　15号住居跡平面図・断面図



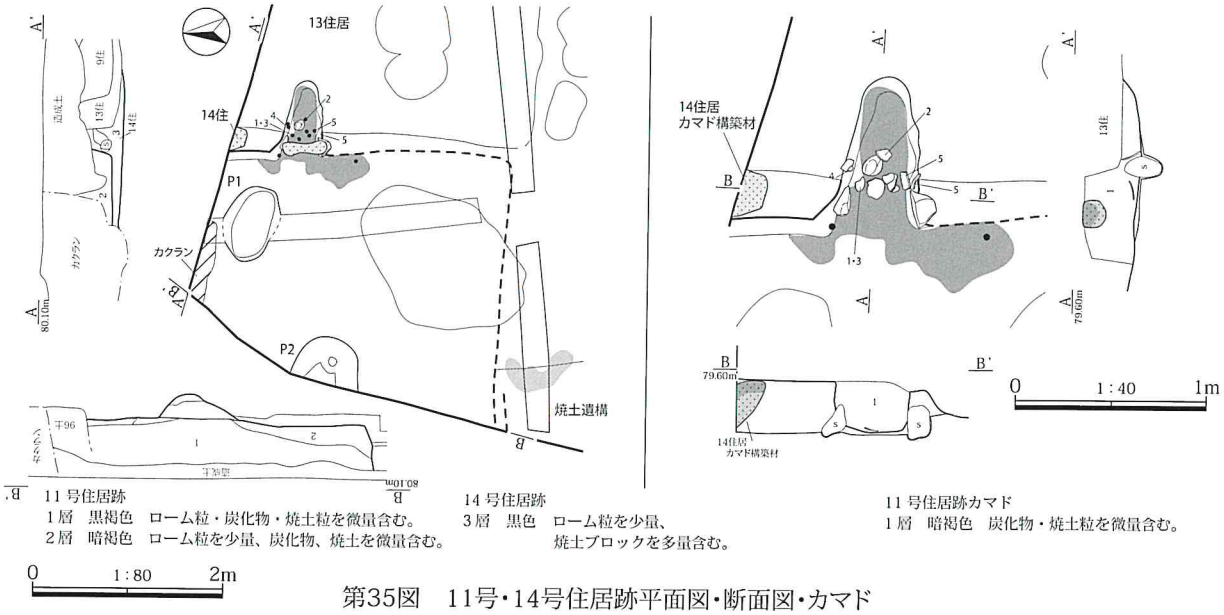
第 34 図　15 号住居跡出土遺物

11 号住居跡　（遺構：第 35 図、遺物：第 36 図）

本遺構はＢ１・Ｂ２グリッドにまたがり、遺構の北と西は調査区外である。現存値は東西で 2.9m となり、軸方向は N-97°-E である。床面はおおよそ 79.35m 前後となる。重複は 5 号・13 号住居跡に切られ、12 号住居跡より新しい遺構となる。その他、10 号土坑に切られる。カマドは東にあり燃焼部は壁外に出ており、天井部が残るが、燃焼部東半部は 13 号住居跡により上層は壊されている。天井部の構築材は 1 号住居跡のカマドなどで利用された黄褐色のやや風化した砂岩である。また天井構築財は両脇に配置された石により支えている。底面に炭の集中部があり、中央に円礫の支脚がある。出土遺物はカマド内を中心に須恵器の坏、碗、皿および羽釜が出土した。遺構の年代は出土遺物から 10 世紀後半とみられる。なお、本事項の南辺は 5 号住居跡や遺構確認などにより立ち上がりが失われたため、調査区の西壁（B - B'）セクションから推定した。

14 号住居跡　（遺構：第 35 図）

本遺構はＢ１グリッドにあり、遺構としては調査区際で確認されたカマドの構築材の残存部と北壁に残る断面のみのために、平面としては捉えることができなかったが、これを住居跡と想定し、14 号住居跡とした。壁断面で確認される床面は 79.30m 前後となり、11 号住居跡より低位となる。重複は 11 号・13 号住居に切られる。カマドは構築材とみられる黄褐色のやや風化した砂岩で一部に被熱がみられた。出土遺物は確認されておらず、遺構の年代は不明である。

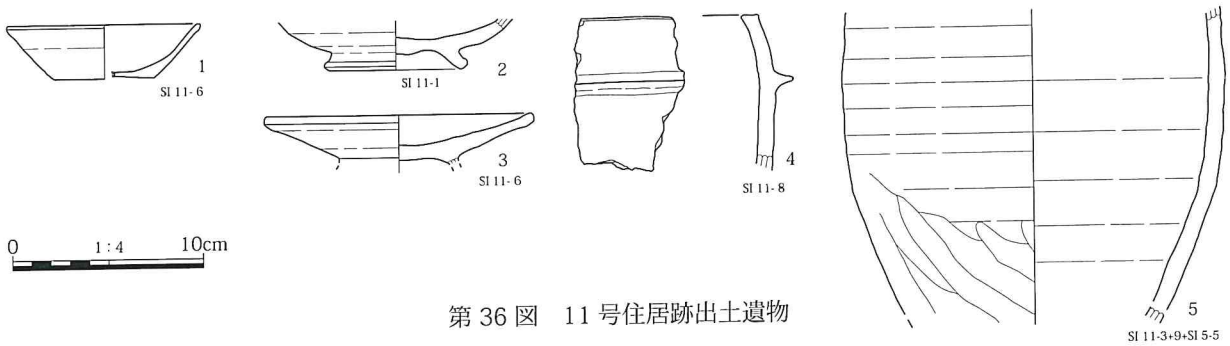


11 号住居跡
1 層　黒褐色　ローム粒・炭化物・焼土粒を微量含む。
2 層　暗褐色　ローム粒を少量、炭化物、焼土を微量含む。

14 号住居跡
3 層　黒色　ローム粒を少量、
焼土ブロックを多量含む。

11 号住居跡カマド
1 層　暗褐色　炭化物・焼土粒を微量含む。

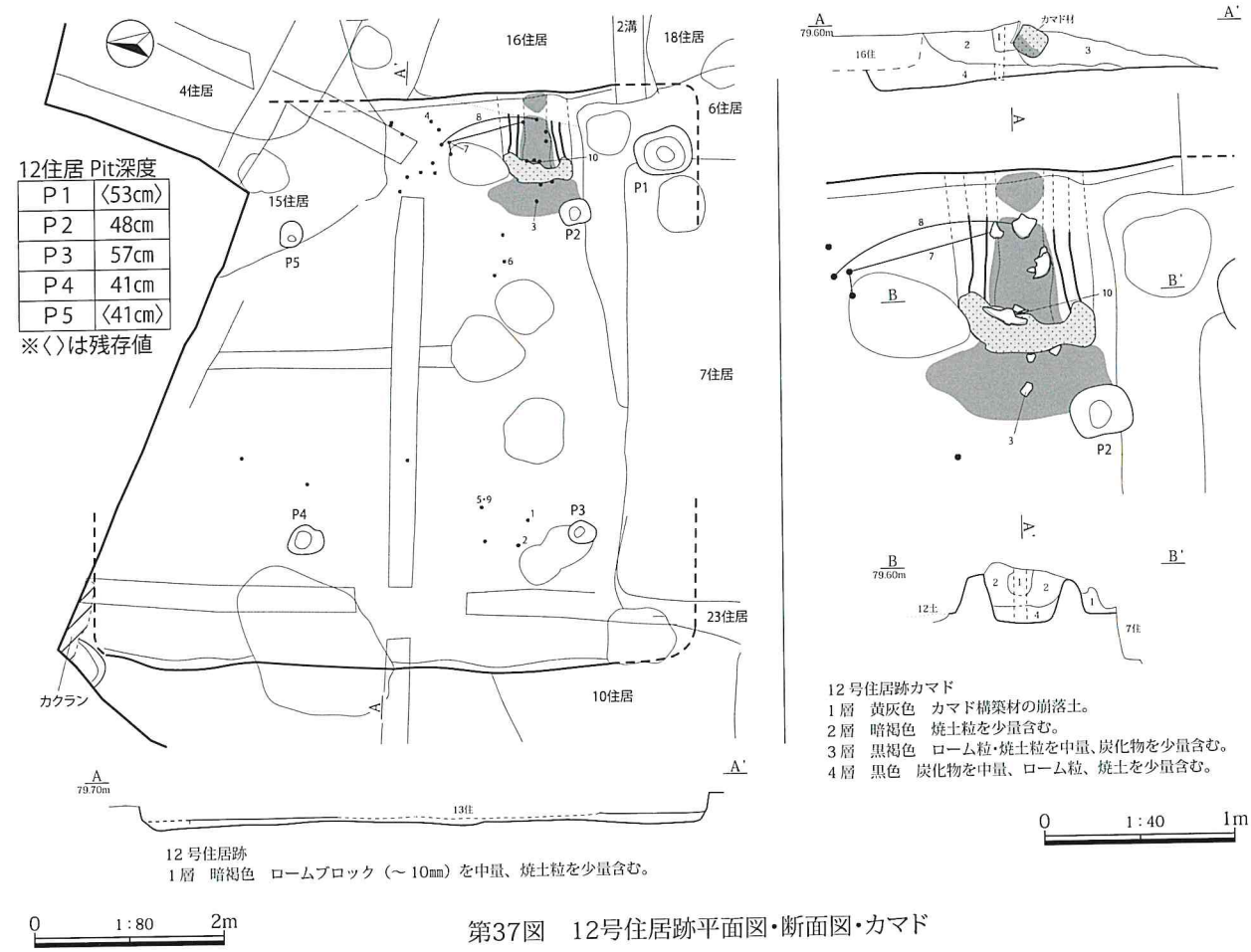
第35図　11号・14号住居跡平面図・断面図・カマド



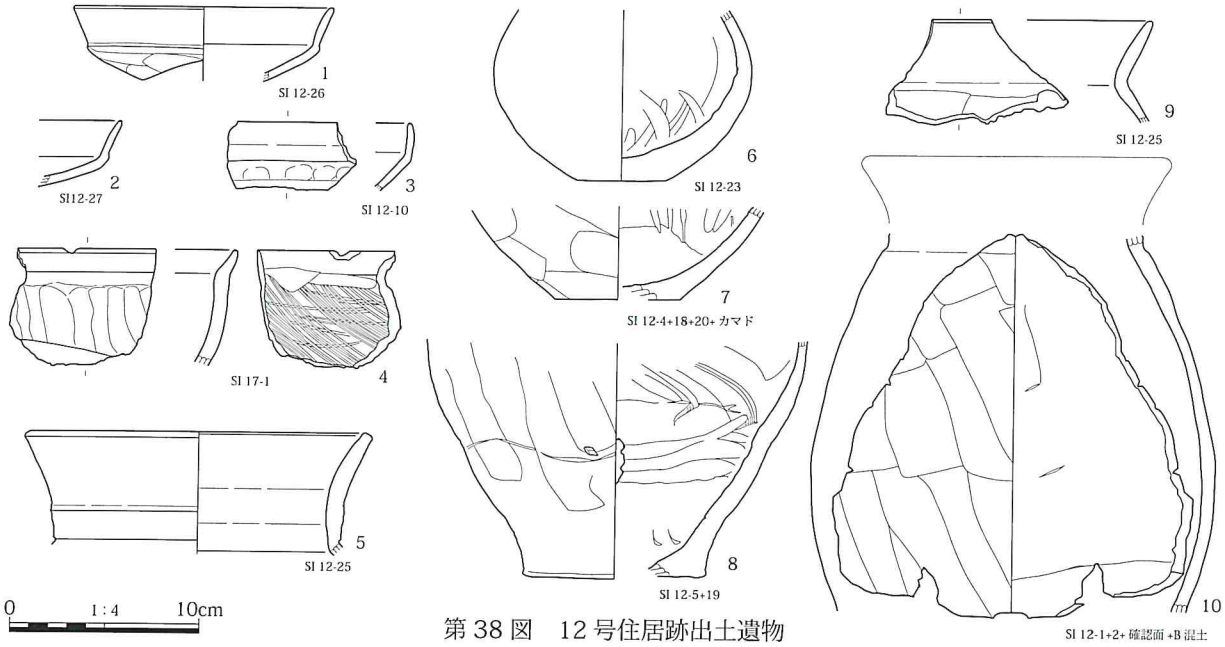
第 36 図　11 号住居跡出土遺物

12 号住居跡　（遺構：第 37 図、遺物：第 38 図）

本遺構の位置はＢ１・Ｂ２グリッドにまたがり、北と南は住居跡との切り合いにより不明である。形状は方形と推定され、おおよそ東西 6.2m となり、軸方向は N-86° -E である。床面は切り合いにより残りが悪いが、おおよそ 79.30m 前後となり、掘方が確認できた。重複は５号・６号・９号・10 号・11 号・13 号・15 号・16 号住居跡に切られているが、７号・23 号住居跡より新しい。このほか５号・６号・８号・10 号・11 号・12 号土坑に切られる。カマドは東にあり、12 号土坑により袖の一部が壊され、燃焼部東半部は 16 号住居により上層が壊されたものと想定される。袖の先端と天井部には黄褐色のやや風化した砂岩を構築材として利用されている。カマド内に土師器の甕片が確認された。貯蔵穴は南東隅にあるＰ１が想定され、６号住居に切られている。柱穴はＰ２～Ｐ５の４基であったが、掘方の掘削時に確認された。出土遺物はカマド内およびカマド周辺に集中し、土師器の坏、甕、壺などが出土した。なお、調査時には本遺構の東に 17 号となる住居跡を設定したが、本遺構と同一遺構とした。遺構の年代は出土遺物から６世紀後半とみられる。



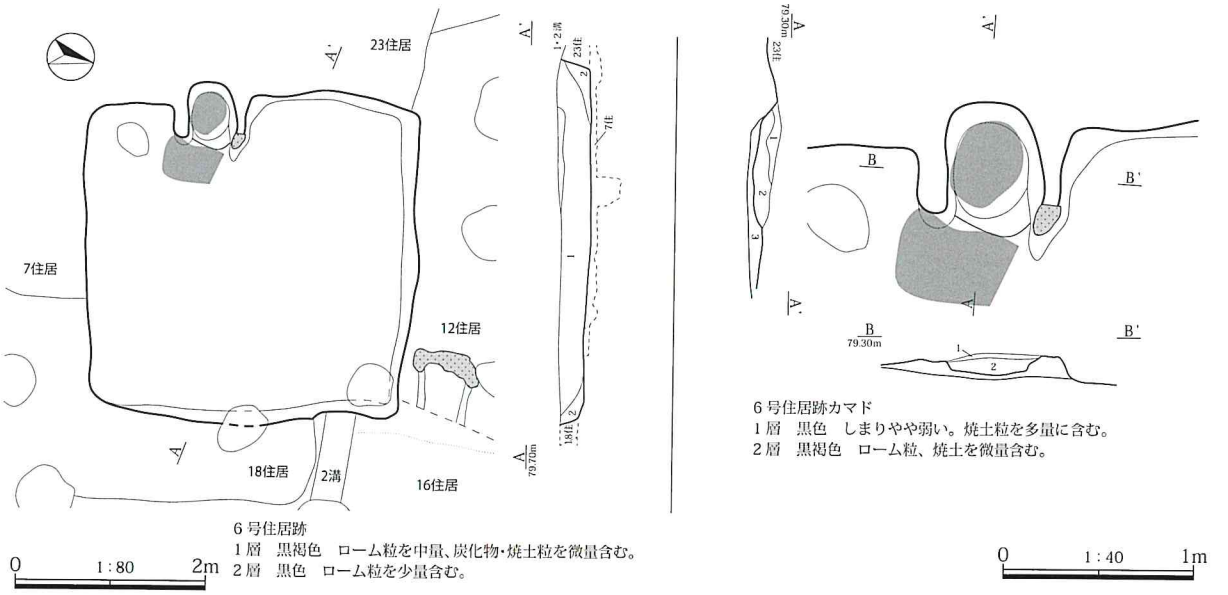
第37図　12号住居跡平面図・断面図・カマド



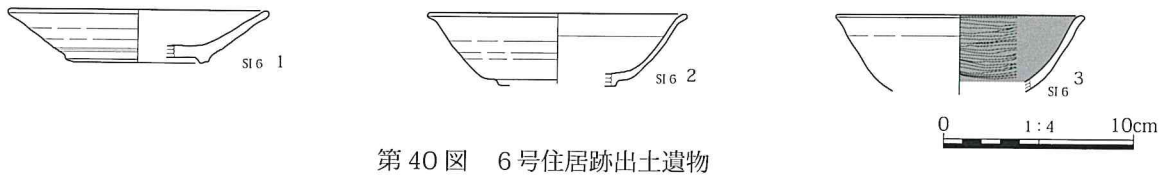
第 38 図　12 号住居跡出土遺物

6 号住居跡　（遺構：第 39 図、遺物：第 40 図）

本遺構の位置はＢ２グリッドにある。形状は方形で東西で約 3.5m、南北が 3.5m であり、軸方向は N-104°-Wである。床面はおおよそ 79.05 ～ 79.10m 前後となる。重複は 5 号住居跡に切られ、7 号・12 号・18 号・23 号住居跡より新しい。土坑は 21 号・87 号土坑に切られる。なお住居の東部には 22 号土坑があるが、本遺構との切り合いは不明である。カマドは西辺にあり、本遺跡で西カマドとなるのは本遺構のみである。また、北袖の先端部には黄褐色のやや風化した砂岩の構築財が利用されている。出土遺物は包含層より須恵器の皿、坏、碗などがある。遺構の年代は出土遺物から 9 世紀後半とみられる。



第39図　6 号住居跡平面図・断面図・カマド

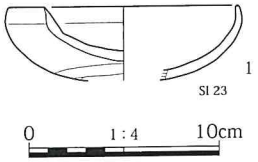


第 40 図　6 号住居跡出土遺物

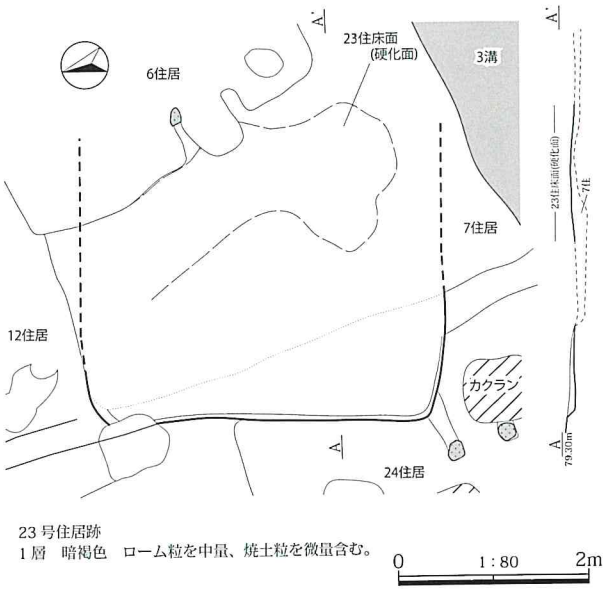
23 号住居跡　（遺構：第 42 図、遺物：第 41 図）

本遺構の位置はＢ２グリッドに位置する。遺構の東側は６号住居跡および地形の傾斜により不明となる。形状は南北が 3.8m で、軸方向は N-106°-E である。床面はおおよそ 79.15 ～ 79.20m 前後となる。重複は５号・６号住居跡に切られ、７号・10 号・12 号・24 号住居跡より新しい。その他では５号土坑に切られる。カマドは東にあったものと想定され、６号住居跡により壊されたものと考えられる。

出土遺物は包含層より土師器の坏などがあり、遺構の年代は出土遺物から７世紀後半から８世紀前半とみられる。



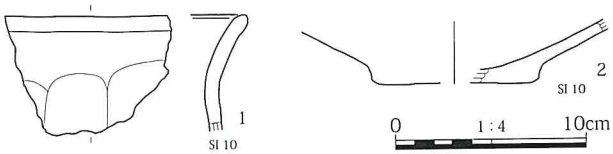
第41図　23号住居跡出土遺物



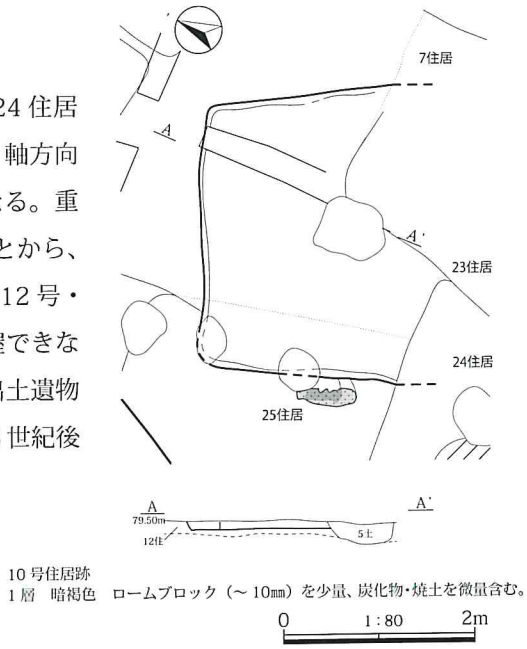
第42図　23号住居跡平面図・断面図

10 号住居跡　（遺構：第 44 図、遺物：第 43 図）

本遺構の位置はＢ２グリッドにある。遺構の南側は 23 号・24 住居跡などによりその範囲は不明である。形状は東西が約 4.2m で、軸方向は N-65°-E である。床面はおおよそ 79.30 ～ 79.35m 前後となる。重複は５号住居跡に切られるほか、カマドが確認できなかったことから、南東にある 23 号住居跡により壊された可能性がある。また、12 号・25 号住居より新しい。なお、24 号住居との新旧は明確には把握できなかった。土坑では、５号・90 号・94 号土坑に切られている。出土遺物は覆土より土師器の壺、甕がある。遺構の年代は出土遺物から６世紀後半とみられる。



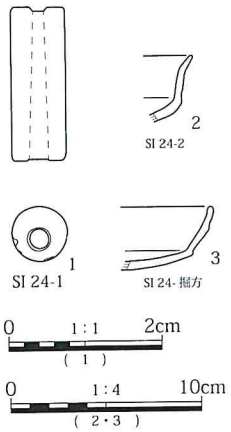
第43図　10号住居跡出土遺物



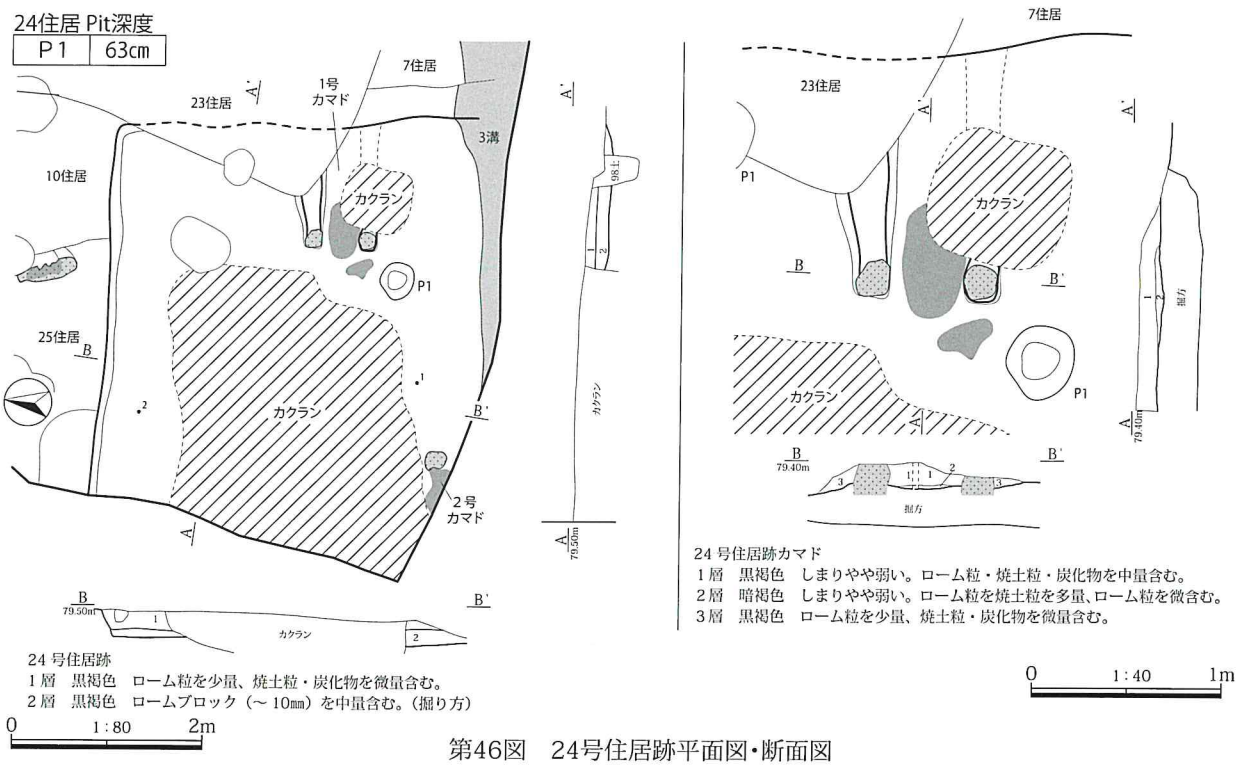
第44図　10号住居跡平面図・断面図

24 号住居跡　（遺構：第 46 図、遺物：第 45 図）

本遺構はＡ２・Ｂ２グリッドにまたがり、西は遺構外、南は３号溝により破壊される。形状は残存値で東西 4m、南北 4m で、軸方向は N-88°-E である。床面はおおよそ 79.20m ～ 79.25m 程度となり、床下には掘方がある。重複は５号・10 号住居跡に切られ、25 号住居を切る。土坑は 93 号・98 号土坑に切られる。カマドは東に１号カマドがあり、23 号住居とカクランにより袖部が壊されている。袖の先端には黄褐色の風化砂岩を構築材としている。一方、南には２号カマドがあり、床下から黄褐色砂岩の構築材のほか、灰と焼土の集中部があり、古いカマドと想定されるが、明確な検証はできなかった。柱穴は床下からＰ１が確認されている。出土遺物は土師器の坏、管玉が確認された。遺構の年代は出土遺物から６世紀後半から７世紀前半とみられる。



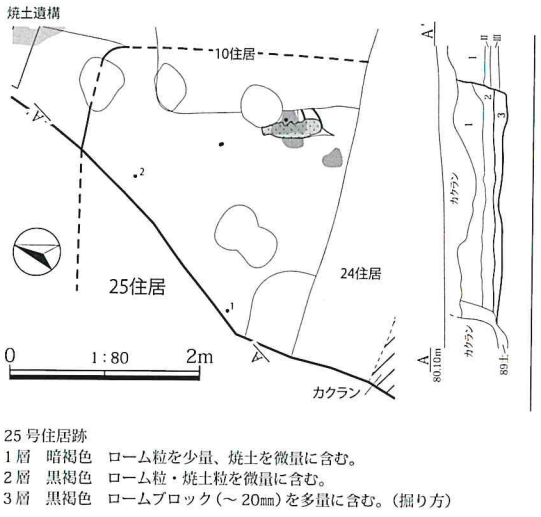
第45図　24号住居跡出土遺物



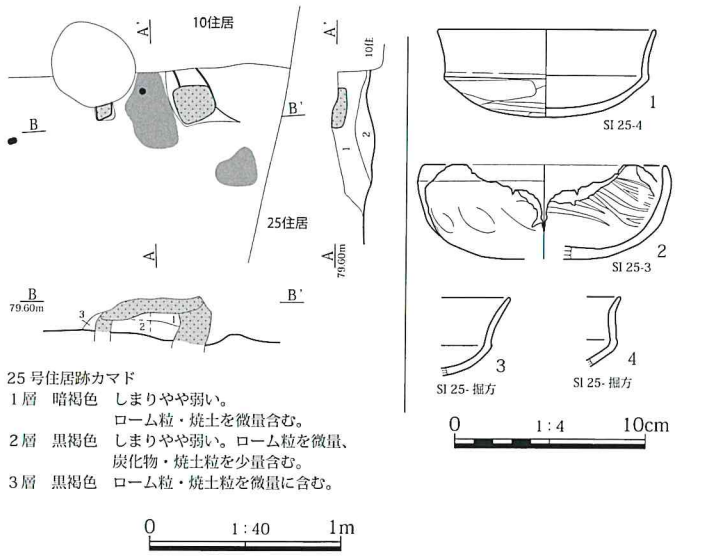
第46図　24号住居跡平面図・断面図

25 号住居跡　（遺構：第 47 図、遺物：第 48 図）

本遺構はＡ２・Ｂ２グリッドにまたがり、西は遺構外、東は 10 号住居、南は 24 号により切られている。形状は残存値で東西 3.2m、軸方向は N-74° -E である。床面はおおよそ 79.45m 程度となり、床下に掘方がある。重複は 10 号・24 号住居跡に切られている。土坑は 89 号・88 号・90 号 91 号・94 号土坑に切られる。カマドは東にあり、10 号住居および 90 号土坑により東部の大半は壊されている。残存は焚き口部と燃焼部とみられる灰と炭化集中部である。袖の先端部と天井部には黄褐色の砂岩塊を構築材として利用している。また、カマドの底面および、周辺部で、炭の集中部が確認された。出土遺物は床面から土師器の坏があり、掘方からも土師器の坏片が確認されている。遺構の年代は出土遺物から６世紀後半とみられる。



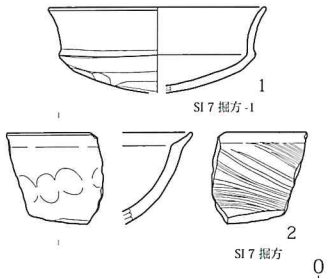
第47図　25号住居跡平面図・断面図・カマド



第48図　25号住居跡出土遺物

7号住居跡　（遺構：第50図、遺物：第49図）

本遺構はＢ２グリッドにあり、南は３号溝により切られ不明となる。形状は方形で東西4.7mで、軸方向はN-93°-Eである。遺構認識した段階で本遺構の床面はなく、掘方最深部は、おおよそ79.00m前後となる。重複は５号・６号・23号住居跡に切られ、一方、12号・18号住居跡との切り合いは不明である。また、南は３号溝に切られている。カマドは東、北、西では確認できず、確認段階ではすでに消滅したか、南辺にあった可能性がある。柱穴はＰ１からＰ５までを確認した。またＰ６はその位置から本遺構の貯蔵穴の可能性が想定される。掘方は壁際から幅1mほどをやや深く掘削し、中央部は掘り残す。また掘り残された中央部には土坑状の掘り込みが確認できた。出土遺物は掘方土層中より土師器の坏片が確認されている。



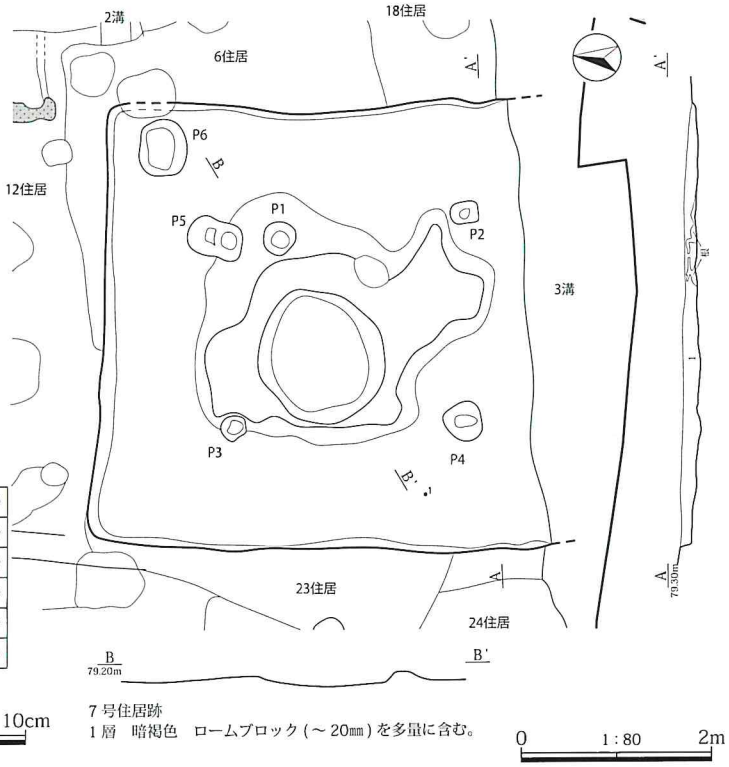
７住居 Pit深度

Ｐ１	〈31cm〉
Ｐ２	〈32cm〉
Ｐ３	〈35cm〉
Ｐ４	〈25cm〉
Ｐ５	〈40cm〉
Ｐ６	〈32cm〉

※〈〉は残存値

0　1：4　10cm

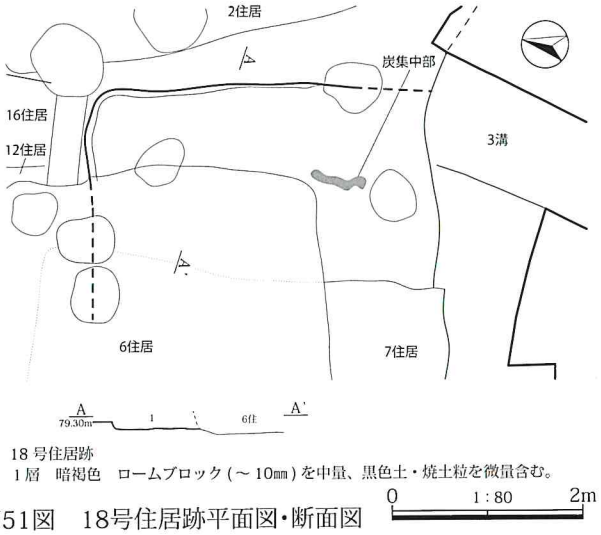
第49図　７号住居跡出土遺物



第50図　７号住居跡平面図・断面図

18号住居跡　（遺構：第51図）

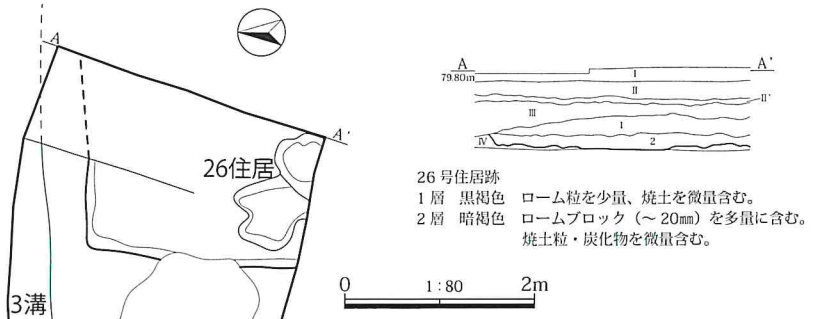
本遺構はＢ２グリッドにあり、西は６号住居、東は３号溝に切られており遺構形状が部分的に残存する。形状は不明で南北3.6m、軸方向はN-76°-Eである。床面はおおよそ79.15m程度であった。重複は６号住居跡に切られている。ただし７号住居跡とは隣接しているものの切り合いは不明である。その他では３号溝と22号・59号・92号土坑に切られていた。現状でカマドは確認できなかった。一方、遺構の覆土中に炭集中部が確認できたが、遺構に伴うかは不明である。出土遺物はない。



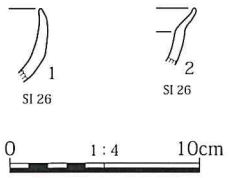
第51図　18号住居跡平面図・断面図

26号住居跡　（遺構：第52図、遺物：第53図）

本遺構はＢ３グリッドにある。３号溝の以南にあり、遺構確認のために掘削を行った結果、本遺構が確認された。遺構の東と南は調査区外となる。形状は不明で東西3.4m、南北2.8m、軸方向はN-87°-Eである。床面はおおよそ79.0m前後であった。重複は86号土坑に切られている。また、断面では北にある３号溝に向かってⅡ層が傾斜し、本遺構上層を覆っている。現状でカマドは見られない。出土遺物は須恵器の坏片が確認された。遺構の年代は出土遺物から６世紀前半とみられる。



第52図　26号住居跡平面図・断面図

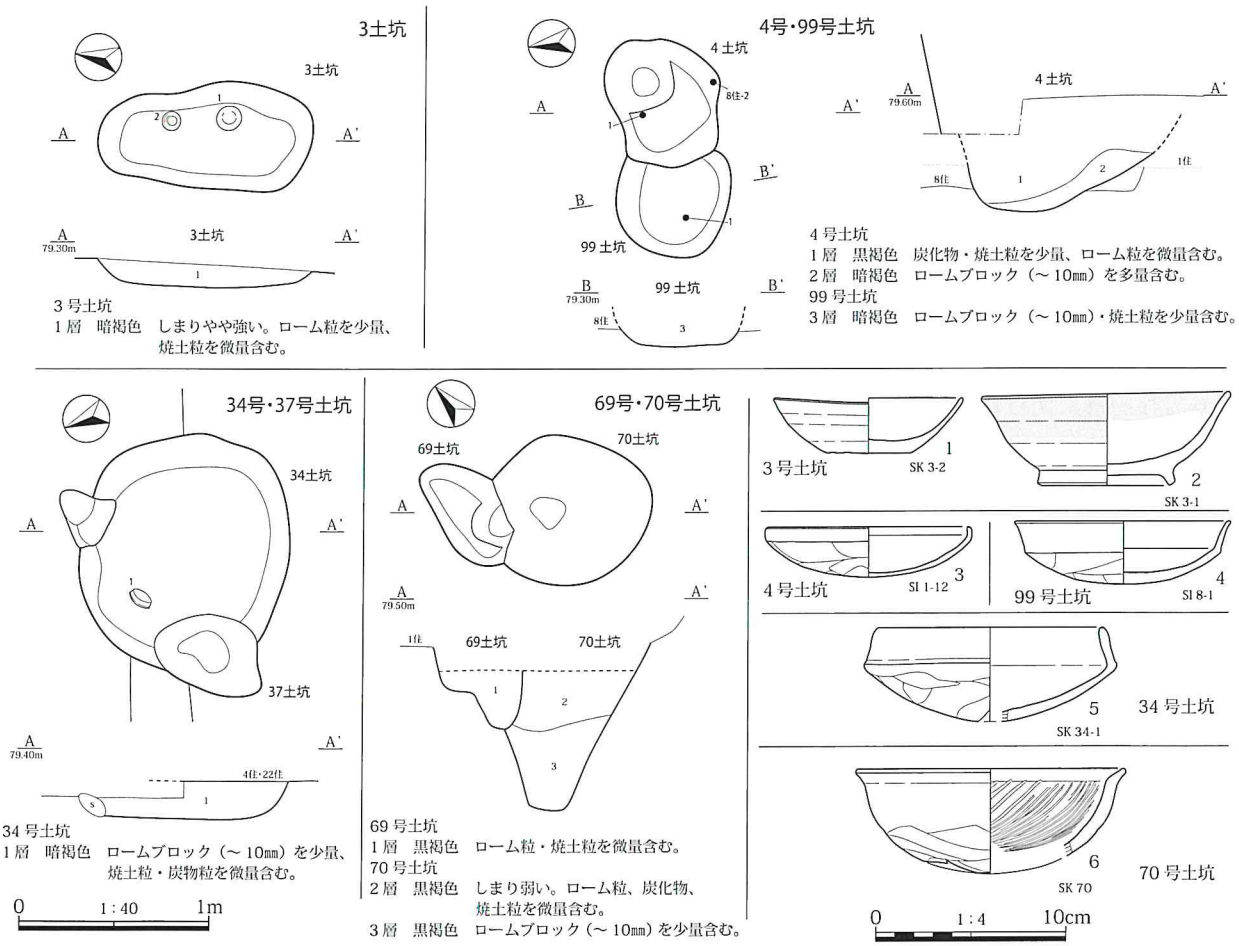


第53図　26号住居跡出土遺物

2．土坑（遺構：第 54 図、遺物：第 55 図）

本遺跡においては 99 基の土坑が確認された。土坑の多くのは住居跡の範囲内で確認されるが、土坑の覆土と住居跡の覆土との区別は困難であり、住居を掘削した段階で認識されたものが多い。また、列状に配置する土坑もみられ、掘立建物跡の一部の可能性もあるが、調査区や遺構の切り合いが多く復元は困難であった。

土坑については遺構配置図と共に遺構観察表により深さを示した。一方、良好な遺物が出土した土坑は、平面図と断面図を示した。**3 号土坑**からはやや酸化気味の須恵器の皿、灰釉陶器が出土した。**4 号土坑**は断面で 1 号住居跡を切っていたが、上層部の平面プランは不明であり、8 号住居の床面で平面プランが確認できた。**99 号土坑**からは 7 世紀代の坏が出土しており、1 号・8 号住居より新しいと考えられる。**34 号土坑**は 4 号または 22 号住居跡の床下で確認された。**69 号・70 号土坑**は 1 号住居跡のカマドの袖を破壊している。70 号土坑から出土した土師器の坏は 1 号住居跡の遺物であった可能性がある。



第54図　3 号、4 号・99号、34号・37号、69号・70号土坑平面図・断面図

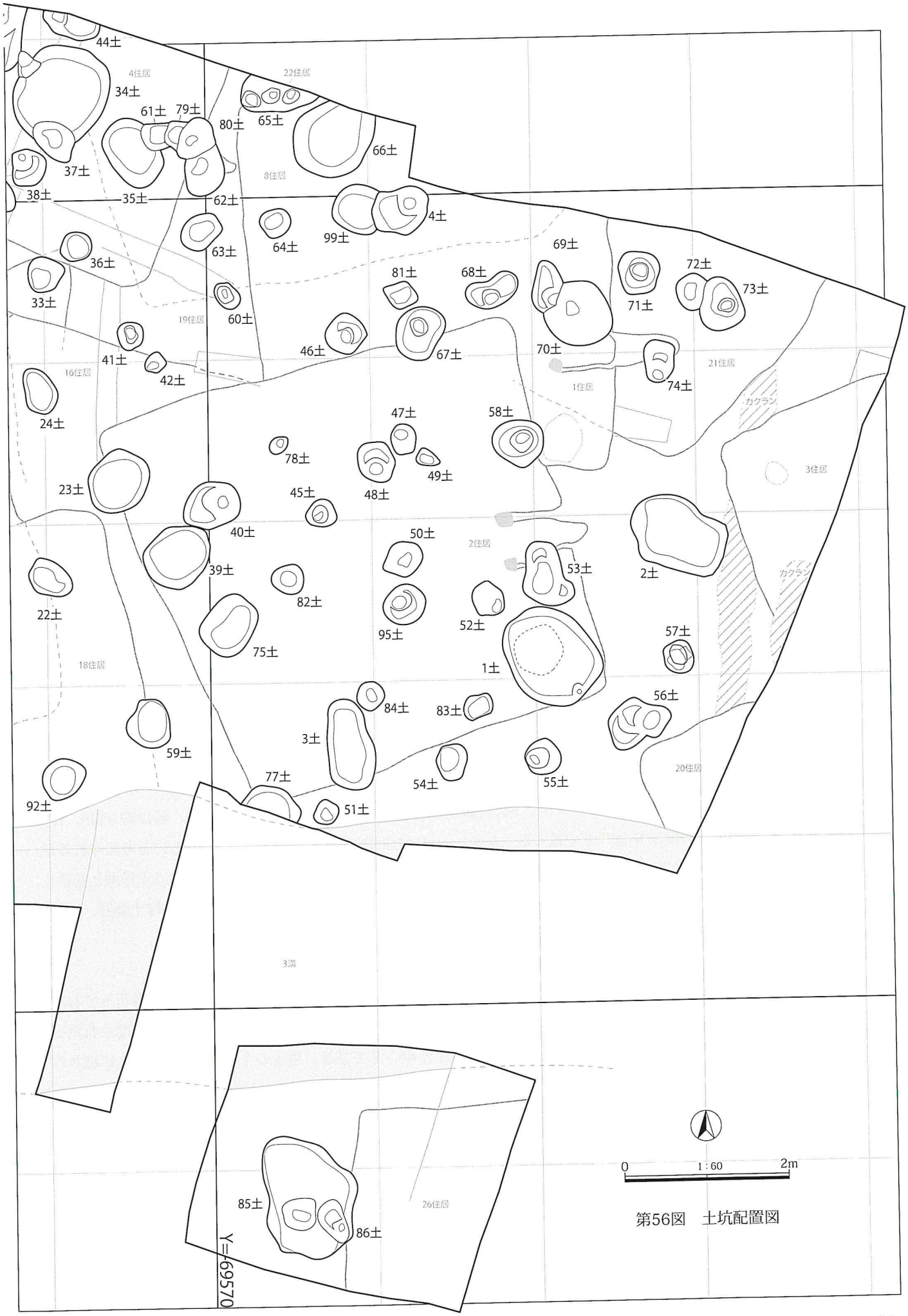
第55図　土坑出土遺物

第２表　土坑標高・深度・覆土表

番号	位置グリッド	上端標高(m)	深度(cm)	胎土				備考
				色調	ローム	炭化物	焼土	
1号土坑	C2-13	79.44	19	黒褐色	多	少	少	Ａｓ－Ｂを含む
2号土坑	C2-13	79.43	49	暗褐色	少	—	—	Ａｓ－Ｂを含む
3号土坑	C2-4	79.23	16					第54図掲載
4号土坑	C2-6	79.21	41					第54図掲載
5号土坑	B2-3	79.43	26	暗褐色	中	—	—	
6号土坑	B2-12	79.44	24	黒褐色	少	中	—	
7号土坑								11住－Ｐ２に変更
8号土坑	B2-12	79.28	49	黒褐色	少	微	微	
9号土坑	B2-12	79.33	60	黒褐色	少	微	少	
10号土坑	B2-1	79.41	27	暗褐色	少	少	少	
11号土坑								11住－Ｐ２に変更
12号土坑	B2-17	79.36	13	暗褐色	少	少	少	
13号土坑	B2-7	79.45	56	黒褐色	中	—	—	
14号土坑	B2-11	79.27	22	黒色	少	少	少	
15号土坑	B2-7	79.23	48	黒褐色	多	—	—	
16号土坑	B2-7	79.43	73	黒褐色	少	少	少	
17号土坑	B2-11	79.19	27	黒褐色	少	—	—	
18号土坑	B1-20	79.25	32	黒色	—	少	多	
19号土坑								7住－Ｐ６に変更
20号土坑								12住－Ｐ１に変更
21号土坑	B2-17	79.12	16	黒褐色	微	—	微	
22号土坑	B2-23	79.20	14	黒褐色	少	—	—	
23号土坑	B2-22	79.27	24	黒褐色	少	—	少	
24号土坑	B2-17	79.33	11	黒褐色	少	—	—	
25号土坑	B2-11	79.23	50	暗褐色	微	—	—	
26号土坑		79.2	32	黒褐色	中	—	—	
27号土坑	B1-10	79.19	47	黒褐色	少	少	少	
28号土坑								12住－Ｐ５に変更
29号土坑	B1-20	79.22	17	黒褐色	微	—	微	
30号土坑	B2-16	79.16	12	黒褐色	—	微	微	
31号土坑	B2-16	79.18	12	黒褐色	—	微	微	
32号土坑								12住－Ｐ２に変更
33号土坑	B2-16	79.49	42	暗褐色	中	—	—	
34号土坑	B1-25	79.24	20					第54図掲載
35号土坑	B1-25	79.21	8	黒褐色	少	中	中	
36号土坑	B2-21	79.36	28	暗褐色	微	—	微	
37号土坑	B1-25	79.23	23	黒褐色	微	—	微	
38号土坑	B1-20	79.24	41	黒褐色	微	—	微	
39号土坑	B2-23	79.23	16	暗褐色	微	—	—	
40号土坑	C2-2	79.26	61	暗褐色	中	—	微	
41号土坑	B2-21	79.26	29	黒褐色	少	—	—	
42号土坑	B2-21	79.26	24	黒褐色	少	—	—	
43号土坑	B1-19	79.04	30	暗褐色	中	少	中	
44号土坑	B1-24	79.167	42	黒褐色	少	少	少	
45号土坑	C2-2	79.27	37	黒褐色	少	—	微	
46号土坑	C2-1	79.17	20	黒褐色	微	微	微	
47号土坑	C2-7	79.22	17	黒褐色	微	—	微	
48号土坑	C2-7	79.28	33	黒褐色	少	微	少	
49号土坑	C2-7	79.26	17	黒褐色	少	—	—	
50号土坑	C2-8	79.31	31	黒褐色	少	微	微	

番号	位置グリッド	上端標高(m)	深度(cm)	胎土				備考
				色調	ローム	炭化物	焼土	
51号土坑	C2-4	79.119	47	黒褐色	中	—	微	
52号土坑	C2-8	79.307	32	黒褐色	少	—	—	
53号土坑	C2-13	79.33	42	暗褐色	中	—	微	
54号土坑	C2-9	79.31	38	黒褐色	微	微	微	
55号土坑	C2-14	79.32	45	黒褐色	微	微	—	
56号土坑	C2-14	79.33	47	黒褐色	中	—	微	
57号土坑	C2-13	79.38	23	黒褐色	微	—	—	
58号土坑	C2-7	79.27	30	黒褐色	微	微	—	
59号土坑	B2-24	79.14	21	黒褐色	少	微	微	
60号土坑	C2-1	79.29	36	黒褐色	中	—	—	
61号土坑	B1-25	79.10	15	黒褐色	少	微	—	
62号土坑	B1-25	79.13	59	黒褐色	少	—	微	
63号土坑	B2-21	79.11	10	黒褐色	少	—	微	
64号土坑	C2-1	79.11	11	黒褐色	少	—	—	
65号土坑	C1-5	79.08	31	暗褐色	中	微	微	
66号土坑	C1-5	79.10	38	暗褐色	中	微	微	
67号土坑	C2-6	79.17	30	黒褐色	少	微	微	
68号土坑	C2-6	79.17	26	黒褐色	微	—	—	
69号土坑	C2-11	79.16	18					第54図掲載
70号土坑	C2-11	79.19	81					第54図掲載
71号土坑	C2-11	79.33	40	黒褐色	少	—	微	
72号土坑	C2-11	79.32	31	暗褐色	微	—	微	
73号土坑	C2-16	79.27	44	黒褐色	微	微	—	
74号土坑	C2-12	79.24	58	黒褐色	少	—	—	
75号土坑	C2-3	79.20	22	暗褐色	少	—	—	
76号土坑								1住－Ｐ１に変更
77号土坑	C2-4	79.10	17	黒褐色	少	—	—	
78号土坑	C2-2	79.25	14	暗褐色	少	—	—	
79号土坑	B1-25	79.11	22	黒褐色	微	—	—	
80号土坑	B1-25	79.11	67	黒褐色	微	—	—	
81号土坑	C2-6	79.14	18	暗褐色	少	—	—	
82号土坑	C2-3	79.22	19	黒褐色	中	—	—	
83号土坑	C2-9	79.27	8	暗褐色	少	—	—	
84号土坑	C2-4	79.28	20	暗褐色	少	—	—	
85号土坑	C3-2	79.05	40	黒褐色	少	微	微	
86号土坑	C3-2	79.05	43	黒褐色	微	微	微	
87号土坑	B2-14	79.07	25	黒褐色	微	—	—	
88号土坑	A2-23	79.37	57	黒褐色	少	—	微	
89号土坑	A2-23	79.41	23	黒褐色	多	—	—	
90号土坑	B2-3	79.51	46	黒褐色	中	—	少	
91号土坑	B2-2	79.4	53	黒褐色	中	—	—	
92号土坑	B2-24	79.14	19	黒褐色	微	—	—	
93号土坑	B2-4	79.11	12	黒褐色	微	—	—	
94号土坑	B2-2	79.41	20	黒褐色	少	—	—	
95号土坑	C2-8	79.38	37	黒褐色	多	—	微	
96号土坑	B1-5	79.42	15	黒褐色	少	—	—	
97号土坑	B1-5	79.33	13	黒褐色	少	—	微	
98号土坑	B2-4	79.28	56	黒褐色	中	—	—	
99号土坑	C1-21	79.10		黒褐色	少	—	—	第54図掲載

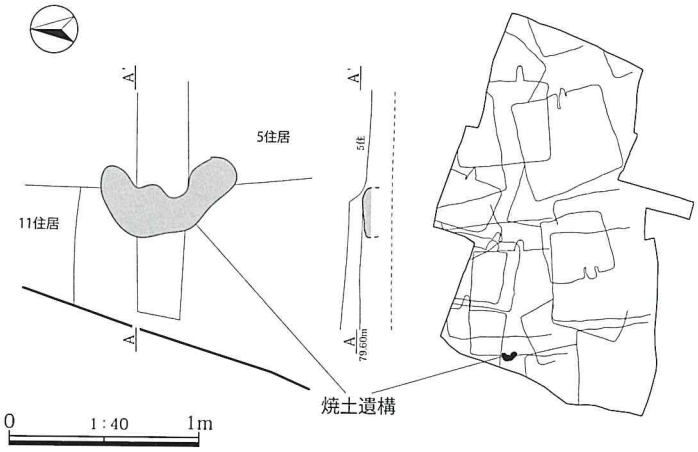
カクラン
X=36130
X=36120
Y=-69580
96土
97土
14住居
11住居
43土
18土
38土
27土
9住居
28号土坑
15住居
29土
17土
26号土坑
14土
25土
13住居
30土
31土
33土
10土
焼土遺構
16土
12土
15土
5住居
12住居
24土
91土
6土
9土
32号土坑
8土
94土
13土
21土
10住居
25住居
5土
90土
89土
88土
19土
20土
22土
6住居
98土
7住居
93土
87土
23住居
カクラン
24住居
カクラン
92土
27住居
A
B
C
1
2
3
X=36140
Y=-69590
Y=-69580
Y=-69570
Y=-69560
X=36130
X=36120
X=36110
1 6 11 16 21
2 7 12 17 22
3 8 13 18 23
4 9 14 19 24
5 10 15 20 25
小グリッド


44土
4住居
22住居
34土
61土
79土
80土
65土
66土
37土
8住居
38土
35土
62土
4土
99土
64土
63土
69土
36土
81土
68土
72土
73土
33土
19住居
60土
71土
46土
67土
70土
41土
42土
16住居
21住居
1住居
74土
カクラン
24土
47土
58土
78土
49土
3住居
23土
45土
48土
40土
50土
2住居
53土
2土
39土
カクラン
82土
22土
95土
52土
57土
75土
18住居
1土
56土
84土
83土
3土
59土
54土
55土
20住居
77土
92土
51土
3溝
0
1:60
2m
85土
26住居
86土
Y=69570

第56図　土坑配置図

３．焼土遺構（遺構：第 57 図）

本遺構は焼土および炭化部の集中した遺構となる。位置はＢ２- １グリッドにある。形状はややＵ字状となり、南北 0.7m、東西は 0.45m となる。本遺構は５号住居跡の床面下で明瞭に確認されているため、５号住居跡以外のカマドと想定した。しかし、本遺構の周辺の住居は５号住居跡のほか、北に広がる 11 号住居跡などがあったが、本焼土をカマドとする住居跡は確認できず、本焼土を焼土遺構として扱った。出土遺物は周辺から土器小片があるのみであった。



第57図　焼土遺構平面図･断面図

４．溝（遺構：第 58 図）

本遺跡においては３条の溝が確認された。１号および２号溝はＡｓ－Ｂ軽石またはＡｓ-Ａ軽石を含んでおり、中世から近世の溝と考えられる。３号溝は上層がＡｓ-Ｂ軽石混土であるが、純層のＡｓ-Ｂ軽石は認められないことから、中世の可能性が高い。これらの溝は調査区の東から西にやや弧状に走行し、１号・２号溝はほぼ重なっており、１号溝は２号溝を踏襲したものと考えられる。

１号溝（遺構：第 58 図）

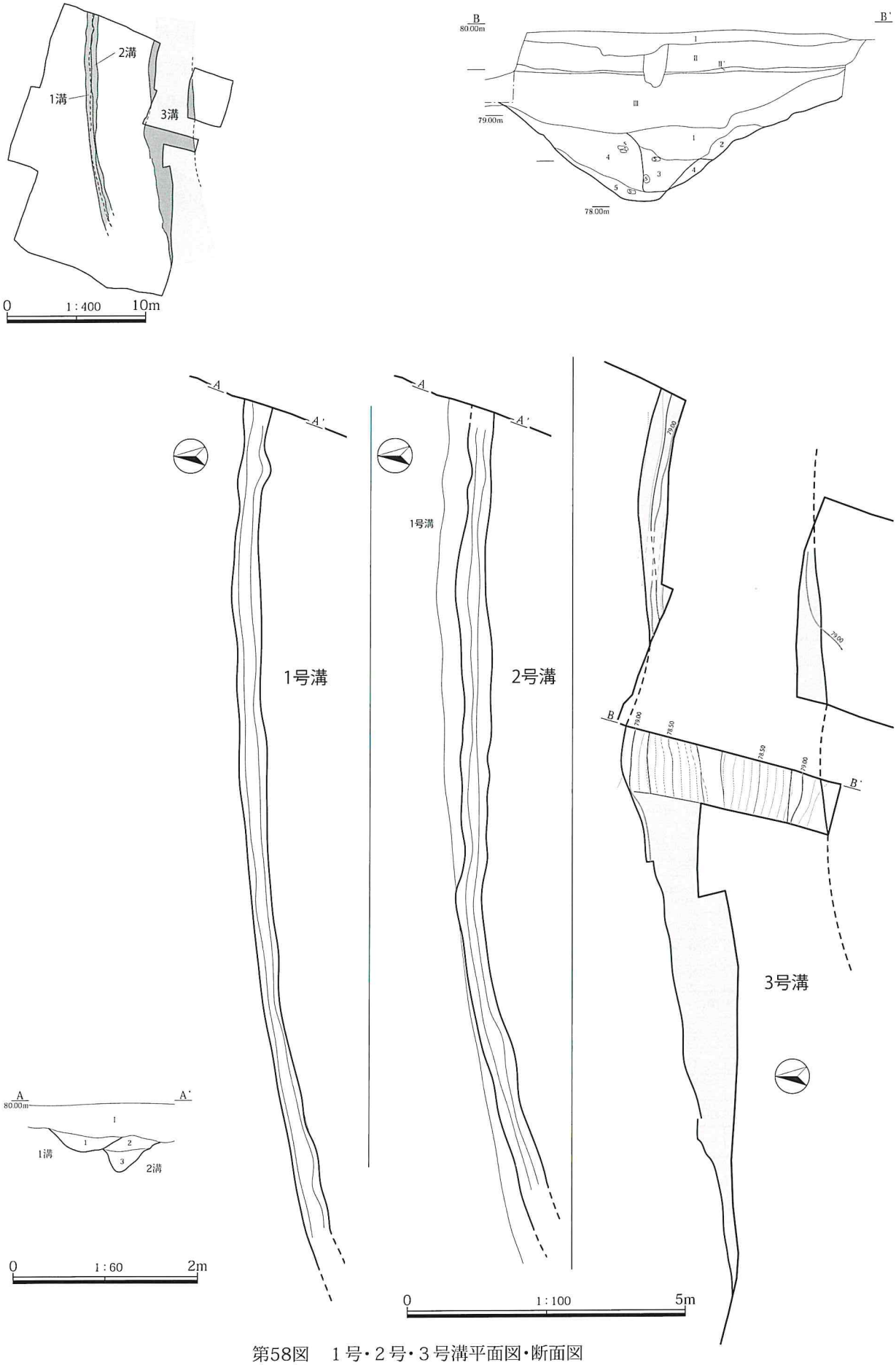
１号溝はＢ２・Ｃ２グリッドに位置する。確認された規模は長さが約 15.5m、幅は約 0.6m、深さは断面で約 25cm、軸角度は N-86° -E であった。なお、溝は調査区南西部に延びるものと考えられるが、住居遺構確認のために行ったＡｓ-Ｂ混土の掘り下げにより消滅したものと考えられる。本遺構のほとんどは２号溝と並走し、２号溝より新しい。覆土にはＡｓ－Ａ軽石とみられる白色粒を含む。出土遺物は土師器などのほか、近世の瀬戸美濃焼片があった。

２号溝（遺構：第 58 図）

２号溝は１号溝同様にＢ２・Ｃ２グリッドに位置する。確認された規模は長さが約 15m、幅は約 0.6m、深さは断面で 35cm、軸角度は N-86° -E であった。本溝も１号溝と同様に調査区南西部に延びるものと考えられるが、住居遺構確認のために行ったＡｓ-Ｂ混土の掘り下げにより消滅したものと考えられる。重複は１号溝と並走し、北の上端は１号溝に切られている。覆土にはＡｓ-Ｂ軽石とみられる白色粒を含む。出土遺物は土師器、須恵器などのほか、近世の肥前磁器片が出土しており、近世まで使用されたものと考えられる。

３号溝（遺構：第 58 図）

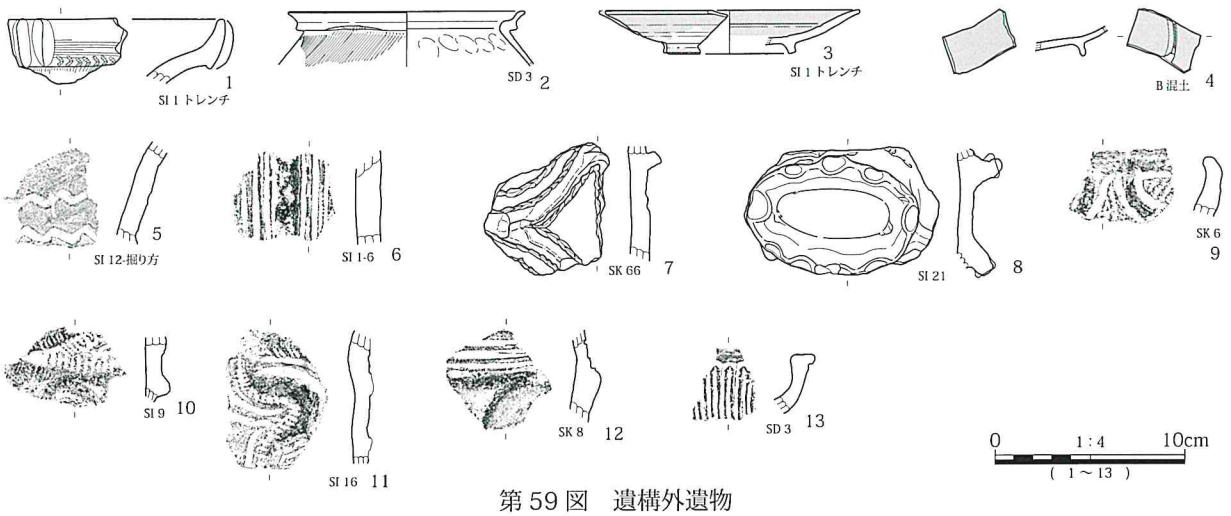
３号溝は１号溝同様にＢ２・Ｃ２・Ｂ３・Ｃ３グリッドにまたがる。本遺構は遺構全体の掘削は行っておらず遺構の範囲確認と一箇所の断面記録のみの調査である。規模は調査区の東壁から南壁に走行し、確認された長さは約 16m、幅は約 3.2m 前後、深さは 1.1m、軸角度は N-86° -E である。覆土の上層はＡｓ-Ｂ混土に覆われている。なおＡｓ-Ｂ混土は３号溝の北側は１号・２号溝から南に向かってゆるやかに傾斜し、南側も同様に北に向かって傾斜している。覆土の下層は２時期の掘り込みがあり、１層から３層までが新しい段階の溝であり、特に３層は砂質に富む。古い段階の溝は４層から５層であり、両層ともに砂質で、特に５層はラミナ状の堆積となる。この点から、本溝は流水があった可能性が考えられる。



第58図　1号・2号・3号溝平面図・断面図

5．遺構外遺物（第 59 図）

遺構外遺物は包含層や遺構の時期と異なる時期の遺物を混入とみなした。1 と 2 は古墳時代初めの遺物である。3・4 は平安時代の灰釉陶器と緑釉陶器である。縄文土器は中期の遺物を中心に確認されている。今回、縄文時代や古墳時代初めの遺構は確認されていないが、遺物としては確認でき、周辺にこれらの時代の遺構が存在した可能性がある。



第 59 図　遺構外遺物

第 3 表　遺物観察表

1 号住居跡出土遺物（第 7 ～ 8 図）

掲載No.	出土位置	種別	器種	部位（残存）	口径・底径・器高 (cm) 長さ×幅×厚さ (cm)	焼成	色調	混入物	成・整形技法	備考
1	床	土師器	坏	口縁～体部 (1/2)	12.9・－・4.65	酸化	橙色	雲母・角閃石・白色粒子	外：口辺部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内：口辺部ヨコナデ。	
2	カマド	土師器	坏	口縁～底部 (3/4)	13.3・－・5.2	酸化	橙色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	外：口辺部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内：口辺部ヨコナデ、内：に粘土付着。	
3	床	土師器	埦	口縁～底部 (1/2)	11.4・－・(5.3)	酸化	明赤褐色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	外：口辺部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内：口縁～体上半部ヨコナデ、暗文。	
4	床	土師器	埦	ほぼ完形	10.9・－・5.7	酸化	明赤褐色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	外：口辺部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内：口縁～体上半部ヨコナデ、暗文。	
5	カマド	土師器	坏	口縁～底部 (4/5)	13.1・－・4.6	酸化	にぶい橙色	雲母・角閃石・白色粒子	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ、体上半部に暗文。	
6	覆土	土師器	坏	口縁～底部 (3/4)	12.9・－・5.0	酸化	橙色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	外：口辺部ヨコナデ。 内：口辺部ヨコナデ、体部にミガキ。	
7	床	土師器	甑	胴下半～底部	－・－・(7.9)	酸化	にぶい黄橙色	雲母・角閃石・白色粒子・色粒子	外：胴～底部ヘラケズリ。 内：ヘラナデ、ナデ。	底部に穿孔。
8	床	土師器	甑	口縁～胴上半部	15.2・－・(16.7)	酸化	橙色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	外：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメあり。	
9	カマド	土師器	甕	口縁～底部 (5/6)	16.5・5.9・21.1	酸化	にぶい黄橙色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	外：胴部ヘラケズリ、底部ナデ。 内：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、ナデ。	
10	カマド	土師器	甕	頸～底部 (1/3)	－・5.0・(33.2)	酸化	にぶい黄橙色	雲母・白色粒子・赤色粒子	外：体部ヘラケズリ、頸部に工具痕、底部ケズリ。 内：ナデ。	
11	覆土	土師器	甕	ほぼ完形	17.0・6.2・36.5	酸化	橙色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	外：口辺部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内：口辺部ヨコナデ。	
12	カマド	土師器	甕	口縁～胴部 (3/8)	24.0・－・(13.7)	酸化	にぶい黄橙色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	外：口辺部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内：口辺部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	
13	床	土師器	甕	口縁～胴部 (1/2)	17.3・－・(21.9)	酸化	にぶい黄橙色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	

2 号住居跡出土遺物（第 11 図）

掲載No.	出土位置	種別	器種	部位（残存）	口径・底径・器高 (cm) 長さ×幅×厚さ (cm)	焼成	色調	混入物	成・整形技法	備考
1	床	土師器	坏	ほぼ完形	12.9・－・5.1	酸化	橙色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	外：口辺部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ。 内：口辺部ヨコナデ、口縁～体部に暗文。	坏内に赤色土塊が盛られる。
2	床	土師器	坏	口縁～底部 (5/6)	12.1・－・4.5	酸化	橙色	雲母・白色粒子・赤色粒子	外：口辺部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ。 内：口辺部ヨコナデ。	

8 号住居跡出土遺物（第 12 図）

掲載No.	出土位置	種別	器種	部位（残存）	口径・底径・器高 (cm) 長さ×幅×厚さ (cm)	焼成	色調	混入物	成・整形技法	備考
1	覆土	須恵器	ハソウか？	口縁部	－・－・(1.9)	還元	灰色	白色粒子・黒色粒子	外：突帯下に波状文。 内：自然釉付着。	

21 号住居跡出土遺物（第 15 図）

掲載No.	出土位置	種別	器種	部位（残存）	口径・底径・器高 (cm) 長さ×幅×厚さ (cm)	焼成	色調	混入物	成・整形技法	備考
1	覆土	土師器	坏	口縁～底部	－・－・(3.2)	酸化	橙色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	外：口辺部横方向のミガキ、体部ヘラケズリ。 内：口縁～体上部斜め方向の暗文。	内面に暗文。
2	覆土	土師器	坏	口縁～底部 (1/3)	(11.8)・－・(4.6)	酸化	明赤褐色	白色粒子・赤色粒子	外：口辺部ヨコナデ、体部ヘラナデ？ 内：口辺部ヨコナデ。	
3	覆土	土師器	甕	口縁～胴部 (1/4)	17.4・－・9.9	酸化	褐灰色	雲母・角閃石・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子	外：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。頸部に指頭痕	

4 号住居跡出土遺物（第 17 図）

掲載 No	出土位置	種別	器種	部位（残存）	口径・底径・器高 (cm) 長さ×幅×厚さ (cm)	焼成	色調	混入物	成・整形技法	備考
1	床	須恵器	坏	ほぼ完形	10.80・4.40・3.25	酸化気味	にぶい黄橙色	雲母・角閃石・赤色粒子	ロクロ成形。底部：右回転糸切り。	
2	床	須恵器	埦	口縁部 (3/4)	15.6・－・(4.55)	酸化気味	明赤褐色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	ロクロ成形。	高台部欠損。
3	カマド	須恵器	埦	ほぼ完形	14.7・7.5・6.6	酸化気味	黄褐色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	ロクロ成形。内面はミガキ、黒色処理。	内外面に炭化物付着物。
4	床	須恵器	埦	口縁～高台部 (2/3)	15.6・9.0・6.5	酸化気味	にぶい黄色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	ロクロ成形。	
5	床	灰釉陶器	段皿	ほぼ完形	13.4・7.3・2.7	酸化気味	灰白色	白色粒子	ロクロ成形。底部回転糸切り後、高台貼付け。口縁～体上部に灰釉。	東濃産。
6	床	灰釉陶器	埦	口縁～高台部 (3/5)	15.4・7.4・6.3	酸化気味	灰白色	白色粒子	ロクロ成形。底部回転ヘラケズリ後、高台貼付け。口縁～体部に灰釉。	東濃産。
7	カマド	土師器	羽釜	胴下半～底部	－・8.3・(12.0)	酸化気味	橙色	雲母・白色粒子・赤色粒子	輪積成形。胴下半部外面ヘラケズリ。	
8	床	石製品	砥石		8.2 × 5.2 × 1.3	☒	灰オリーブ色			凝灰岩。表、裏、両側面が砥面。

16 号住居跡出土遺物（第 19 図）

掲載 No	出土位置	種別	器種	部位（残存）	口径・底径・器高 (cm) 長さ×幅×厚さ (cm)	焼成	色調	混入物	成・整形技法	備考
1	覆土	土師器	坏	口縁～体部 (1/8)	－・－・(2.9)	良	明赤褐色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	外：口縁部ヨコナデ。 内：口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	
2	覆土	須恵器	坏	口縁部	・－・－ (3.4)	良	灰色	雲母・白色粒子	外：ヨコナデ。 内：ヨコナデ。	
3	覆土	須恵器	羽釜	口縁部	・－・－ (4.2)	良	灰黄褐色	雲母・角閃石・白色粒子	鍔貼付け。	

19 号住居跡出土遺物（第 21 図）

掲載 No	出土位置	種別	器種	部位（残存）	口径・底径・器高 (cm) 長さ×幅×厚さ (cm)	焼成	色調	混入物	成・整形技法	備考
1	覆土	須恵器	坏	口縁～底部 (3/8)	8.4・5.0・2.1	良	浅黄橙色	雲母・赤色粒子	ロクロ整形。底部左回転糸切り。	

3 号住居跡出土遺物（第 23 図）

掲載 No	出土位置	種別	器種	部位（残存）	口径・底径・器高 (cm) 長さ×幅×厚さ (cm)	焼成	色調	混入物	成・整形技法	備考
1	床	土師器	坏	口縁～体部	－・－・(3.3)	酸化	橙色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	外：口縁～体上部ヨコナデ。体下半部ケズリ。 内：口辺部ヨコナデ。体部に暗文。	

20 号住居跡出土遺物（第 24 図）

掲載 No	出土位置	種別	器種	部位（残存）	口径・底径・器高 (cm) 長さ×幅×厚さ (cm)	焼成	色調	混入物	成・整形技法	備考
1	覆土	土師器	坏	口辺部	－・－・(2.6)	酸化	橙色	雲母・白色粒子・赤色粒子	外：口辺部ヨコナデ・ナデ	

5 号住居跡出土遺物（第 28 図）

掲載 No	出土位置	種別	器種	部位（残存）	口径・底径・器高 (cm) 長さ×幅×厚さ (cm)	焼成	色調	混入物	成・整形技法	備考
1	床	土師器	坏	口縁～体部 (1/7)	－・－・(3.7)	酸化	明赤褐色	雲母・白色粒子・赤色粒子	外：口辺部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内：口辺部ヨコナデ。	
2	覆土	土師器	坏	口縁～底部	－・－・3.7	酸化	明赤褐色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	外：口辺部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内：口辺部ヨコナデ。	
3	床	土師器	坏	ほぼ完形	12.9・－・4.1	酸化	橙色	雲母・白色粒子・赤色粒子	外：口辺部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内：口辺部ヨコナデ。	
4	床	土師器	高坏	脚部	－・－・(9.3)	酸化	にぶい赤褐色	雲母・白色粒子・赤色粒子	外面ミガキ。	外面にミガキ。
5	床	須恵器	甕	口縁～底部 (3/5)	(13.9)・6.4・(11.9)	酸化	灰黄褐色	雲母・白色粒子・赤色粒子	外：口辺部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。 内：口辺部ヨコナデ。胴部ナデ。	
6	床	土師器	甕	胴～底部	－・6.5・(15.7)	酸化	にぶい橙色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	外：胴部ヘラケズリ。 内：ナデ。	
7	床	須恵器	羽釜	口縁～胴部	－・－・(5.0)	酸化気味	にぶい黄橙色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	ロクロ成形後、鍔貼付け。	

9 号住居跡出土遺物（第 30 図）

掲載 No	出土位置	種別	器種	部位（残存）	口径・底径・器高 (cm) 長さ×幅×厚さ (cm)	焼成	色調	混入物	成・整形技法	備考
1	床	須恵器	坏	完形	10.1・5.9・1.9	酸化	橙色	雲母・白色粒子・赤色粒子	ロクロ成形。底部右回転糸切り。	
2	床	須恵器	坏	口縁～底部 (2/3)	9.9・5.8・2.1	酸化	橙色	結晶片岩・雲母・白色粒子・赤色粒子	ロクロ成形。底部右回転糸切り。	
3	床	須恵器	坏	口縁～底部 (2/3)	9.9・5.9・2.5	酸化	にぶい黄橙色	結晶片岩・雲母・白色粒子・赤色粒子	ロクロ成形。底部右回転糸切り。	
4	カマド	須恵器	埦	口縁～高台部 (1/3)	(14.5)・8.0・5.3	酸化	にぶい黄橙色	結晶片岩・雲母・白色粒子・赤色粒子	ロクロ成形。底部回転糸切り後、高台貼付け。	
5	カマド	須恵器	埦	口縁～体部 (3/4)	15.3・－・(5.6)	酸化気味	にぶい黄橙色	角閃石・白色粒子・赤色粒子	ロクロ成形。	
6	カマド	須恵器	羽釜	口縁部	－・－・(6.6)	酸化	赤褐色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	ロクロ整形後、鍔貼付け。	
7	床	土師器	羽釜	胴下半～底部 (1/7)	－・(10.9・(11.5)	酸化	明赤褐色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	外：胴部ヘラケズリ。 内：ナデ。	

13 号住居跡出土遺物（第 32 図）

掲載 No	出土位置	種別	器種	部位（残存）	口径・底径・器高 (cm) 長さ×幅×厚さ (cm)	焼成	色調	混入物	成・整形技法	備考
1	床	石製品	管玉	完形	2.4 × 0.7	☒	オリーブ灰色		両面穿孔。	滑石。 孔径：2.4㎜下 2.5㎜。重量：3g。
2	覆土	土師器	坏	口縁～底部 (1/2)	(11.9)・－・5.6	酸化	橙色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	外：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内：口辺部ヨコナデ。口縁～体部に暗文。	
3	カマド	須恵器	坏	口縁～高台部	(16.1)・－・(4.6)	酸化	にぶい黄橙色	雲母・白色粒子・赤色粒子	ロクロ成形。	
4	床	須恵器	坏	口縁～底部 (7/8)	11.0・5.7・2.8	酸化気味	にぶい黄橙色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	ロクロ成形。・底部右回転糸切り。	
5	床	須恵器	坏	口縁～高台部 (1/3)	(11.5)・7.3・4.3	酸化気味	にぶい黄橙色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	ロクロ成形。底部回転糸切り後、高台貼付。	
6	床	須恵器	坏	体下～高台付	－・9.5・(3.8)	酸化気味	にぶい黄橙色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	ロクロ成形後、高台貼付け。	

13 号住居跡出土遺物（第 32 図）

掲載No.	出土位置	種別	器種	部位（残存）	口径・底径・器高 (cm) 長さ×幅×厚さ (cm)	焼成	色調	混入物	成・整形技法	備考
7	床	須恵器	土釜	口縁～胴部 (1/8)	(21.4)・－・(8.3)	酸化	にぶい黄橙	雲母・角閃石・白色粒子	外：口縁部ヨコナデ。頸部に指頭痕？ 内：口縁部ヨコナデ。 胴肩部からヘラナデ・ナデ。	
8	床	須恵器	羽釜	口縁～胴部 (1/4)	(22.1)・－・(12.6)	酸化気味	明黄褐色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	ロクロ成形。鍔貼付け。	
9	床	須恵器	羽釜	胴部	－・－・(17.3)	酸化気味	にぶい黄橙色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	外：胴上半ロクロナデ。下半部ヘラケズリ。 内：ナデ。	

15 号住居跡出土遺物（第 34 図）

掲載No.	出土位置	種別	器種	部位（残存）	口径・底径・器高 (cm) 長さ×幅×厚さ (cm)	焼成	色調	混入物	成・整形技法	備考
1	床	須恵器	坏	口縁～高台部 (1/4)	(12.0)・6.8・4.5	酸化気味	灰黄褐色	雲母・白色粒子・褐色粒子	ロクロ整形。高台貼付け。	
2	床	須恵器	土釜	口縁～胴部 (1/8)	(21.2)・－・(9.9)	酸化	橙色	細砂・雲母・白色粒子	外：口縁部ヨコナデ。胴肩部からヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。	
3	床	須恵器	羽釜	口縁～胴部 (1/7)	(26.4)・－・(15.0)	酸化気味	にぶい黄色	結晶片岩・雲母・白色粒子・黒色粒子	輪積成形、ロクロ整形。鍔貼付け。	
4	床	須恵器	甑	体～裾部 (1/4)	－・(21.8)・(9.0)	酸化気味	にぶい黄橙色	結晶片岩・雲母・白色粒子・黒色粒子	裾部ロクロナデ。体部ナデ。	

11 号住居跡出土遺物（第 36 図）

掲載No.	出土位置	種別	器種	部位（残存）	口径・底径・器高 (cm) 長さ×幅×厚さ (cm)	焼成	色調	混入物	成・整形技法	備考
1	カマド	須恵器	坏	口縁～底部 (1/4)	(10.2)・(5.2)・2.9	酸化気味	にぶい黄橙色	角閃石・白色粒子・赤色粒子	ロクロ成型。底部回転糸切り。	
2	カマド	須恵器	埦	体下～高台部	－・7.6・(2.6)	酸化気味	浅黄色	雲母・角閃石・白色粒子	ロクロ成型。	
3	カマド	須恵器	皿	口縁～底部 (1/2)	(14.2)・－・(3.0)	酸化	明黄褐色～橙色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	ロクロ成型。	高台部欠損。
4	カマド	須恵器	羽釜	口縁部	－・－・(8.2)	酸化	橙色	結晶片岩・雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	ロクロ成形後、鍔貼付け。	
5	カマド	須恵器	羽釜	胴部	－・－・(16.7)	酸化気味	にぶい橙～色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	外:胴部上半部ロクロナデ。下半部ヘラケズリ。 内：胴部上半部ロクロナデ。下半部ナデ。	

12 号住居跡出土遺物（第 38 図）

掲載No.	出土位置	種別	器種	部位（残存）	口径・底径・器高 (cm) 長さ×幅×厚さ (cm)	焼成	色調	混入物	成・整形技法	備考
1	床	土師器	坏	口縁～体部 (1/4)	(13.3)・－・(3.9)	酸化	明赤褐色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	外：口辺部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内：口辺部ヨコナデ。	
2	床	土師器	坏	口縁～体部	－・－・(3.5)	酸化	橙色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	外：口辺部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内：口辺部ヨコナデ。	
3	床	土師器	坏	口縁～体部	－・－・(3.6)	酸化	明赤褐色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	外：口縁部ヨコナデ。体上位に指頭痕。 内：口辺部ヨコナデ。	
4	床	土師器	小甕	口縁～体部	－・－・(62)	酸化	にぶい赤褐色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	外：口辺部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。体部ミガキ。	
5	床	土師器	壺	口縁部 (1/6)	18.3・－・(6.5)	酸化	にぶい黄橙色	雲母・角閃石・白色粒子	外：頸部にに段あり。	
6	床	土師器	小壺	胴～底部 (1/2)	－・(4.7)・(9.0)	酸化	にぶい黄橙色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	外：ナデ。 内：ヘラナデ、ナデ。	
7	カマド	土師器	甕	胴下～底部	－・6.7・(4.9)	酸化	にぶい黄色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	外：胴部ヘラケズリ。 内：ヘラナデ、ナデ。	
8	カマド	土師器	甕	胴～底部 (1/4)	－・(9.7)・(12.5)	酸化	にぶい黄橙色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	外：胴部ヘラケズリ。 内：ヘラナデ、ナデ。	
9	床	土師器	甕	口縁～肩部	－・－・(5.4)	酸化	にぶい黄橙色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	外：口辺部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。 内：口辺部ヨコナデ。	
10	カマド	土師器	甕	頸～胴部 (1/3)	－・－・(19.4)	酸化	橙色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	外：胴部ヘラケズリ。 内：胴部ヘラナデ、ナデ。	

6 号住居跡出土遺物（第 40 図）

掲載No.	出土位置	種別	器種	部位（残存）	口径・底径・器高 (cm) 長さ×幅×厚さ (cm)	焼成	色調	混入物	成・整形技法	備考
1	覆土	須恵器	坏	口縁～高台部 (1/8)	(13.8)・(7.5)・2.8	還元	灰色	結晶片岩・雲母・白色粒子	ロクロ成形後、高台貼付。	
2	覆土	須恵器	坏	口縁～底部 (1/6)	(13.6)・(6.2)・(3.8)	還元	灰色	白色粒子	ロクロ成形。	
3	覆土	土師器	坏	口縁～体部 (1/8)	(12.0)・－・(4.2)	酸化	橙色	雲母・白色粒子	外：口縁部ヨコナデ。 内：ミガキ、黒色処理。	

23 号住居跡出土遺物（第 41 図）

掲載No.	出土位置	種別	器種	部位（残存）	口径・底径・器高 (cm) 長さ×幅×厚さ (cm)	焼成	色調	混入物	成・整形技法	備考
1	覆土	土師器	坏	口縁～底部 (1/8) (1/8)	(12.2)・－・(3.9)	酸化	橙色	雲母・角閃石・白色粒子	外：口縁部ヨコナデ。体下部ヘラケズリ？ 内：口縁部ヨコナデ。体部ナデ	

10 号住居跡出土遺物（第 43 図）

掲載No.	出土位置	種別	器種	部位（残存）	口径・底径・器高 (cm) 長さ×幅×厚さ (cm)	焼成	色調	混入物	成・整形技法	備考
1	覆土	土師器	甕	口縁～胴部 (1/6)	－・－・16.2	酸化	にぶい黄橙色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	外：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。 内：口辺部ヨコナデ。	
2	覆土	土師器	甕	胴～底部 (1/4)	－・(8.8)・(3.3)	酸化	にぶい褐色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	外：底面中心部剥離。 内：ナデ。	

24 号住居跡出土遺物（第 45 図）

掲載No.	出土位置	種別	器種	部位（残存）	口径・底径・器高 (cm) 長さ×幅×厚さ (cm)	焼成	色調	混入物	成・整形技法	備考
1	床	石製品	管玉	完形	0.21 × 0.75		暗緑灰色		片面穿孔。古墳時代後期	碧玉。孔径:上 2.1㎜、下 1.2㎜・長さ 20.7㎜。重量:2g。
2	床	土師器	坏	口縁～底部	－・－・(3.5)	酸化	にぶい橙色	雲母・角閃石・赤色粒子	外：口辺部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内：口辺部ヨコナデ。内：僅かに黒色付着物。	
3	掘方	土師器	坏	口縁～底部	－・－・(3.4)	酸化	にぶい黄橙色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	外：口辺部ロクロナデ。体部ヘラケズリ。 内：口辺部ヨコナデ。	

25 号住居跡出土遺物（第 48 図）

掲載No	出土位置	種別	器種	部位（残存）	口径・底径・器高 (cm) 長さ×幅×厚さ (cm)	焼成	色調	混入物	成・整形技法	備考
1	床	土師器	坏	口縁～底部 (3/4)	(11.4)・－・4.6	酸化	橙色	角閃石・白色粒子・赤色粒子	外：口辺部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内：口辺部ヨコナデ。外：残る？	口辺部に赤彩か？
2	床	土師器	坏	口縁～底部 (1/6)	(13.0)・－・(5.0)	酸化	明赤褐色	石英・雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	外：口辺部ヨコナデ。体部に指頭痕。 内：口辺部ヨコナデ後、斜め方向の暗文。	
3	掘方	土師器	坏	口縁～底部	－・－・(3.7)	酸化	明褐色	雲母・白色粒子・赤色粒子	外：口辺部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内：口辺部ヨコナデ。	
4	掘方	土師器	坏	口縁～底部 (1/8)	－・(3.7)・－	良	明褐～にぶい橙	砂・細砂・雲母・白色粒子・赤色粒子	外：口辺部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内：口辺部ヨコナデ。	

7 号住居跡出土遺物（第 49 図）

掲載No	出土位置	種別	器種	部位（残存）	口径・底径・器高 (cm) 長さ×幅×厚さ (cm)	焼成	色調	混入物	成・整形技法	備考
1	掘方	土師器	坏	口縁～体部 (1/3)	(11.0)・－・(4.5)	酸化	明褐色	雲母・赤色粒子	外：口辺部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内：口辺部ヨコナデ。内：疎らに黒色付着物。	
2	掘方	土師器	坏	口縁～体部	－・－・(4.8)	酸化	橙褐色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	外：口縁部付近ヨコナデ。体部中位に指頭痕。 内：口縁部ヨコナデ。体部に暗文。	

26 号住居跡出土遺物（第 53 図）

掲載No	出土位置	種別	器種	部位（残存）	口径・底径・器高 (cm) 長さ×幅×厚さ (cm)	焼成	色調	混入物	成・整形技法	備考
1	覆土	土師器	坏	口縁～体部	－・－・(3.7)	酸化	明赤褐色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	外：口縁部ヨコナデ。 内：口辺部ヨコナデ。口縁～体部に暗文。	
2	覆土	土師器	坏	口縁～体部	－・－・(3.0)	酸化	褐色	雲母・白色粒子	外：口辺部ヨコナデ。 内：口辺部ヨコナデ。体部に暗文。	

3 号土坑出土遺物（第 55 図）

掲載No	出土位置	種別	器種	部位（残存）	口径・底径・器高 (cm) 長さ×幅×厚さ (cm)	焼成	色調	混入物	成・整形技法	備考
1	覆土	須恵器	坏	完形	10.0・4.5・2.95	良	浅黄橙色	雲母・白色粒子・褐色粒子	ロクロ成形。底部右回転糸切り。	
2	覆土	灰釉陶器	坏	ほぼ完形	13.2・6.4・4.9	良好	灰白色	白色粒子	底部回転糸切り後、高台貼付け。 口縁～体部に灰釉。付かけ	東濃産。

4 号土坑出土遺物（第 55 図）

掲載No	出土位置	種別	器種	部位（残存）	口径・底径・器高 (cm) 長さ×幅×厚さ (cm)	焼成	色調	混入物	成・整形技法	備考
1	覆土	土師器	坏	口縁～底部 (1/3)	10.6・－・2.7	酸化	橙色	雲母・角閃石・白色粒子	外：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内：ナデ。	

99 号土坑出土遺物（第 55 図）

掲載No	出土位置	種別	器種	部位（残存）	口径・底径・器高 (cm) 長さ×幅×厚さ (cm)	焼成	色調	混入物	成・整形技法	備考
1	覆土	土師器	坏	口縁～体部 (2/3)	(11.4)・－・3.3	酸化	橙色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	外：口縁部ヨコナデ。 内：ナデ。	

34 号土坑出土遺物（第 55 図）

掲載No	出土位置	種別	器種	部位（残存）	口径・底径・器高 (cm) 長さ×幅×厚さ (cm)	焼成	色調	混入物	成・整形技法	備考
1	覆土	土師器	坏	口縁～底部 (2/3)	12.4・－・(5.0)	酸化	にぶい橙色	雲母・白色粒子・赤色粒子	外：口辺部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内：口辺部ヨコナデ。	

70 号土坑出土遺物（第 55 図）

掲載No	出土位置	種別	器種	部位（残存）	口径・底径・器高 (cm) 長さ×幅×厚さ (cm)	焼成	色調	混入物	成・整形技法	備考
1	覆土	土師器	坏	口縁～底部 (3/4)	14.1・－・5.6	酸化	明赤褐色	石英・角閃石・白色粒子・赤色粒子	外：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ・ナデ。 内：口縁部ヨコナデ。体部に暗文。	

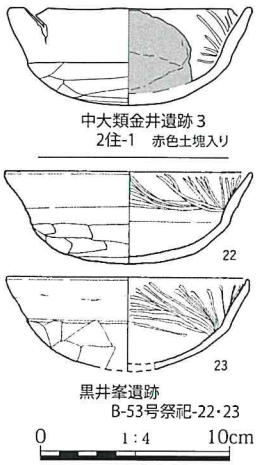
遺構外出土遺物（第 59 図）

掲載No	出土位置	種別	器種	部位（残存）	口径・底径・器高 (cm) 長さ×幅×厚さ (cm)	焼成	色調	混入物	成・整形技法	備考
1	住居混入	土師器	壺	口縁部	－・－・(3.4)	酸化	橙色	雲母・角閃石・白色粒子・赤色粒子	口縁に 2 つの突起、矢羽状の縄目文。	
2	溝混入	土師器	S 字甕	胴部	0.4・－・－・	酸化	にぶい橙色	白色粒子	外：口縁部ナデ。胴部ハケ。 内：口縁ナデ。	
3	住居混入	灰釉陶器	段皿	口縁～高台部 (1/6)	(13.8)・(7.4)・2.6	良好	灰黄色	雲母	ロクロ成形。内面に重ね焼き痕。	台形高台。
4	包含層	緑釉陶器	皿か	底部～高台部	－・－・(1.4)	良好	灰黄（胎土） オリーブ灰（釉）		ロクロ成形。内外面に施釉。	
5	住居混入	縄文土器		胴部破片	1.1・－・－・	良	にぶい黄褐色	白色粒子多量・金雲母	半裁竹管による押し引きにより横位に波状文を作出。	中期前葉。
6	住居混入	縄文土器		胴部破片	1.4・－・－・	良	明赤褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子	縦位に隆帯を貼り付け地文は半裁竹管による多条隆起線を施す。	内面に赤彩わづかに残る。 中期前葉。
7	土坑混入	縄文土器		胴部破片	1.0・－・－・	良	にぶい橙色	金雲母多量・白色粒子・砂粒	三角区画隆帯の両縁にペン先状の工具による連続刺突を施す。	阿玉台Ⅱ。
8	住居混入	縄文土器		胴部破片	0.8・－・－・	良	にぶい褐色	金雲母多量・白色粒子・砂粒	楕円貼付隆帯の頂部を指頭で凹を施す。 区画内はナデ成形。	阿玉台Ⅱ。
9	土坑混入	縄文土器	深鉢	口縁部破片	1.2・－・－・	良	橙色	砂粒・角閃石	口縁直下に半裁竹管による横帯区画を施し内部に縄文を施文。キャリパー。	中期後葉。加曽利 E。
10	住居混入	縄文土器	深鉢	胴部破片	1.2・－・－・	良	橙色	赤色粒子・砂粒・白色粒子	三角楕円隆帯区画内に爪形文を連続。部分的にペン先状の刺突文も併用。	中期前葉。内面に赤彩わづかに残る。勝坂Ⅱ。
11	住居混入	縄文土器		胴部破片	1.1・－・－・	良	明赤褐色	金雲母・細砂粒・白色粒子	偏平な隆帯を曲線状に施し、爪形文と隆起線を縁辺に施文。	中期前葉。 阿玉台。
12	土坑混入	縄文土器		胴部破片	1.4・－・－・	良	明赤褐色	白色粒子・金雲母・砂粒	隆起帯区画、半裁竹管による横位に沈線。	中期。形式不明。
13	溝混入	縄文土器	深鉢	口縁部破片	0.8・－・－・	良	明赤褐色	白色粒子・細砂粒	口縁は平縁でやや外そぎ状となる。キャリパー。半裁竹管により縦位に帯状（逆 U 字）の隆起線を施す。	中期。形式不明。

第Ⅴ章　まとめ

1．2号住居跡出土の赤色土塊について

本遺跡の2号住居跡では土師器の坏に入った赤色土塊が出土した。土師器の坏の半片は住居壁際で赤色土塊が入った状態で確認され、もう半部はカマドの南にある土器集中部から出土し、接合しほぼ1個体となった。この坏は須恵器の蓋模倣の坏で、底部は丸みが強く、稜はやや弱い、口縁部は外反して開く。内面には渦状の箆研磨がなされている。これに類似する坏は6世紀中頃に降下したＦＰに覆われた黒井峯遺跡のＢ-53祭祀遺構などの事例がある。赤色土塊は坏の内面約1/2に偏っており、赤褐（10Ｒ5/4）を呈し、径6cm程度の潰れた球状で、表面はやや粗く3～5mm程度の小礫がみられる。



第60図
中大類金井遺跡3と黒井峯遺跡出土の土師器坏

今回、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団、杉山秀宏氏の御好意により金井東裏遺跡出土の赤玉との比較を肉眼で行うことができた。なお、現時点で金井東裏遺跡は未報告である。金井東裏遺跡出土の赤玉はおおよそ赤橙（10Ｒ6/8）に近く、本遺跡の赤色土塊に比べるとやや赤みが強い。逆に、本遺跡の赤色土塊はやや紫がかっている。表面については本遺構の赤色土塊はやや粗い表面であるが、金井東裏遺跡の赤玉はやや細かな粒子で整っている。ただし、金井東裏の割れ口部はやや粗く、小礫がみられ、本遺構の赤色土塊の表面と類似している。

本遺跡の赤色土塊は坏に入った状態で出土した。一方、これまで県内で出土している赤玉は団子状に固められたものである。また、金井東裏遺跡出土した赤玉との肉眼による比較では色調、表面には違いが見られた。しかし、本遺跡の赤色土塊は、おおむね赤色であることともに、小礫を含む塊であり、金井東裏の赤玉の内部に近い。この点から見れば、肉眼観察では本遺跡の赤色土塊は赤玉、あるいは赤玉に近い土塊とみることができる。今後は自然科学分析を行い、前例の赤玉との比較を行う必要がある。

2．住居跡の年代

本遺跡では25軒の住居跡が確認された。これらの住居跡はおおよそ古墳時代の後期から平安時代にかけての住居跡であり、特に古墳時代の後期と、平安時代の10世紀後半から11世紀代にかけての住居跡がピークとなっている。各住居跡は遺構の切り合いや、出土遺物から年代を推定し、第4表にまとめている。

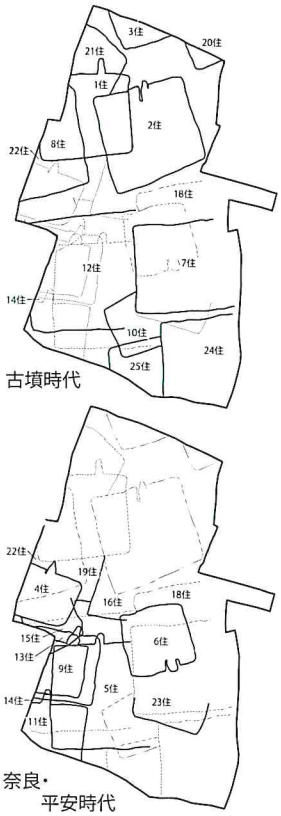
古墳時代と想定される住居跡は本調査区内のほぼ全面で確認されおり住居1軒あたりの規模が大きい。一方、平安時代の住居跡は調査区の北西部に集中し、比較的狭い範囲で数回の建て替えを繰り返した傾向がみられる。なお6号・23号住居跡は上記の2つのピークとは異なる時期であり、遺構数も少ない。ただし両住居跡ともに出土遺物は少なく、明確な年代としがたい。

第4表　住居跡の年代

古墳時代住居跡	
8号住居跡	5世紀後~6世紀前
3号住居跡	5世紀後~6世紀前
21号住居跡	6世紀前
1号住居跡	6世紀前
26号住居跡	6世紀前
2号住居跡	6世紀前~中
12号住居跡	6世紀後
7号住居跡	6世紀後
25号住居跡	6世紀後
10号住居跡	6世紀後
20号住居跡	6世紀
24号住居跡	6世紀後~7世紀前

奈良・平安時代住居跡	
23号住居跡	7世紀後~8世紀前
6号住居跡	9世紀後
11号住居跡	10世紀前
15号住居跡	10世紀後
4号住居跡	10世紀後
13号住居跡	10世紀後
19号住居跡	10世紀後
16号住居跡	10世紀後
9号住居跡	11世紀前
5号住居跡	11世紀前か

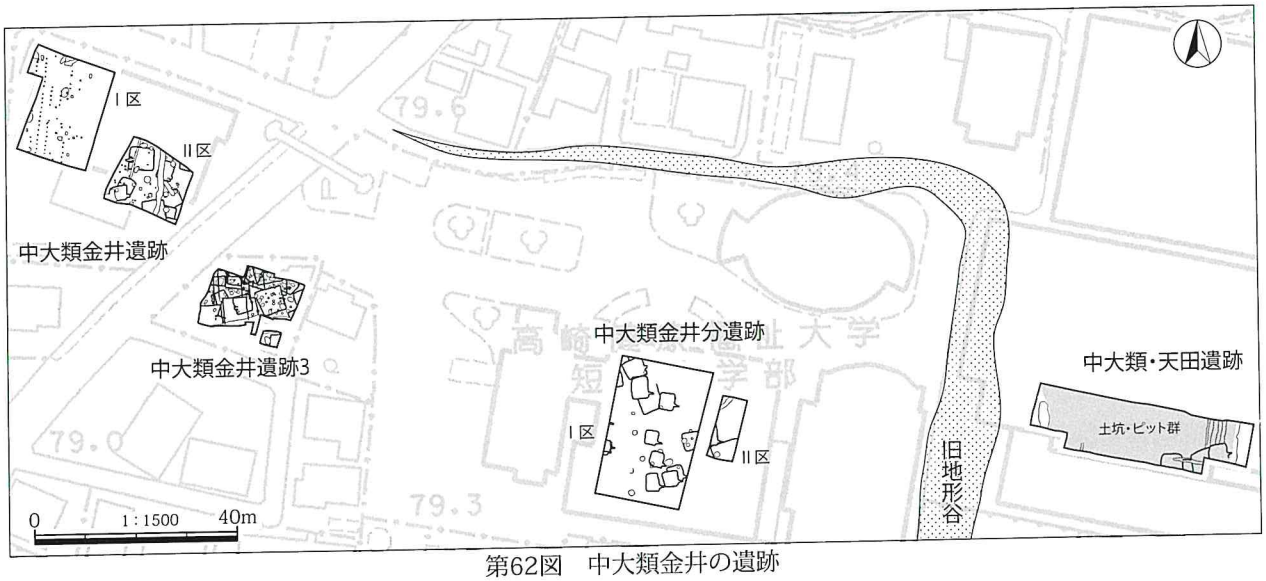
時期不明住居跡	
14号住居跡	8住より新しい。 4住に切られる。
18号住居跡	6住に切られる。
22号住居跡	11・13住に切られる。



第61図　住居跡の変遷

3．周辺の遺跡

本遺構の周辺では高崎健康福祉大学敷地内において発掘調査が行われている。本遺跡の北西 30m には中大類金井遺跡、東 70m には中大類金井分遺跡、さらに東に 70m には中大類・天田遺跡がある。これらの遺跡では本遺跡同様、古墳時代から平安時代の住居跡が確認されており、中大類金井遺跡で 10 軒、中大類金井部分遺跡で 17 軒、中大類・天田遺跡で 4 軒がそれぞれ確認されている。このため本遺跡を含めた台地一帯は古墳時代から平安時代にかけての集落であったことが想定される。その範囲は本遺跡から西は約 40m の中大類金井遺跡のⅡ区までとみられ、東は中大類金井分遺跡を含み、本遺構から東に 140m ある旧地形の谷または、さらに中大類・天田遺跡を超える範囲であった可能性もある。特に古墳時代後期の住居跡においては本遺跡の密度が高く、集落中心であった可能性がある。



第62図　中大類金井の遺跡

4．総括

本遺跡では調査区のほぼ全面で住居跡、土坑、溝などが確認された。住居跡は古墳時代後期と平安時代である 10 世紀後半から 11 世紀代にかけての二つの時期がそのピークであった。この中で古墳時代の住居跡としては 1 号住居跡ではカマドに据え付けられた状態の土師器の甕や、坏などがあり、この時期の典型的な遺物組成であった。また 2 号住居跡では土師器の坏に盛られた状態で見つかった赤色土塊がある。この赤色土塊はいわゆる「赤玉」の可能性があり、赤玉であるならば、伊勢崎市の本関町古墳群、中之条町の伊勢町地区遺跡群、渋川市の金井東裏遺跡に次ぐ発見である。本遺跡では住居跡から出土し、坏に盛られた状況であり、赤玉の使用例とし貴重な事例となる。

一方、平安時代においては、4 号住居跡では灰釉陶器と須恵器の坏や碗のセットが出土し、3 号土坑でも灰釉碗と須恵器の坏が完形の状態で確認されている。また、9 号住居では 11 世紀代の須恵器の坏と碗類などが見られ、中大類周辺の遺跡群としてはある程度まとまった資料となった。

中世に関わる遺構としては 3 号溝がある。遺構は東西に延長するものと推定され、B 混土層により埋没しており、明治時代の地引絵図や戦前の航空写真などではその痕跡は確認できなかった。周辺には本遺構の東にある中大類・天田遺跡は堀や掘立建物跡群からなる中世の館とみられ、さらに谷を挟んだ東には降照屋敷がある。3 号溝はこのような館・屋敷などのあった時期の遺構とみられ、館・屋敷周辺の開発のための水路の可能性や、3 号溝自体が館・屋敷の堀であった可能性も考えられる。

参考文献

高崎市遺跡調査会　『中大類金井分遺跡』　1992　高崎市遺跡調査会

高崎市遺跡調査会　『中大類金井遺跡』　1989　高崎市遺跡調査会

水谷貴之　『中大類・天田遺跡』　2011　高崎市教育委員会

山武考古学研究所　『中大類沖田遺跡』　2000　高崎市遺跡調査会

高崎市教育委員会　『高崎市内遺跡緊急埋蔵文化財発掘調査報告書』　1989　高崎市教育委員会

福嶋正史　『下大類・中道下遺跡』　2010　高崎市教育委員会

山武考古学研究所　『下大類蟹沢遺跡』　1993　高崎市遺跡調査会

高崎市教育委員会社会教育課文化財保護課　『元島名将軍塚古墳』　1981　高崎市教育委員会

高崎市教育委員会社会教育課文化財保護課　『元島名遺跡』　1979　高崎市教育委員会

山武考古学研究所　『高崎情報団地遺跡』　1992　高崎市遺跡調査会

角田真也　『高崎情報団地Ⅱ遺跡』　2002　高崎市教育委員会

高崎市教育委員会社会教育課文化財保護係　『宿大類遺跡群Ⅵ　万相寺遺跡』　1985　高崎市教育委員会

高崎市教育委員会社会教育課文化財保護係　『宿大類遺跡群 (5)　天神久保遺跡』　1985　高崎市教育委員会

高崎市教育委員会社会教育課文化財保護係　『宿大類遺跡群 (3)　鳥山・天神遺跡』　1984　高崎市教育委員会

関口修、斎藤寛方、鷺谷亨信　『南大類東沖・稲荷遺跡』　1997　高崎市教育委員会

高崎市教育委員会社会教育課文化財保護係　『柴崎遺跡群Ⅴ』　1989　高崎市教育委員会

高崎市教育委員会　『柴崎吹手Ｂ・吹手西Ｄ遺跡』　1997　高崎市教育委員会

高崎市史編さん委員会　『新編高崎市史　資料編１　原始古代』　1999 高崎市

高崎市史編さん委員会　『新編高崎市史　資料編２　原始古代２』　2000　高崎市

高崎市史編さん委員会　『新編高崎市史　資料編３　中世１』　1996　高崎市

須田正久、石田典子　『本関町古墳群・関遺跡 (2)』　群馬県埋蔵文化財調査事業団

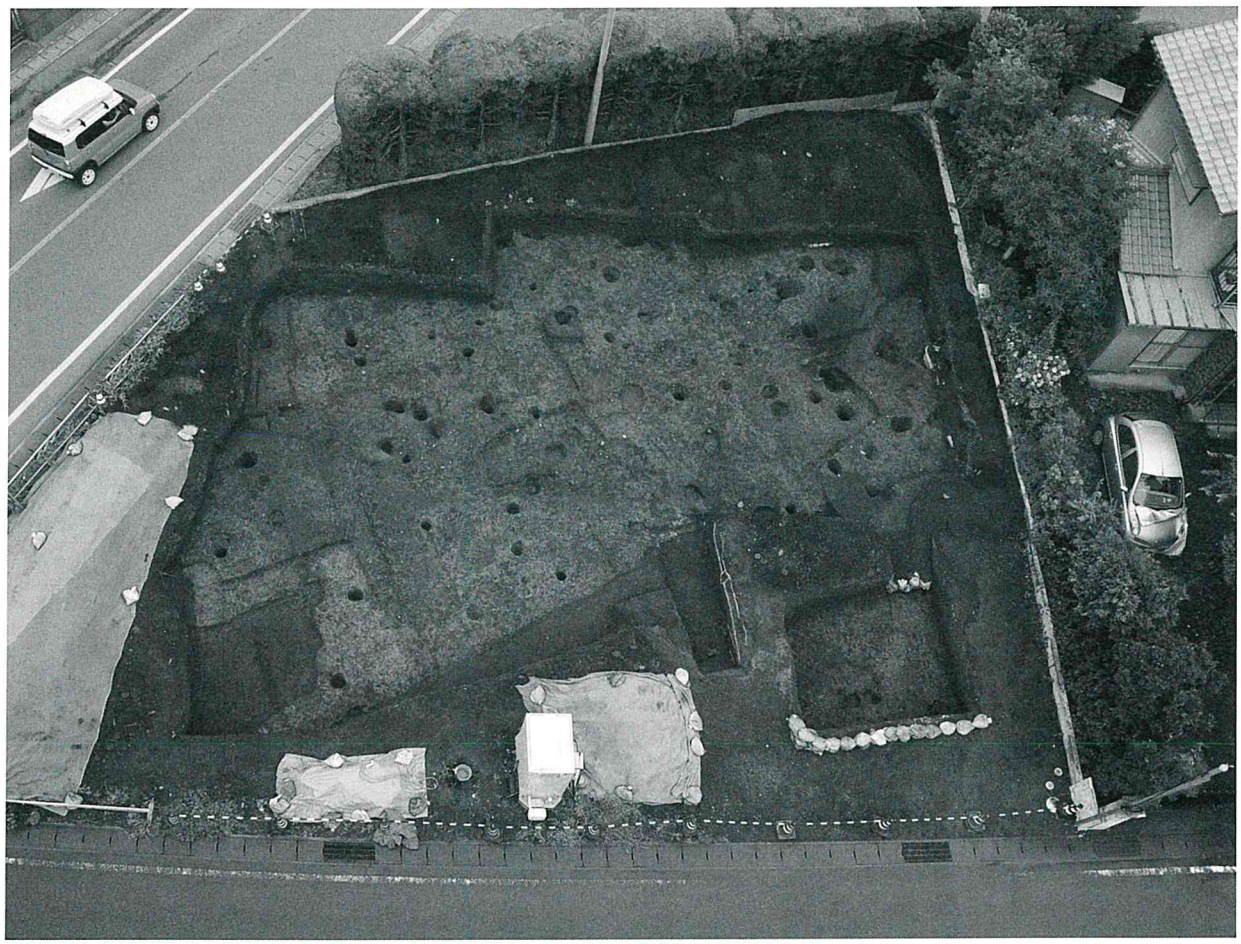
石井克己　『黒井峯遺跡発掘調査報告書』　1991　子持村教育委員会

坂口　一　「古墳時代後期の土器の編年」『群馬文化　208 号』　1986　群馬県地域文化研究協議会

坂口　一　「奈良・平安時代の土器の編年」『群馬県史研究　24 号』　1987　群馬県史編さん委員会

写　真　図　版

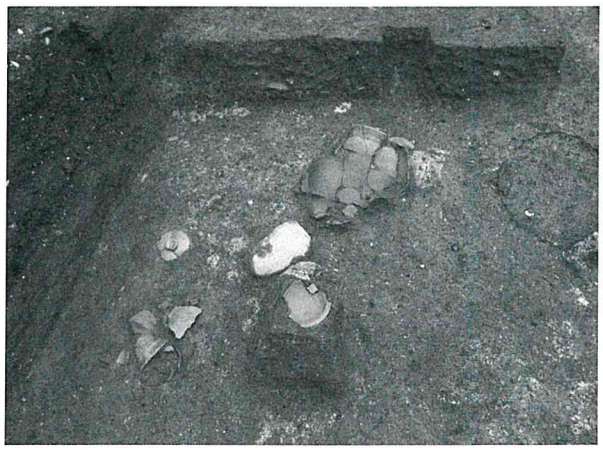
図版１



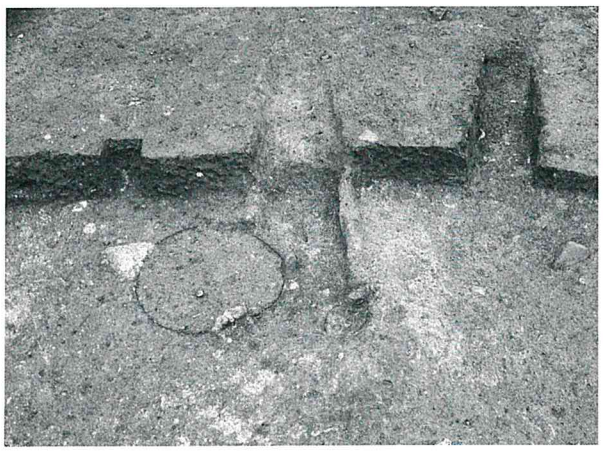
１．　調査区全景　南から（写真は南北の調査区を合成した）

２．　１号住居跡　西から

３．　１号住居カマド遺物出土状況　西から



４．　１号住居跡遺物集中部　西から



５．　１号住居跡カマド　西から

１．　２号住居跡　西から

２．　１号住居跡出土遺物　西から

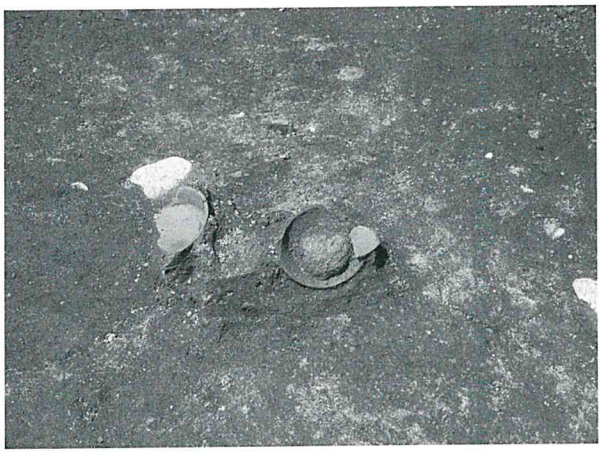
３．　２号住居跡カマド　西から

４．　８号住居跡　西から

５．　21 号住居跡　西から

６．　４号住居跡　西から

７．　４号住居跡遺物出土状況　西から

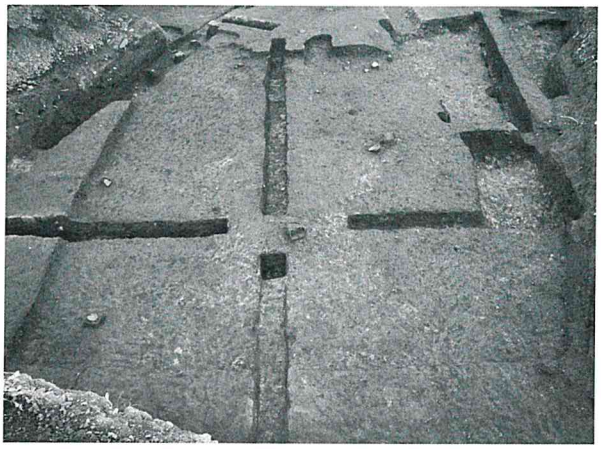


８．　22 号住居跡床面の炭範囲　西から

図版３

１．　16号・17号住居跡　西から

２．　３号住居跡　南から



３．　５号住居跡　西から

４．　５号住居跡遺物出土状況　近接

５．　５号住居跡カマド　西から

６．　９号住居跡　西から

７．　９号住居跡カマド遺物出土状況　東から

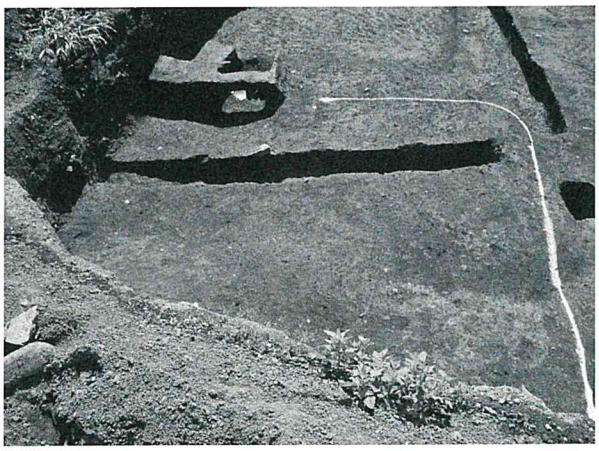
８．　９号住居跡カマド　東から

1．　13 号住居跡　西から

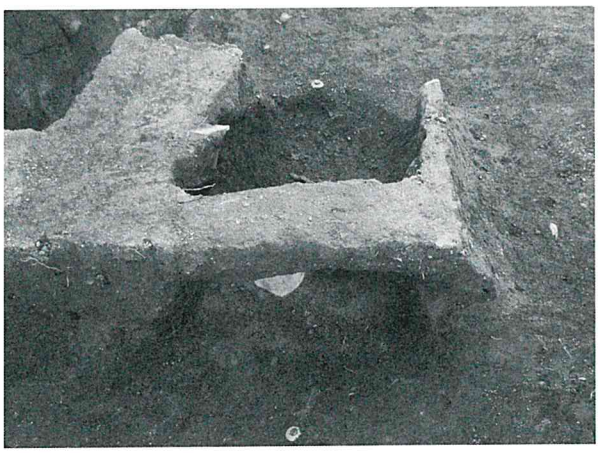
2．　13 号住居跡遺物出土状況　西から

3．　13 号住居跡遺物集中部　直上から

4．　15 号住居跡　西から



5．　11 号住居跡　西から



6．　11 号住居跡カマド天井部　西から

7．　11 号住居跡カマド　西から

8．　15 号住居跡カマド　西から

図版５

１．　12 号住居跡遺物出土状況　西から

２．　12 号住居跡カマドと 12 号土坑の切り合い　西から

３．　６号住居跡北部　南から

４．　６号住居跡カマド　東から

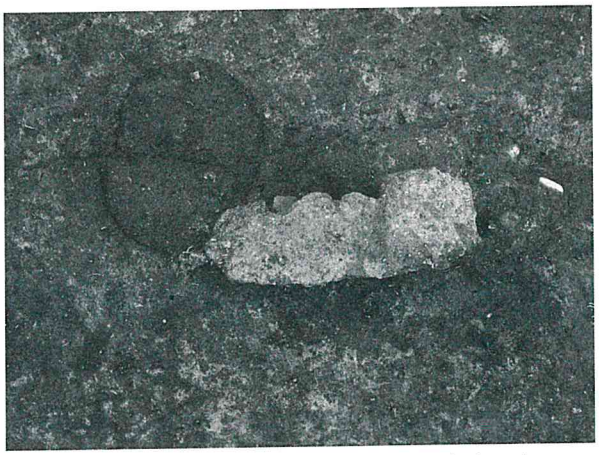
５．　23 号住居跡床面の残存　西から

６．　10 号住居跡　西から

７．　24 号住居跡　西から

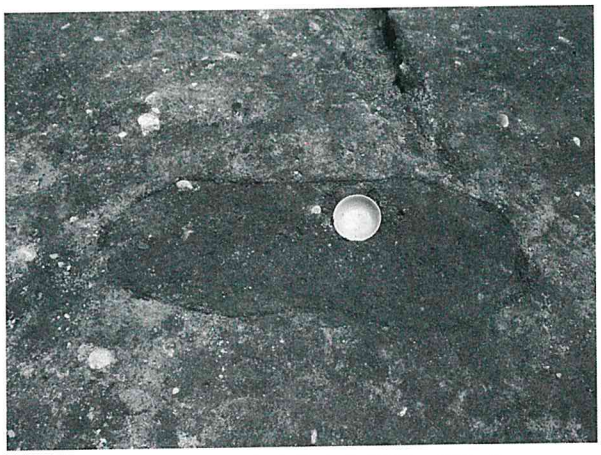
８．　24 号住居跡カマド　西から

１．　25 号住居跡　西から



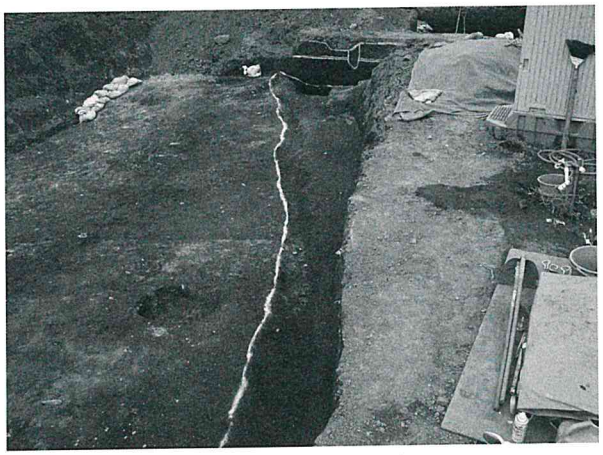
２．　25 号住居跡カマド天井部　直上から

３．　７号住居跡掘方　西から



４．　３号土坑遺物出土状況　西から

５．　34 号土坑　東から



６．　１号・２号溝　東から

７．　３号溝　西から

８．　３号溝底面確認トレンチ　南から

図版７

１号住居跡

1

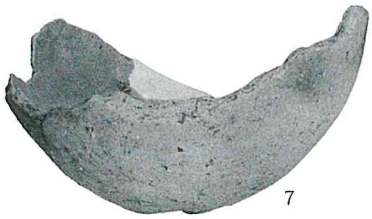
2

3

4

5

6

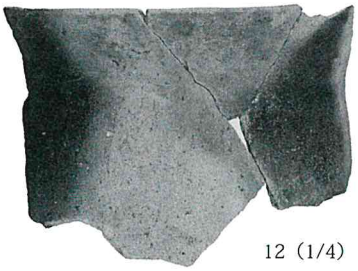

7

8（1/4）

9（1/4）

11（1/4）

10（1/4）


12（1/4）

13（1/4）

２号住居跡

1

2

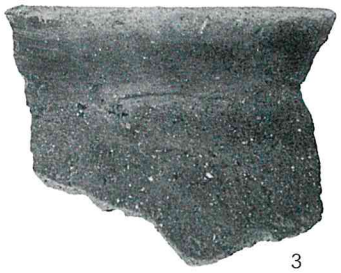
８号住居跡

1

21 号住居跡

1

2

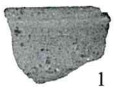

3

４号住居跡

１６号住居跡

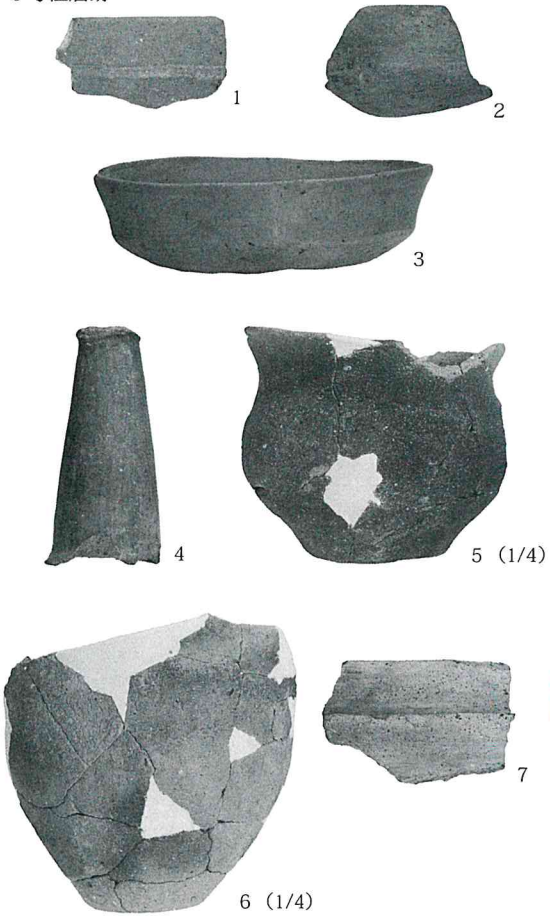
１９号住居跡

３号住居跡

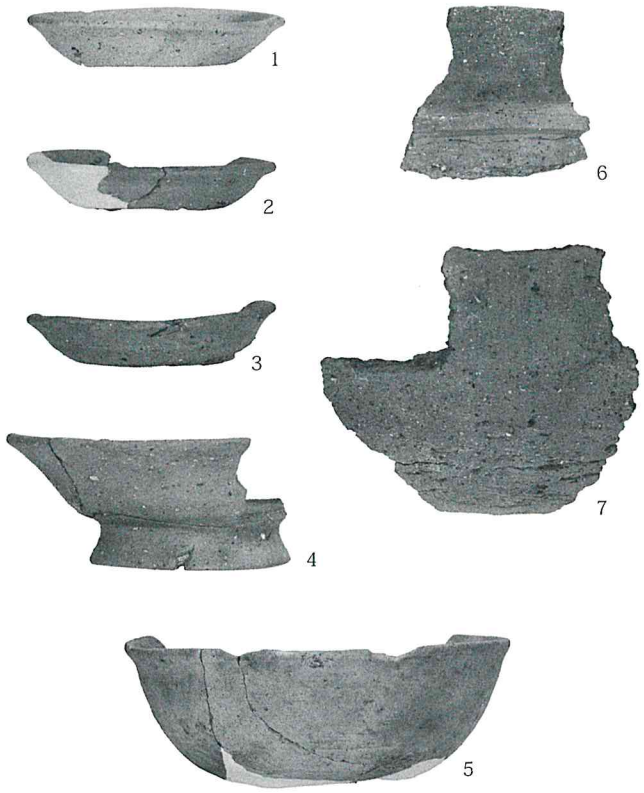


２０号住居跡

５号住居跡

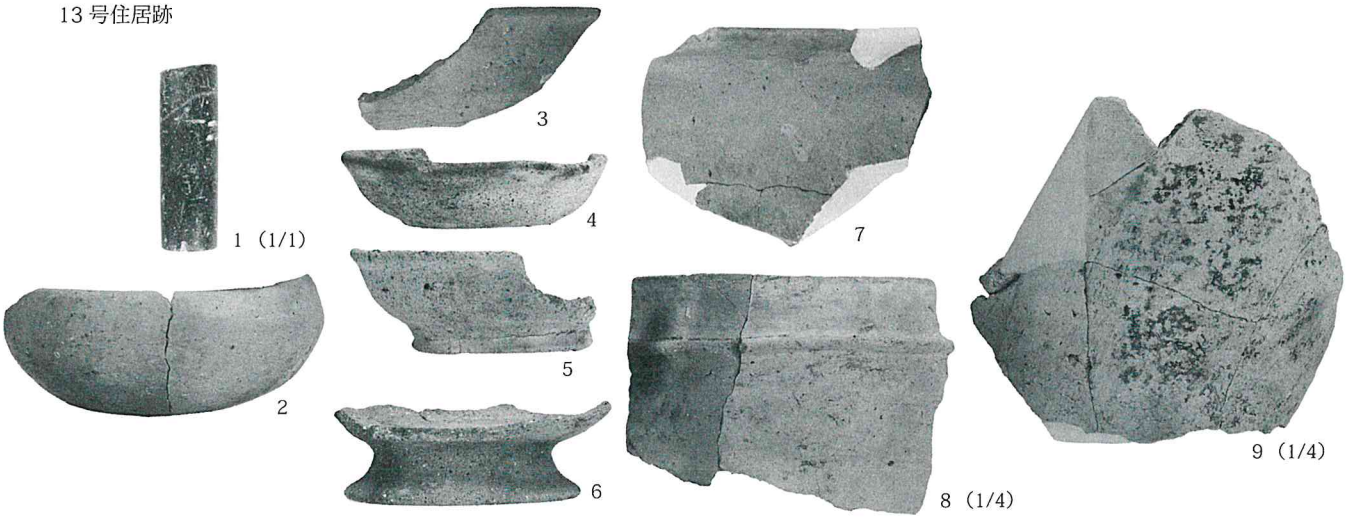


９号住居跡

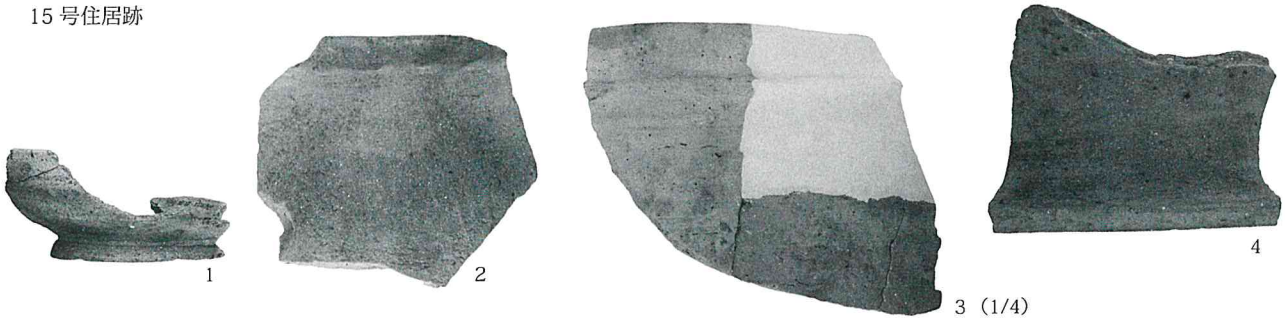


図版９

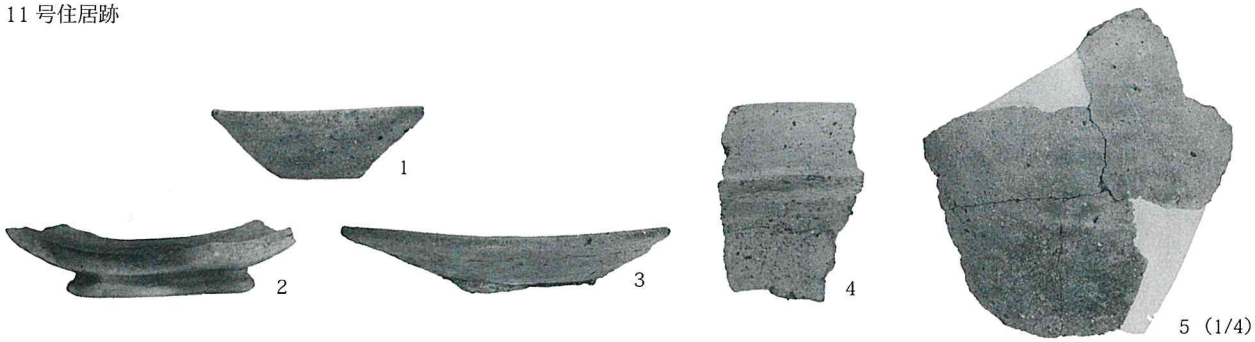
13 号住居跡



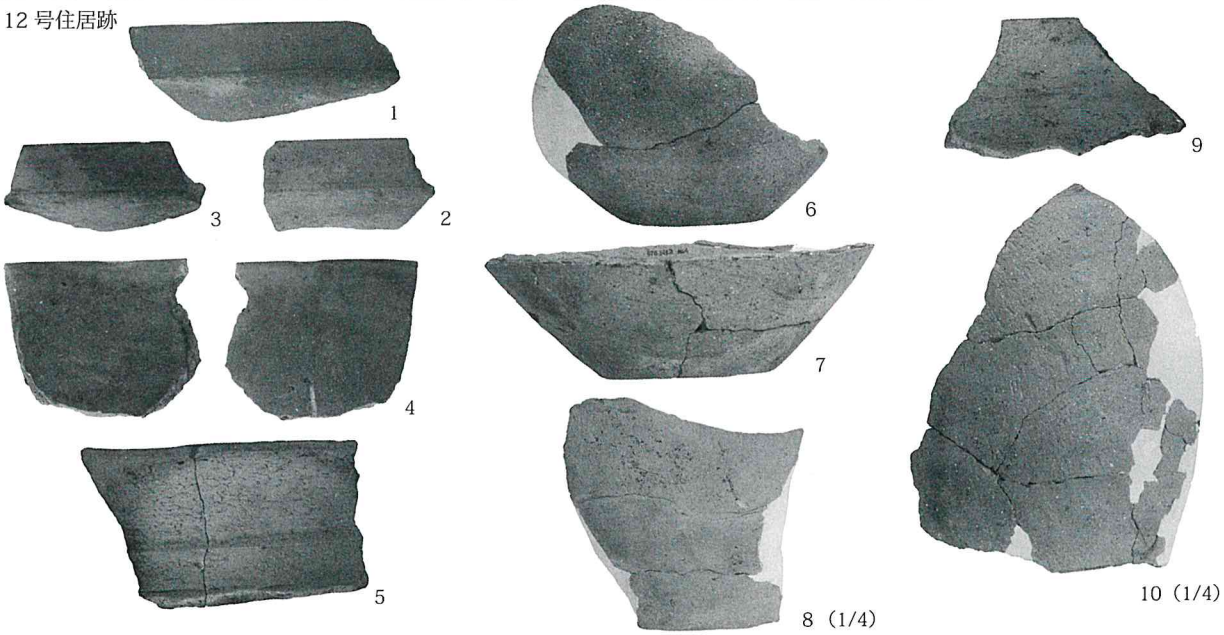
15 号住居跡



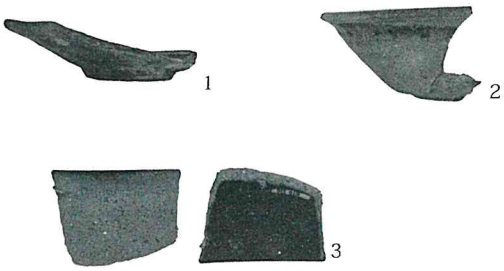
11 号住居跡



12 号住居跡

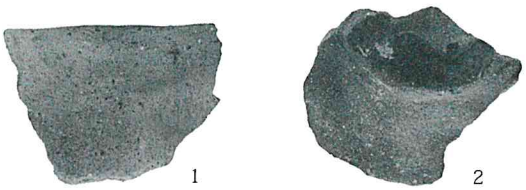


6 号住居跡

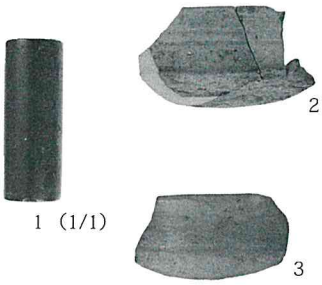


23 号住居跡

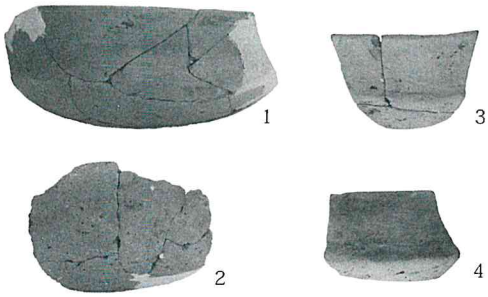
10 号住居跡



24 号住居跡



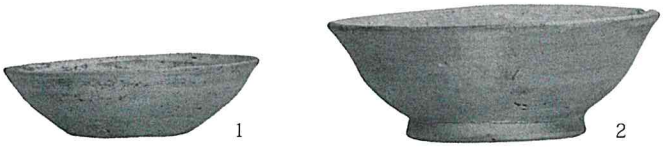
25 号住居跡



7 号住居跡

26 号住居跡

3 号土坑



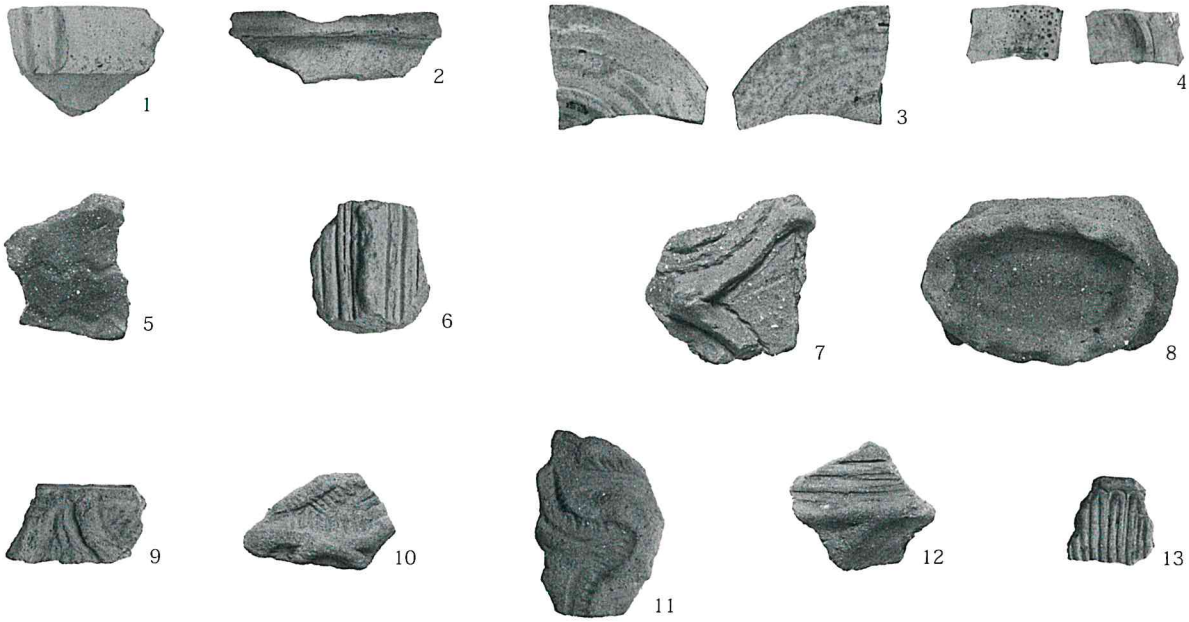
4 号土坑

99 号土坑

34 号土坑

70 号土坑

遺構外遺物



報告書抄録

ふりがな	なかおおるいかないいせきさん
書名	中大類金井遺跡３
副書名	集合住宅の建設に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第３９１集
編著者名	青木利文
編集機関	山下工業株式会社
	〒371-0244　群馬県前橋市鼻毛石町 207-8
発行機関	高崎市教育委員会　文化財保護課
発行年月日	2017 年 6 月 30 日

所収遺跡	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査対象面積	調査原因
中大類金井遺跡３（なかおおるいかないいせきさん）	群馬県高崎市（ぐんまけんたかさきし） 中大類町金井分（なかおおるいかないぶん） 509 番（ばん）3	102020	676	36° 19' 23"	139° 03' 31"	2016.06.01 ～ 2016.07.15	192.3㎡	集合住宅建設

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中大類金井遺跡３	包含層	縄文時代	なし	縄文土器	遺構は確認できず、中期の遺物。
	集落	古墳時代 ～ 平安時代	住居跡　25 軒 土坑　92 基	土師器 須恵器 赤色土塊 砥石	古墳前期は遺物のみ。後期住居は 12 軒。2 号住居跡からは土師器の坏に盛られ状態の赤色土塊（赤玉か）が確認される。 平安時代の住居は 10 軒。10 世紀後半から 11 世紀代が中心となる。4 号住居跡、3 号土坑は 10 世紀後半とみられる灰釉と須恵器が出土。9 号住居跡は 11 世紀代の須恵器などが出土。
	生産跡	中～近世	溝　3 条	陶磁器類	3 号溝はＢ混土により覆われる。東西方向に延びる。水路または、館、屋敷の堀か。1 号・2 号溝はＡ混土およびＢ混土を含み近世以降の溝。

中大類金井遺跡３

―集合住宅の建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

2017 年 6 月 22 日　印刷
2017 年 6 月 30 日　発行

発　行　高崎市教育委員会
編　集　山下工業株式会社
印　刷　朝日印刷工業株式会社